

平成27年度 日独共同大学院プログラム 事後評価資料

1. 概要

領域	工学	分科	プロセス工学
		細目	生物機能・バイオプロセス
プロジェクト名	(和文) 環境調和を指向した生物および化学プロセスに関する 共同大学院教育プログラム (英文) Graduate Externship Program on Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes		
実施期間 (延長期間を含む)	2010年 4月 1日 ~ 2015年 3月31日 (60か月)		
日本側実施機関名	国立大学法人 大阪大学		
コーディネーター 所属・職・氏名	大学院基礎工学研究科 教授 真島 和志		
参加者数	教員等 58名、学生 108名		
ドイツ側実施機関名	アーヘン工科大学		
コーディネーター 所属・職・氏名	数理情報自然科学研究科・教授・Jun OKUDA		
参加者数	教員等 16名、学生 42名		

2. 目標

終了時評価時に計画した目標とその達成度について記載してください。(2頁以内)

○終了時評価時の目標（終了時評価資料（計画調書）に記載した目標を転載のこと）

本共同大学院プログラムは、従来交流の少なかった生物と化学の両分野において、物質変換プロセスを研究対象とする教員を集め、大学院教育において生物プロセスと化学プロセスの両方の研究分野に精通し、国際的に通用する若手研究者を養成する教育研究体制を構築し実践することを目的としている。

この研究分野は日本とドイツが伝統的に得意とする分野であり、米国とともに世界を先導している研究分野である。中でも、大阪大学およびアーヘン工科大学から参加する教員は、環境調和型の高選択的な反応プロセスの開発で世界のトップレベルにあり、高い評価を得ている研究者である。大阪大学側だけでなく、アーヘン工科大学においても、生物プロセスと化学プロセスの両分野に精通し、国際的に通用する若手研究者を養成することへの要請が高まっていることを踏まえて、大阪大学とアーヘン工科大学の全面的な協力関係を確立することにより、研究上の相乗効果を通じて本研究分野を担う若手研究者を養成することを目指している。

本目的を達成するため、平成 22 年～平成 24 年度の 3 年間に於いて「大学院学生に新たな国際的な教育の機会を与えること、および、若手教員を中心とする教育と国際共同研究の訓練・育成の機会を与えること」といった実践を行ってきた。これらの実績を踏まえ、3 年間の本プログラムにより培った共同大学院プログラムの基盤の上に、さらに、2 年間延長することにより、国際性を標準とする優れた若手研究者を養成するための優れた共同大学院プログラムを、継続性を持つより強固な教育プログラムへと強化することを目指している。

上記の目標達成のために、これまでの 3 年間の実績を踏まえ、項目①～項目⑤に掲げる目標を継続・発展させる。

- ① 大学院学生（毎年 9 名以上）を 10 ヶ月間までの期間アーヘン工科大学へ派遣する。
- ② 教員（毎年 4～5 名）を 1～2 週間派遣し、集中講義・研究指導を行う。
- ③ 若手教員（1 名）を 10 ヶ月間までの期間アーヘン工科大学へ派遣する。
- ④ 平成 25 年度および平成 26 年度の両年度で、日独において国際セミナーを開催する。
- ⑤ 派遣・受入の計画段階で大学院生の指導教授を両大学からそれぞれ 1 名選び指導する体制（ダブル Supervisor 体制）を構築する。

項目①を実践することにより、大学院学生を双方向に派遣・受入することにより、共同研究を行う。さらに、項目②および項目③の実践により、若手教員が英語による講義を一部担当することや、複数回の講演会を行うことにより、大阪大学の若手教員の教育研究レベルを国際的に通用するように促すことを目指している。また、これらに対応したアーヘン工科大学からの博士課程学生の受入および教員の受入を通じた教育機会を最大限に活かし、国際的に通用する教育・研究の向上を目指す。

項目④と項目⑤は、これまで 3 年間の取り組みをより発展させる計画である。項目④は、これまでの実績から、大学院生および若手教員に英語で共同研究成果を発表させる機会を増やすことが教育効果として大きいことがわかってきたので、アーヘンと大阪の両方で国際セミナーを毎年開催する。同時に、これらの機会を持つことにより、大学院生が生物と化学の両方の先端研究に触れる機会をもてるようにする。項目⑤は大学院学生の派遣・受入の計画段階において、大阪大学とアーヘン工科大学の双方から指導教授を選ぶことはこれまでの 3 年間について既に実施してきたが、さらに発展させ、留学期間に限らず、それ以外の期間についても 2 名の指導教授による指導（情報通信手段を用いた研究指導）のもとに大学院教育を進める体制を構築する。これにより、研究指導の結果を可能な限り共同研究（共著論文

による発表) とすることを旨とし、博士論文の作成を相互に指導・評価できる体制を構築し、世界標準の博士養成のプログラムとする。

なお、採択以来、コーディネーターを3年務めた大竹久夫は、平成26年度末に定年退職の予定であり、本プロジェクト終了後にも日独国際交流を継続することを考え、2年間の延長期間については、真島和志を新たなコーディネーターとする。真島は従前から本プロジェクトに参加教員として参画しており、化学プロセスの教員を代表したサブコーディネーターとしての役割を担ってきた。よって、コーディネーターとしての適性は十分である。さらに大竹も延長当初は参加教員として引き続き本プロジェクトに参加する予定であることから、継続性を保ちながらプロジェクトを更に発展させることが可能であり、目標をさらに2年間継続発展させることにより、「生物プロセスと化学プロセスの両方の研究分野に精通し、国際的に通用する若手研究者を養成する教育研究体制」を構築・発展させることができると考えている。

○目標に対する達成度

- 目標は想定以上に達成された。
- 目標は想定どおり達成された。
- 目標はある程度達成された。
- 目標はほとんど達成されなかった。

【理由】

項目①～項目⑤に掲げる具体的な数値目標を掲げて本プログラムを実施してきた。各項目の達成した数値を以下の表にまとめ、下段にその説明を記載した。

目標項目	H22	H23	H24	H25	H26	合計
① 学生派遣人数	11	14	18	12	15	70
② 教員派遣（集中講義・研究指導）	5	3	4	8	7	27
③ 若手教員派遣	4	3	6	5	3	21
④ セミナー開催（日独）	2	5	2	2	2	13

項目①に関しては、大学院学生を毎年9名以上派遣する計画に対して、各年度とも数値目標を上回る学生の派遣を行うことができた。

項目②に関しては、毎年教員（毎年4～5名）を派遣し、アーヘン工科大学において集中講義ならびに研究指導を行う計画に対し、平成23年度の3名以外は、概ね数値目標を上回ることができた。

項目③に関しては、若手教員の1～2週間の派遣（講義が主）であるが、1名は半年間、2名はそれぞれ2ヶ月間、1名は1ヶ月間アーヘン工科大学に派遣し、共同研究を行った。さらに、英語による講義等を行い、国際的な教育の訓練の機会を持つことができた。

項目④に関しては、毎年大阪とアーヘンの双方向で国際セミナーを開催している。加えて、平成23年度には、4月に学生のみでのミニシンポジウムを大阪大学で、9月にアーヘン工科大学にて化学分野に特化したセミナーが開催されているため、他の年度と比較して開催数が多くなっている。

項目⑤に関しては、双方向に学生を指導し公聴会では副査を務めて「ダブル Supervisor 体制」を構築した成果として、平成25年度以降、大阪大学の4名の学生の博士学位論文審査においてアーヘン工科大学の教授が副査を務めた。また、アーヘン工科大学の学生の博士学位審査に大阪大学の教授が出席する実績が得られている。

3. これまでの交流を通じて得られた成果

これまでの交流を通じての成果を「共同課程の整備」、「継続的協力関係」、及び「教育研究効果」の観点から記載してください。(3頁以内)

○共同課程の整備

共同課程カリキュラムとして、環境調和を指向した生物および化学プロセスの実現に必要な、生体触媒技術の高度化および高機能化学触媒を開発するための理論と技術を学ばせるため、以下のプログラムを行ってきた。

① アーヘン工科大学に留学中は、「ダブル Supervisor 体制」に基づき指定されているアーヘン工科大学の指導教授のもとで実験を行う。

これまでの5年間に、合計16名の学生が2ヶ月以上最長6ヶ月間(2ヶ月間が9名、3ヶ月間は3名、4ヶ月間が3名、6ヶ月間が1名)アーヘン工科大学に派遣され、指定された教授の研究室に所属し、共同研究を行った。16名のうち4名の学位審査において、「ダブル Supervisor 体制」に基づき指定されているアーヘン工科大学の教授が副査として、大阪大学で行われた学位審査に参加し、大阪大学の学位審査記録に副査として名前が記載された。

② アーヘン工科大学の教員による集中講義を大阪大学で行う。

平成22年度以降、合計6名の教授による集中講義が行われた。

③ 大阪大学におけるセミナーを英語で行う。

アーヘン工科大学の教員による英語のセミナーが5年間に、4回開催された。工学研究科および基礎工学研究科については、英語の大学院授業が聴講可能である。また、いくつかの受入研究室においては、研究報告会等を英語で行っている。

④ 大阪大学の教員がアーヘン工科大学を訪れ、集中講義・研究指導を行う。

大阪大学の教員が、5年間の間にアーヘン工科大学を訪問し、総数15回の集中講義・研究指導を行った。

⑤ 学生の英語による研究成果の発表の機会を設ける。

毎年実施した大阪大学およびアーヘン工科大学での国際セミナーにおいて、合計83名の大学院学生が、口頭発表の機会を持つことができた(これまでに開催した合計13回の国際セミナーの様子は、参考資料として添付しておりますそれぞれの要旨を参照ください)。特に、ノーベル化学賞受賞者をはじめとした国際的に著名な招聘講演者の前で口頭発表を行う機会を持つことができ、大変大きな教育効果があった。その成果は、過去5年間に本プログラムに参加した大学院学生が、国際会議における発表で多くの賞を受賞したことに顕れている(教育研究効果で再度説明)。

○継続的協力関係

大阪大学とアーヘン工科大学は、本プログラム開始前の平成17年度にすでに大学間学術交流協定を締結し、平成21年度に大阪大学の基礎工学研究科とアーヘン工科大学の数理情報自然科学研究科との間で、部局間学術交流協定を締結していた。しかし、本プロジェクトの開始に合わせて、教員メンバーが多く所属する工学研究科についても、授業料等の免除や様々な優遇措置を受けられる交換留学生の枠を広げることが急務であり、平成22年度に大阪大学の工学研究科とアーヘン工科大学の数理情報自然科学研究科の間でも部局間学術交流協定を締結した。また、大阪大学の工学研究科には、滞在ビザの取得を必要としない3ヶ月以内の滞在期間で交換留学生を受け入れる制度もなかったため、工学研究科内の「超短期特別研究学生受け入れ申し合わせ」事項の変更を行った。この措置により、手間と時間のかかる滞

在ビザの申請手続きなしに、アーヘン工科大学の大学院生を工学研究科にも受け入れることが可能となった。

○教育研究効果

大学院生にとり、海外に滞在し国際的な環境に身を置いて研究に取り組むことは貴重な経験であり、彼らの潜在能力を引き出すうえで非常に効果的な刺激である。大阪大学の大学院生にとりアーヘン工科大学の国際的な環境の中で研究に取り組んだ経験は、将来国際的に活躍できる研究者になるという高い自覚を持たせるためにも、大変良い機会となっている。一方、アーヘン工科大学の大学院生を大阪大学に受入れてきたことから、大阪大学の他の大学院生によい刺激を与えており、日独双方向の交流を通じて両大学の博士課程プログラムの質の向上に相乗効果を生み出している。とくに、国際セミナーやミニシンポジウムにおける大学院生の英語による口頭発表件数は、合計 47 件に達しており、英語によるコミュニケーション能力を向上させるうえで、非常に効果があった。具体的な成果としては、過去 5 年間に本プログラムに参加した大学院生が、国際会議における発表で多くの賞を受賞したことに顕れている（図 1 参照）。

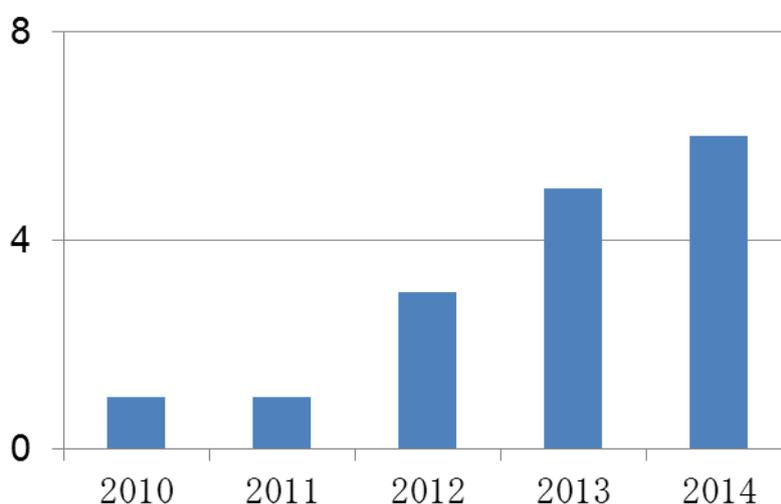


図 1. 国際会議でのポスター賞受賞数

さらに、国際シンポジウムやミニシンポジウムの準備から運営までを、両大学の大学院生に分担させる取り組みを行ってきた。このような経験は、国際交流活動の経験を積ませる面ばかりでなく、日独両大学の大学院生どうしの人間的な交流を促進するうえでも効果的であった。最近では、座長を学生が担当し、英語による議論を誘導するまでに学生の積極性が涵養されている。

博士学位論文の作成については、両大学の教員が国際的な基準で相互の大学の博士学位論文をチェックすることにより、質の高い博士学位論文の審査が可能となっている。前述したように、平成 25 年度以降、大阪大学の 4 名の学生の博士学位論文審査においてアーヘン工科大の教授が副査を務めた。また、アーヘン工科大学の学生の博士学位審査に大阪大学の教授が出席する実績が得られている。今後、着実に双方向の審査体制が進む予定である。

4. プロジェクトの実施状況

(1) 分野及びプロジェクトの深化・発展

終了時評価時に記載した実施機関の目標及び必要性を踏まえて、どのようにして対象となる分野及びプロジェクトがドイツとの交流を通して深化・発展したか記載してください。

過去5年間で、大学院学生に対する国際的な教育の機会の付与と、若手教員を中心とする両大学間の国際共同研究実践体制が整った。そのために、両大学の研究者間において共同研究・教育指導体制が円滑に継続できるようにする工夫を進めている。具体的には、大阪大学独自の財源を用いたクロス・アポイントメント制度を利用し、本プログラムに参加するアーヘン工科大学の教員を特任教授（常勤）あるいは招聘教授（非常勤）として雇用し、大阪大学の博士課程学生への教育・研究の指導および評価に継続的に関与出来るような体制作りに取り組み、以下の成果を得ている。

① 「ダブル Supervisor 体制」による共同研究成果の達成（学会発表、国際誌への共著論文）

大学院生を交換留学生として派遣・受入を実施するに当たり、両大学の教授をそれぞれ一名ずつ指導教授として指定する。これにより、派遣期間のみならず、その期間以外も含めて共同研究として双方向の交流を推進する計画である。

② 「ダブル Supervisor 体制」による双方の教授による質の高い英文による博士論文の作成

両大学の指導教授が学位審査に関与することから、博士學位論文は英文で作成し、国際標準の学位審査を行う。

③ 大学院における教育研究の国際化

数ヶ月間の海外での研究経験は、国際標準を意識させる上で大変重要であり、研究者として国際的に活躍することへの高い自覚を持つ契機となっている。さらに、アーヘン工科大学の学生の受入により、大阪大学側の研究室の国際化も同時に進んでいる。合同シンポジウムにおける発表の機会の効果として、国際会議のポスター発表賞数が年々増加している（図1参照）。

以上のように、①～③について成果を得ていることから、5年間の継続により、プロジェクトの深化・発展は予定通りに達成できたと考えている。

(2) コーディネーター及び参加教員の取り組み状況

日本側コーディネーター及び参加教員は当該プロジェクトの実施を適切に行ってきたかについて、日本側コーディネーターや教員等の取り組み状況に触れながら記載してください。

大阪大学のコーディネーターである真島教授とアーヘン工科大学のコーディネーターである Okuda 教授は、共同研究・共著論文の成果を多数得ており、研究および国流交流の両面において、協力関係にあることから、互いに協力して本プログラム全体を統括してきた。また、生物プロセスの分野については、大阪大学は大竹教授が最初の3年間コーディネーターとして積極的に関与し、残りの2年間は福崎教授が副コーディネーターを務めた。対応して、アーヘン工科大学からは Büchs 教授が生物系の副コーディネーターを務め頻繁に大阪大学を訪問しており、平成26年度は、大阪大学のクロス・アポイントメント制度で大阪大学に長期に滞在し、両大学の協力関係の強化に努めていただいた。

参加教員は、国際交流に積極的かつ研究業績が国際的に高い評価を受けている教員を選抜したことから、共同研究の推進は予定通り進んでおり、研究テーマにより連携を密に出来る「ダブル Supervisor 体制」もスムーズに機能している。

この他、英語による集中講義や国際合同シンポジウム（国際セミナー）を大阪大学とアーヘン工科大学の両方で毎年開催することにより、若手教員と大学院生の英語による発表能力が格段に伸びているという大きな成果が得られている。特筆すべきは、大阪大学の学生が、アーヘン工科大学での DFG のヒアリングで、審査員の質問に、英語のジョークで切り返すということがあった。

(3)教育研究環境の整備

当該大学において、プロジェクトの目的を達成するにあたって必要な施設設備、及び経済的負担の軽減措置等、組織的な取り組み状況について記載してください。

○必要な施設設備

- ・ シンポジウム（セミナー）会場として大阪大学内の施設を無償で利用

○経済的負担の軽減措置等

- ・ 経済的に支援を頂いた企業の研究者に国際セミナーで発表を頂いた。大学院博士課程修了後に就職する可能性のある企業の研究を知る良い機会となった。
- ・ 海外からの招聘講演者は、大阪大学の招聘プログラムを一部使用できた。
- ・ 大阪大学の教員のアーヘン工科大学への出張は、本プログラム以外を一部使用することで経費を軽減している。
- ・ 生物工学会の協賛により、国際セミナー開催の経費を軽減した。

○組織的な取り組み

- ・ 平成 22 年 9 月に大阪大学 鷲田前総長がアーヘン工科大学を訪問しプログラムの発展及び両大学の交流を深めるべく合意した。
- ・ 平成 27 年 3 月下旬にアーヘン工科大学の Schmachtenberg 学長が、大阪大学の平野総長を表敬訪問し、大阪大学とアーヘン工科大学の大学間学術交流協定の更新の調印式を行った。引き続いて、平野総長、岡村副学長らと交流の今後の発展について意見交換を行った。
- ・ 毎年開催される大阪でのシンポジウム開催時に、大阪大学副学長から開催の挨拶とともに、来賓である日本学術振興会の課長、DFG（副）代表、ドイツ領事館の総領事の出席に協力頂いている。
- ・ アーヘン工科大学で開催される国際セミナーや DFG のヒアリングに際し、大阪大学欧州センターの所長が陪席している。

(4)経費の合理性

経費の執行状況について記載してください。

各年度の経費における旅費の割合を表 1 にまとめた。

【表 1】配分額に対する旅費（国内・外国）の割合（税金を含む）

単位：千円

	H22	H23	H24	H25	H26	合計
配分額	11,954	12,993	12,800	12,750	12,750	63,247
旅費（税込）	10,033	10,715	10,256	10,252	11,906	53,162
%	83.9	82.5	80.1	80.4	93.4	84.1

予算執行に対して、以下の点に留意した。

- ・ 予算執行優先順位は、アーヘン工科大学への学生の派遣としてきた。
- ・ 平成 26 年度以降、消費税が 5%→8%に上昇し、予算も減額となっているが、その中で経費負担の軽減措置として、シンポジウム会場は学内施設を利用してきた。
- ・ 学内のクロス・アポイントメント制度を利用し、アーヘン工科大から教授を招聘してきた。
- ・ シンポジウムでの国内からの招聘講演者および 海外からの招聘講演者は、他財源を一部使用した。

5. 今後の展望

今後、当該大学とドイツ側大学との共同教育研究活動を持続的に展開してく上での将来展望について記載してください。

生物と化学の両分野の中でも、国際的に評価の高い研究者を大阪大学とアーヘン工科大学から選んで過去 5 年間本プログラムを実施してきた成果から、目標に掲げている「生物および化学プロセスの両方の研究分野に精通し、国際的に通用する若手研究者を養成する」教育研究体制を構築出来る見通しを得ている。さらに、4 年間の継続を積み上げることにより、本プログラム終了後に、「環境調和を指向した生物および化学プロセスに関する共同大学院教育プログラム」の趣旨に合った教育・共同研究体制を継続させることを目指している。

本プログラムは、5 年間のプログラムとして実施してきたが、メンバーを一部入れ替えて、化学系と生物系のバランスを再構築し、さらに 4 年間の継続が決まったことから、今後研究グループ間のマッチングをさらに強固にし、「ダブル Supervisor 体制」を推進するとともに、大学院学生の学位審査に両大学の指導教授が関与する方向性をさらに強化する方針である。

これらの取り組みは、共同研究として結実することに繋がるとともに、若手研究者の交流を強く促すことに繋がることは確実であることから、本プログラムの目標である「大学院生の日独双方向での派遣及び受け入れを主とする共同研究」は、着実に成果が得られており、共著論文の形で国際誌に掲載されている。また、国際的に活躍できる若手研究者育成については、国際会議での発表に対する高い評価（賞の獲得）に表れている。また、大学院生の派遣と受け入れを通じた大学院生の双方向交流は、単に派遣される大学院生の育成のみにとどまらず、受入研究室の学部学生や大学院生にも、異文化を知る貴重な経験となっている。さらに、本プログラムがスタートした 5 年前には、海外インターンシップによる国際性の涵養に対する企業の評価は高くなかったが、近々の就職活動時における本プログラムに対する企業からの高い評価は、学内においても注目されており、企業の海外展開の重要な人材として高く評価されている。今後も、国際性を高める教育プログラムの優れた例として、他のプログラムにも影響を与えている。

今後 4 年間の継続により、合計 9 年間に及ぶ継続的な交流は、単に大阪大学とアーヘン工科大学の交流に留まらず、このプログラムに参加した若手研究者・大学院生の成長とともに、日本とドイツの規模で広がっていくことが期待される。興味深いことに、アーヘン工科大学の日本における認知度が高まり、ごく最近東京大学との大学間交流協定が締結されたことに顕れている。

9 年後が終了した段階の取り組みについては、現在、4 年後に向けた議論を始めている段階であるが、大阪大学とアーヘン工科大学の交流を継続して合同シンポジウム等を開催するための財源確保に向けて参加教員らが継続的な努力をする計画である。具体的には、大阪大学における、国際集会支援のプログラムがスタートしているので、これを積極的に利用する計画である。さらに、本プログラムに参加するアーヘン工科大学の教員を特任教授（常勤）あるいは招聘教授（非常勤）として大阪大学が雇用できるクロス・アポイントメント制度がスタートしていることから、この制度を利用することにより、アーヘン工科大学の教員が大阪大学の博士課程学生への教育・研究の指導および評価に関与する体制を継続出来るように努力する計画である。

6. 活動実績

(1)実施した「共同課程」について概略を記入してください。

1	科目名等	生体触媒機能工学特別研究	提供期間	平成 22 年 5 月 18 日-20 日 平成 23 年 1 月 11 日-17 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>初年度であるので、両大学の大学院生を集め、コーディネーターの大竹と Okuda が本共同課程に関するガイダンスを行った。その後、両大学の教員が、環境調和を指向した生物プロセスを設計し効率的に制御するための基礎理論、本技術分野における技術開発の最新動向および今後の課題について、英語による講義を行った。講義終了後には、大学院生に英語で質問をさせ、教員と英語で討論を行った。また、環境にやさしい生体触媒反応による難水溶性物質変換技術など、新しい生体触媒利用技術を講義した後に、生物と化学プロセスの両分野それぞれの長短所について考えさせ、両者の強みを活かし環境調和型の化成品製造プロセスを開発するため、英語による筆記試験も実施した。相手大学に派遣された大学院生には、派遣先の指導教授による研究および学位論文作成指導を受けさせた。加えて、アーヘン工科大学で 9 月に開催された共同セミナーにおいて、研究成果をポスターにより発表させた。</p>		
2	科目名等	高機能触媒化学特別研究	提供期間	平成 22 年 7 月 30 日 平成 22 年 11 月 24 日-30 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>初年度であるので、両大学の大学院生を集め、コーディネーターの大竹と Okuda が本共同課程に関するガイダンスを行った。その後、環境調和を指向した化学プロセス開発に必要な高機能化学触媒設計に関する基礎理論、本技術分野における技術開発の最新動向と今後の課題について、英語による講義を行った。特に、光学活性や立体選択性の高い化学触媒の機能解明と設計理論について解説し、大学院生を交えて英語による議論を行った。また、相手大学に派遣された大学院生には、派遣先の指導教授による研究および学位論文作成指導を受けさせた。加えて、アーヘン工科大学で 9 月に開催された共同セミナーにおいて、研究成果をポスターにより発表させた。</p>		
3	科目名等	生体触媒機能工学特別研究	提供期間	平成 23 年 12 月 12 日-15 日 平成 24 年 3 月 12 日-14 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>両大学の教員が、環境調和を指向した生物プロセスを設計し効率的に制御するための基礎理論、本技術分野における技術開発の最新動向および今後の課題について、英語による講義を行った。講義終了後には、大学院生に英語で質問をさせ、教員と英語で討論を行った。相手大学に派遣された大学院生には、派遣先の指導教授による研究および学位論文作成指導を受けさせた。それらの成果を、大阪大学とアーヘン工科大学において合計 3 回開催した両大学の大学院生によるミニシンポジウムにおいて、英語により口頭発表を行わせた。また、開催側の大学院生にミニシンポジウムの準備と運営を委ねることにより、両大学院生に国際交流の経験を積ませる機会を提供した。大阪で開催した国際シンポジウム「Biotechnology and Chemistry for Green Growth」に参加させ、生物機能を活用した物質生産プロセスに関する企業研究者による講演を聞かせ、英語による質疑応答を行わせた。</p>		

4	科目名等	高機能触媒化学特別研究	提供期間	平成 23 年 9 月 1 日-2 日 平成 24 年 3 月 12 日-14 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>環境調和を指向した化学プロセス開発に必要な高機能化学触媒設計に関する基礎理論、本技術分野における技術開発の最新動向と今後の課題について、英語による講義を行った。講義終了後には、大学院生に英語で質問をさせ、教員と英語で討論を行った。相手大学に派遣された大学院生には、派遣先の指導教授による研究および学位論文作成指導を受けさせた。それらの成果を、大阪大学とアーヘン工科大学において合計3回開催した両大学の大学院生によるミニシンポジウムにおいて、英語により口頭発表を行わせた。また、開催側の大学院生にミニシンポジウムの準備と運営を委ねることにより、両大学院生に国際交流の経験を積ませる機会を提供した。</p>		
5	科目名等	生体触媒機能工学特別研究	提供期間	平成 24 年 12 月 3 日-5 日 平成 25 年 3 月 11 日-13 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>両大学の大学院生に、相手側大学において英語による研究発表と討論を行わせる機会として、2回のシンポジウムを開催した。ミニシンポジウムの準備と運営（例えばプログラム編成、アブストラクト集の作成やシンポジウム座長など）を開催側の大学院生に委ねることにより、参加した両大学の大学院生にとって国際交流の経験を積むよい機会となった。両大学の教員等のメンバーも多く出席し、大学院生の研究発表に対して質問およびコメントをすることにより、英語により討論する能力の育成にも効果があった。今年度は大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、一部座長も務めさせることで、大学院生に一歩進んだ国際経験を積ませることができた。</p>		
6	科目名等	高機能触媒化学特別研究	提供期間	平成 24 年 12 月 3 日-5 日 平成 25 年 3 月 11 日-13 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>両大学の教員等メンバーが、環境調和を指向した化学プロセス開発に必要な高機能化学触媒設計に関する理論と実験結果について講演した。参加した大学院生を含めて、環境調和型の化学プロセスを開発するためのアイデアについて英語で討論した。このことにより、両大学の大学院生に関連分野における最新の研究動向と今後の課題について理解させるとともに、英語により討論する機会を与えることができた。参加大学院生に本科目を生体触媒機能工学特別研究と合わせて受講させることにより、化学と生物学の基礎・応用の両面に精通した人材の育成に成果が得られつつある。今年度は大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、一部座長も務めさせることで、大学院生に一歩進んだ国際経験を積ませることができた。</p>		
7	科目名等	生体触媒機能工学特別研究	提供期間	平成 25 年 12 月 3 日-5 日 平成 26 年 3 月 10 日-11 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	<p>両大学の大学院生に、相手側大学において英語による研究発表と討論を行わせる機会として、2回のシンポジウムを開催した。ミニシンポジウムの準備と運営（例えばプログラム編成、アブストラクト集の作成やシンポジウム座長など）を開催側の大学院生に委ねることにより、参加した両大学の大学院生にとって国際交流</p>		

		の経験を積むよい機会となった。両大学の教員等のメンバーも多く出席し、大学院生の研究発表に対して質問およびコメントをすることにより、英語により討論する能力の育成にも効果があった。今年度は大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、一部座長も務めさせることで、大学院生に一步進んだ国際経験を積ませることができた。		
8	科目名等	高機能触媒化学特別研究	提供期間	平成 25 年 12 月 3 日-5 日 平成 26 年 3 月 10 日-11 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	両大学の教員等メンバーが、環境調和を指向した化学プロセス開発に必要な高機能化学触媒設計に関する理論と実験結果について講演した。参加した大学院生を含めて、環境調和型の化学プロセスを開発するためのアイデアについて英語で討論した。このことにより、両大学の大学院生に関連分野における最新の研究動向と今後の課題について理解させるとともに、英語により討論する機会を与えることができた。参加大学院生に本科目を生体触媒機能工学特別研究と合わせて受講させることにより、化学と生物学の基礎・応用の両面に精通した人材の育成に成果が得られつつある。今年度は大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、一部座長も務めさせることで、大学院生に一步進んだ国際経験を積ませることができた。		
9	科目名等	生体触媒機能工学特別研究	提供期間	平成 26 年 9 月 2 日-3 日 平成 27 年 3 月 10 日-11 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	両大学の大学院生に、相手側大学において英語による研究発表と討論を行わせる機会として、2 回のシンポジウムを開催した。準備と運営（例えばプログラム編成、アブストラクト集の作成やシンポジウム座長など）を開催側の大学院生に委ねることにより、参加した両大学の大学院生にとって国際交流の経験を積むよい機会となった。両大学の教員等のメンバーも多く出席し、大学院生の研究発表に対して質問およびコメントをすることにより、英語により討論する能力の育成にも効果があった。大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、座長も務めさせることで、大学院生に一步進んだ国際経験を積ませることができた。		
10	科目名等	高機能触媒化学特別研究	提供期間	平成 26 年 9 月 2 日-3 日 平成 27 年 3 月 10 日-11 日
	提供した大学	大阪大学/ アーヘン工科大学	単位数	※単位認定せず詳細については別紙参照
	概要	両大学の教員等メンバーが、環境調和を指向した化学プロセス開発に必要な高機能化学触媒設計に関する理論と実験結果について講演した。参加した大学院生を含めて、環境調和型の化学プロセスを開発するためのアイデアについて英語で討論した。このことにより、両大学の大学院生に関連分野における最新の研究動向と今後の課題について理解させるとともに、英語により討論する機会を与えることができた。参加大学院生に本科目を生体触媒機能工学特別研究と併せて受講させることにより、化学と生物学の基礎・応用の両面に精通した人材の育成に成果が得られつつある。今年度は大阪でも大学院生を教員と一緒にシンポジウムで発表させ、全ての座長を学生が担当し、運営についても学生が主体的に準備運営を行った。これらの経験は国際会議における発表のみならず、運営を行うという貴重な体験を積ませることができた。		

※ 記入欄が足りない場合には、適宜追加してください。

(2)このプロジェクトに関連した主な発表論文・著者名

教員等・大学院学生が本プロジェクトの成果として実施期間中に発表した主な論文等(本事業名が明記されているもの)を記載してください。参加教員等・大学院学生の氏名にはアンダーラインを付してください。また、ドイツ側の参加者との共著論文には、文頭の番号に○印を付してください。

①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文又は著書

・査読がある場合、印刷済み及び採録決定済のものに限り、査読中・投稿中のものは除く。また「査読」欄に○印を付す。

整理番号	著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読	相手国名 (共著の場合)
○1	<u>H. Yoshida</u> , <u>K. Klinkhammer</u> , <u>M. Matsusaki</u> , <u>M. Moeller</u> , <u>D. Klee</u> , <u>M.</u> and <u>Akashi</u> , Disulfide-Crosslinked Electrospun Poly(g-glutamic acid) Non-wovens as Reduction-responsive Scaffolds, <i>Macromol. Biosci.</i> , 9, 568-574 (2009).	○	ドイツ
○2	<u>H. Ajiro</u> , <u>K. Beckerle</u> , <u>J. Okuda</u> , and <u>M. Akashi</u> , Layer-by-Layer Assembly of Partially Sulfonated Isotactic Polystyrene with Poly(vinylamine), <i>Langmuir</i> , 28, 5372-5778 (2012).	○	ドイツ
3	<u>Y. Ano</u> , <u>M. Tobisu</u> , and <u>N. Chatani</u> , Ruthenium-Catalyzed Direct ortho-Alkynylation of Arenes with Chelation Assistance, <i>Synlett</i> , (23), 2763-2767 (2012).	○	
○4	<u>Y. Aihara</u> , <u>J. Wülbern</u> , and <u>N. Chatani</u> , The Nickel(II)-Catalyzed Direct Benzylation, Allylation, Alkylation, and Methylation of CH Bonds in Aromatic Amides Containing an 8-Aminoquinoline Moiety as the Directing Group, <i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i> , 88 (3), 438-446 (2015).	○	ドイツ
○5	<u>M. Miyasaka</u> , <u>K. Hirano</u> , <u>T. Satoh</u> , <u>R. Kowalczyk</u> , <u>C. Bolm</u> , and <u>M. Miura</u> , Copper-Catalyzed Direct Sulfoximation of Azoles and Polyfluoroarenes under Ambient Conditions, <i>Org. Lett.</i> , 13 (3), 359-361 (2011).	○	ドイツ
○6	<u>Y. Hashimoto</u> , <u>T. Ortloff</u> , <u>K. Hirano</u> , <u>T. Satoh</u> , <u>C. Bolm</u> , and <u>M. Miura</u> , Ru/Ag-Catalyzed Oxidative Alkenylation of Benzamides and Phenylazoles through Regioselective C-H Bond Cleavage, <i>Chem. Lett.</i> , 41 (2), 151-153 (2012).	○	ドイツ
○7	<u>T. Iitsuka</u> , <u>P. Schaal</u> , <u>K. Hirano</u> , <u>T. Satoh</u> , <u>C. Bolm</u> , and <u>M. Miura</u> , Rhodium-Catalyzed C3-Selective Alkenylation of Substituted Thiophene-2-Carboxylic Acids and Related Compounds, <i>J. Org. Chem.</i> , 78 (14), 7216-7222 (2013).	○	ドイツ
○8	<u>H. Baars</u> , <u>Y. Unoh</u> , <u>T. Okada</u> , <u>K. Hirano</u> , <u>T. Satoh</u> , <u>K. Tanaka</u> , <u>C. Bolm</u> , and <u>M. Miura</u> , Rhodium-Catalyzed Intramolecular Dehydrogenative Aryl-Aryl Coupling Using Air as Terminal Oxidant, <i>Chem. Lett.</i> , 43 (11), 1782-1784 (2014).	○	ドイツ
○9	<u>S. Takizawa</u> , <u>T. M.-N. Nguyen</u> , <u>A. Grossmann</u> , <u>D. Enders</u> , and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Synthesis of α -Alkylidene- γ -Butyrolactones: Intramolecular Rauhut-Currier Reaction Promoted by Acid/Base Organocatalysts, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 51, 5423-5426 (2012).	○	ドイツ
○10	<u>Y. Yang</u> , <u>Y. Hayashi</u> , <u>Y. Fujii</u> , <u>T. Nagano</u> , <u>Y. Kita</u> , <u>T. Oshima</u> , <u>J. Okuda</u> , and <u>K. Mashima</u> , Efficient Cyclic Carbonate Synthesis Catalyzed by Zinc Cluster Systems under Mild Conditions, <i>Catal. Sci. Technol.</i> , 2, 509-513 (2012)	○	ドイツ
○11	<u>W. Fegler</u> , <u>T. Saito</u> , <u>K. Mashima</u> , <u>T. P. Spaniol</u> , and <u>J. Okuda</u> , C-H Bond Activation of N-Heterocyclic Carbene IMes by Rare-earth Metal Alkyl Complexes, <i>J. Organomet. Chem.</i> , 695, 2794-2797 (2010).	○	ドイツ
○12	<u>A. Sauer</u> , <u>J. Buffet</u> , <u>T. P. Spaniol</u> , <u>H. Nagae</u> , <u>K. Mashima</u> , and <u>J. Okuda</u> , Synthesis, Characterization, and Lactide Polymerization Activity of Group 4 Metal Complexes Containing Two Bis(phenolate) Ligands, <i>Inorg. Chem.</i> , 51, 5764-5770 (2012).	○	ドイツ
○13	<u>S. Diederichs</u> , <u>A. Korona</u> , <u>A. Staaden</u> , <u>W. Kroutil</u> , <u>K. Honda</u> , <u>H. Ohtake</u> , and <u>J. Büchs</u> , Phenotyping the Quality of Complex Medium Components by Simple Online-Monitored Shake Flask Experiments. <i>Microbial Cell Fact.</i> 13, 149 (2014).	○	ドイツ

14	<u>A. Hibino</u> , and <u>H. Ohtake</u> , Utilization of Hydrophobic Bacterium <i>Rhodococcus rhodochrous</i> NBRC15564 as Whole-Cell Catalyst in Solvent-Free Organic Media. <i>Process Biochem.</i> , 48, 838–843 (2013).	○	
○15	<u>A. Hibino</u> , <u>R. Petri</u> , <u>J. Büchs</u> , and <u>H. Ohtake</u> , Production of Uroporphyrinogen III from 5-Aminolevulinic Acid Using <i>Escherichia coli</i> Expressing Thermostable Enzymes. <i>Appl. Microbiol. Biotechnol.</i> , 97, 7337–7344 (2013).	○	ドイツ
16	<u>X. Ye</u> , <u>K. Honda</u> , <u>Y. Morimoto</u> , <u>K. Okano</u> , <u>H. Ohtake</u> , Direct Conversion of Glucose to Malate by Synthetic Metabolic Engineering. <i>J. Biotechnol.</i> , 164, 34–40 (2013).	○	
17	<u>B. Krutsakorn</u> , <u>T. Imagawa</u> , <u>K. Honda</u> , <u>K. Okano</u> , and <u>H. Ohtake</u> , Construction of an In Vitro Bypassed Pyruvate Decarboxylation Pathway using Thermostable Enzyme Modules and Its Application to Acetylglutamate Production. <i>Microbial Cell Fact.</i> 12, 91 (2013).	○	
18	<u>X. Ye</u> , <u>K. Honda</u> , <u>T. Sakai</u> , <u>K. Okano</u> , <u>T. Omasa</u> , <u>R. Hirota</u> , <u>A. Kuroda</u> , and <u>H. Ohtake</u> , Synthetic Metabolic Engineering—a Novel, Simple Technology for Designing a Chimeric Metabolic Pathway. <i>Microbial Cell Fact.</i> 11, 120 (2012).	○	
○19	<u>F. Shima</u> , <u>B. Schulte</u> , <u>H. Keul</u> , <u>M. Moeller</u> , and <u>M. Akashi</u> , Preparation of Microparticles Composed of Amphiphilic Poly(γ -glutamic acid) Through Hydrophobic Interactions, <i>Polym. J.</i> , 46, 184–188 (2014).	○	ドイツ
○20	<u>H. Ajiro</u> , <u>K. Beckerle</u> , <u>J. Okuda</u> , and <u>M. Akashi</u> , Layer-by-Layer Assembly of Partially Sulfonated Isotactic Polystyrene with Poly(vinylamine), <i>Langmuir</i> , 28 (12), 5372–5378 (2012).	○	ドイツ
○21	<u>H. Yoshida</u> , <u>D. Klee</u> , <u>M. Möller</u> , and <u>M. Akashi</u> , Creation of Superhydrophobic Electrospun Nonwovens Fabricated from Naturally-Occurring Poly(amino acid) Derivatives, <i>Adv. Funct. Mater.</i> , 24, 6359–6364 (2014).	○	ドイツ
○22	<u>S. Takizawa</u> , <u>T. M.-N. Nguyen</u> , <u>A. Grossmann</u> , <u>D. Enders</u> , and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Synthesis of α -Alkylidene- γ -Butyrolactones: Intramolecular Rauhut-Currier Reaction Promoted by Acid/Base Organocatalysts, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 51 (22), 5423–5426 (2012).	○	ドイツ
○23	<u>S. Takizawa</u> , <u>T. M.-N. Nguyen</u> , <u>A. Grossmann</u> , <u>M. Suzuki</u> , <u>D. Enders</u> , and <u>H. Sasai</u> , Facile Synthesis of α -Methylidene- γ -Butyrolactones: Intramolecular Rauhut-Currier Reaction Promoted by Chiral Acid-Base Organocatalysts, <i>Tetrahedron</i> , 69 (3), 1202–1209 (2013).	○	ドイツ
○24	<u>S. Takizawa</u> , <u>J. Kodera</u> , <u>Y. Yoshida</u> , <u>M. Sako</u> , <u>S. Breukers</u> , <u>D. Enders</u> , and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Oxidative-Coupling of Polycyclic Phenols, <i>Tetrahedron</i> , 70 (9), 1786–1793 (2014).	○	ドイツ
25	<u>K. Takenaka</u> , <u>S. C. Mohanta</u> , and <u>H. Sasai</u> , Palladium Enolate Umpolung: Cyclative Diacetoxylation of Alkynyl Cyclohexadienones Promoted by a Pd/SPRIX Catalyst, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 53 (18), 4675–4679 (2014).	○	
26	<u>K. Takenaka</u> , <u>M. Sako</u> , <u>S. Takatani</u> , and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Construction of C_2 -Symmetric Spiro Skeleton through Intramolecular Copper-Catalyzed N-Arylation <i>ARKIVOC</i> 2015 (ii), 52–63 (2015).	○	
27	<u>H. Shahsavarani</u> , <u>M. Sugiyama</u> , <u>Y. Kaneko</u> , <u>B. Chuenchit</u> , and <u>S. Harashima</u> , Superior Thermotolerance of <i>Saccharomyces cerevisiae</i> for Efficient Bioethanol Fermentation Can Be Achieved by Overexpression of <i>RSP5</i> Ubiquitin Ligase, <i>Biotechnol. Adv.</i> 30 (6), 1289–1300 (2012).	○	
28	<u>H. Shahsavarani</u> , <u>D. Hasegawa</u> , <u>D. Yokota</u> , <u>M. Sugiyama</u> , <u>Y. Kaneko</u> , <u>B. Chuenchit</u> , and <u>S. Harashima</u> , Enhanced Bio-Ethanol Production from Cellulosic Materials by Semi-Simultaneous Saccharification and Fermentation Using High Temperature Resistant <i>Saccharomyces cerevisiae</i> TJ14. <i>J. Biosci. Bioeng.</i> 115 (1), 20–23 (2013).	○	
29	<u>T. Iwasaki</u> , <u>Y. Miyata</u> , <u>R. Akimoto</u> , <u>Y. Fujii</u> , <u>H. Kuniyasu</u> , and <u>N. Kambe</u> , Diarylrhodates as Promising Active Catalysts for the Arylation of Vinyl Ethers with Grignard Reagents, <i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 136 (26), 9260–9263 (2014).	○	

30	<u>T. Iwasaki</u> , R. Imanishi, R. Shimizu, H. Kuniyasu, J. Terao, and <u>N. Kambe</u> , Copper-Catalyzed Alkyl-Alkyl Cross-Coupling Reactions Using Hydrocarbon Additives: Efficiency of Catalyst and Roles of Additives, <i>J. Org. Chem. (Featured Article)</i> , 79 (18), 8522–8532 (2014).	○	
31	H. Kuniyasu, <u>A. Sanagawa</u> , T. Nakajima, <u>T. Iwasaki</u> , and <u>N. Kambe</u> , K. Bobuatong, M. Ehara, Halogen Exchange by Reaction of CpRu(Cl)(PPh ₃) ₂ with MeC(O)X (X = Br, I) and its Mechanistic Study, <i>J. Organomet. Chem.</i> , 769, 34–37 (2014).	○	
32	<u>D. Shiro</u> , H. Nagai, S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Palladium-Catalyzed Decarbonylative Rearrangement of N-Allenyl Seleno- and Tellurocarbamates, <i>Heteroatom Chem.</i> , 25 (6), 518–524 (2014).	○	
33	<u>D. Shiro</u> , S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Palladium-Catalyzed Insertion Reactions of Isocyanides into Thiocarbamates and Selenocarbamates, <i>Chem. Lett.</i> , 44 (4), 465–467 (2015).	○	
34	<u>D. Shiro</u> , S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , AlCl ₃ -Catalyzed Insertion of Isocyanides into Nitrogen-Sulfur Bonds of Sulfenamides, <i>Tetrahedron Lett.</i> , 56 (12), 1531–1534 (2015).	○	
○35	<u>M. Henze</u> , D. J. You, C. Kamerke, <u>S. Kanaya</u> , and <u>L. Elling</u> , Glycosynthase of <i>Bacillus circulans</i> β -Galactosidase (BgaC), <i>Chem. Ing. Tech.</i> , 86, 1401–1426 (2014).	○	ドイツ
○36	<u>M. Henze</u> , D. J. You, C. Kamerke, N. Hoffmann, S. Ernst, C. Angkawidjaja, <u>J. Pietruszka</u> , <u>S. Kanaya</u> , and <u>L. Elling</u> , Rational Design of a Glycosynthase by the Crystal Structure of β -Galactosynthase from <i>Bacillus Circulans</i> (BgaC) and its Use for the Synthesis of <i>N</i> -Acetylactosamine Type 1 Glycan Structures, <i>J. Biotechnol.</i> , 191, 79–85 (2014)	○	ドイツ
○37	K. Herzog, <u>P. Bracco</u> , <u>A. Onoda</u> , <u>T. Hayashi</u> , K. Hoffmann, and A. Schallmey, Enzyme-substrate Complex Structures of CYP154C5 Shed Light on its Mode of Highly Selective Steroid Hydroxylation, <i>Acta Cryst., D70</i> , 2875–2889 (2014).	○	ドイツ
38	<u>T. Hayashi</u> , Y. Morita, E. Mizohata, <u>K. Oohora</u> , J. Ohbayashi, T. Inoue, and Y. Hisaeda, Co(II)/Co(I) Reduction-induced Axial Histidine-flipping in Myoglobin Reconstituted with a Cobalt Tetrahydrocorrin as a Methionine Synthase Model, <i>Chem. Commun.</i> , 50 (83), 12560–12563 (2014).	○	
39	<u>A. Onoda</u> , Y. Kihara, <u>K. Fukumoto</u> , Y. Sano, and <u>T. Hayashi</u> , Photoinduced Hydrogen Evolution Catalyzed by a Synthetic Diiron Dithiolate Complex Embedded within a Protein Matrix, <i>ACS Catal.</i> , 4 (8), 2645–2648 (2014).	○	
40	<u>T. Himiyama</u> , <u>A. Onoda</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Photochemical Property of a Myoglobin-CdTe Quantum Dot Conjugate Formed by Supramolecular Host-Guest Interactions, <i>Chem. Lett.</i> , 43 (7), 1152–1154 (2014).	○	
○41	<u>K. Fukumoto</u> , <u>A. Onoda</u> , E. Mizohata, <u>M. Bocola</u> , T. Inoue, <u>U. Schwaneberg</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Rhodium-Complex-Linked Hybrid Biocatalyst: Stereo-Controlled Phenylacetylene Polymerization within an Engineered Protein Cavity, 6 (5), 1229–1235 (2014).	○	ドイツ
○42	<u>A. Onoda</u> , <u>K. Fukumoto</u> , <u>M. Arlt</u> , <u>M. Bocola</u> , <u>U. Schwaneberg</u> , and <u>T. Hayashi</u> , A Rhodium Complex-linked β -barrel Protein as a Hybrid Biocatalyst for Phenylacetylene Polymerization, <i>Chem. Commun.</i> , 48 (78), 9756–9758 (2012).	○	ドイツ
43	<u>Y. Morimoto</u> , J. Takaichi, S. Hanada, K. Ohkubo, H. Sugimoto, <u>N. Fujieda</u> , S. Fukuzumi, and <u>S. Itoh</u> , Nickel and Palladium Complexes of a Non-innocent β -Diketiminato Ligand Containing Phenol Groups, <i>J. Porphyrins Phthalocyanines</i> , 19 (1–3), 277–287 (2015).	○	
44	<u>Y. Morimoto</u> , J. Takaichi, S. Hanada, K. Ohkubo, H. Sugimoto, <u>N. Fujieda</u> , S. Fukuzumi, and <u>S. Itoh</u> , Geometric Control of Nuclearity in Copper(I)/Dioxygen Chemistry, <i>Inorg. Chem.</i> , 53, 8786–8794 (2015).	○	

45	J. Takaichi, <u>Y. Morimoto</u> , K. Ohkubo, C. Shimokawa, T. Hojo, S. Mori, H. Asahara, H. Sugimoto, <u>N. Fujieda</u> , N. Nishiwaki, S. Fukuzumi, and <u>S. Itoh</u> , Redox Chemistry of Nickel(II) Complexes Supported by a Series of Noninnocent β -Diketiminato Ligands, <i>Inorg. Chem.</i> , 53, 6159–6169 (2014).	○	マレーシア、アメリカ
46※	<u>E. Restiawaty</u> , Y. Iwasa, S. Maya, <u>K. Honda</u> , T. Omasa, R. Hirota, A. Kuroda, and <u>H. Ohtake</u> , Feasibility of thermophilic Adenosine Triphosphate-regeneration System using <i>Thermus thermophilus</i> Polyphosphate kinase, <i>Process Biochem.</i> , 46, 1747–1752 (2011).	○	
47	<u>B.-M. Kang</u> , <u>K. Honda</u> , <u>K. Okano</u> , T. Aki, T. Omasa, and <u>H. Ohtake</u> , Thermal Analysis for Differentiating between Oleaginous and Non-oleaginous Microorganisms, <i>Biochem. Eng. J.</i> , 57, 23–29 (2011).	○	
48	<u>E. Restiawaty</u> , <u>K. Honda</u> , <u>K. Okano</u> , R. Hirota, T. Omasa, A. Kuroda, and <u>H. Ohtake</u> , Construction of Membrane-anchoring Fusion Protein of <i>Thermococcus kodakaraensis</i> Glycerol Kinase and its Application to Repetitive Batchwise Reactions., <i>J Biosci Bioeng.</i> , 113, 521–525 (2012).	○	
49	<u>B.-M. Kang</u> , <u>K. Honda</u> , T. Aki, T. Omasa, and <u>H. Ohtake</u> , Simultaneous Thermogravimetric and Differential Thermal Analysis of Microorganisms for Assessing Their Burning Characteristics, <i>Thermochimica Acta</i> , 517, 115–120 (2011).	○	
50	<u>S. Sulaiman</u> , S. Yamato, E. Kanaya, J. Kim, <u>Y. Koga</u> , K. Takano, and <u>S. Kanaya</u> , Isolation of a Novel Cutinase with Polyethylene Terephthalate Degrading Activity from Leaf-branch Compost Using a Metagenomic Approach., <i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , 78, 1556–1562 (2011).	○	
51	<u>N. Kambe</u> , Y. Moriwaki, Y. Fujii, and <u>T. Iwasaki</u> , J. Terao, Silver-Catalyzed Regioselective Carbomagnesiation of Alkynes with Alkyl Halides and Grignard Reagents, <i>Org. Lett.</i> , 13, 4656–4659 (2011).	○	
52	R. Siritwach, H. Kinoshita, S. Kitani, Y. Igarashi, K. Pansuksan, W. Panbangred, and <u>T. Nihira</u> , Xylaropyrone, a New γ -Pyrone from the Endophytic Fungus <i>Xylaria feejeensis</i> MU18, <i>J. Antibiotics Nature</i> , 64, 217–219 (2010).	○	
53	Y. Sano, <u>A. Onoda</u> , and <u>T. Hayashi</u> , A Hydrogenase Model System Based on the Sequence of Cytochrome c: Photochemical Hydrogen Evolution in Aqueous Media, <i>Chem. Commun.</i> , 8229–8231 (2011).	○	
54	<u>H. Shahsavarani</u> , <u>M. Sugiyama</u> , <u>Y. Kaneko</u> , B. Chuenchit, and <u>S. Harashima</u> , Superior Thermotolerance of <i>Saccharomyces cerevisiae</i> for Efficient Bioethanol Fermentation Can Be Achieved by Overexpression of <i>RSP5</i> Ubiquitin Ligase, <i>Biotechnology Advances</i> , Sep 10, (2011).	○	
55	E. O. Fukushima, H. Seki, K. Ohyama, E. Ono, N. Umemoto, M. Mizutani, K. Saito, and <u>T. Muranaka</u> , CYP716A Subfamily Members Are Multifunctional Oxidases in Triterpenoid Biosynthesis, <i>Plant Cell Physiol.</i> , 52, 2050–2061 (2011).	○	
56	<u>Y. Yoshida</u> , <u>S. Takizawa</u> , and <u>H. Sasai</u> , Design and Synthesis of Spiro Bis(1,2,3-triazolium) Salts As Chiral Ionic Liquids, <i>Tetrahedron: Asymmetry</i> , 23, 843–851 (2012).	○	
57	<u>S. Takizawa</u> , K. Kiriya, K. Ieki, and <u>H. Sasai</u> , A Bifunctional Spiro-Type Organocatalyst with High Enantiocontrol: Application to the Aza-Morita-Baylis-Hillman Reactions, <i>Chem. Commun.</i> , 47, 9227–9229 (2011).	○	
58	<u>K. Takenaka</u> , <u>M. Akita</u> , Y. Tanigaki, <u>S. Takizawa</u> , and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Cyclization of 4-Alkenoic Acids via an Oxidative Allylic C–H Esterification, <i>Org. Lett.</i> , 13, 3506–3509 (2011).	○	
59	<u>K. Takenaka</u> , S. Hashimoto, <u>S. Takizawa</u> , and <u>H. Sasai</u> , Chlorinative Cyclization of 1,6-Enynes by Enantioselective Palladium(II)/Palladium(IV) Catalysis, <i>Adv. Synth. Catal.</i> , 353, 1067–1070 (2011).	○	

60	<u>S. Takizawa</u> , N. Inoue, S. Hirata, and <u>H. Sasai</u> , Enantioselective Synthesis of Isoindolines: Organocatalyzed Domino Process Based on the aza-Morita-Baylis-Hillman (aza-MBH) Reaction, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 49, 9725–9729 (2010).	○	
○61	<u>M. Albrecht</u> , Y. Shang, K. Hasui, V. Gossen, G. Raabe, K. Tahara, and <u>Y. Tobe</u> , Tuning the Size of Supramolecular M ₄ L ₄ Tetrahedra by Ligand Connectivity, <i>Dalton Trans.</i> , 41, 9316–9322 (2012).	○	ドイツ
62	<u>Y. Hayashi</u> , T. Ohshima, Y. Fujii, Y. Matsushima, and <u>K. Mashima</u> , A Trifluoroacetic Acid Adduct of a Trifluoroacetate-bridged μ^4 -oxo-tetranuclear Zinc Cluster, Zn ₄ (OCOCF ₃) ₆ O·CF ₃ CO ₂ H: Synthesis Under Mild Conditions and Catalytic Transesterification and Oxazoline Formation, <i>Catal. Sci. Technol.</i> , 1, 230–233 (2011)	○	

※46番以降は謝辞の記載は無いが、本事業に関連して得られた成果であるため本項に記載する。

②国際会議における発表

- ・著者名(参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、発表題名、発表した学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等を記載すること。発表者に○印を付すこと。
- ・査読がある場合、「査読」欄に○印を付す。

整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
1	<u>OH. Ohtake</u> , New Bio-Based Production Platforms for White Biotechnology in Japan, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
2	<u>OS. Kanaya</u> , Structure-Based Functional Studies of a Family 1.3 Lipase, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
3	<u>ON. Shibagaki</u> , Genetic Engineering of <i>Jatropha curcas</i> L. for Improvement of Drought Resistance, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
4	<u>ON. Chatani</u> , Catalytic Reactions Involving Activation of Unreactive Bonds, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
5	<u>ON. Kambe</u> , Synthetic Reactions via Transition Metal Ate Complexes Intermediates, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
6	<u>OM. Miura</u> , Copper-or Nickel-Catalyzed Direct Coupling of heteroarenes, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
7	<u>OT. Hayashi</u> , Enhancement of Enzymatic Activities of Myoglobin and Horseradish Peroxidase by Heme-Substitution Methods, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
8	<u>OM. Akashi</u> , Development of Three-dimensional Layered Tissues by Layer-by-Layer Technique, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
9	<u>OY. Tobe</u> , Control and Dynamics of Two-Dimensional Self-Assembly of Traingular Molecules on Surfaces via Alkyl Chain Interdigitation, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		
10	<u>OH. Sasai</u> , Novel Catalytic Enantilselective Reactions Promoted by a Pd-SPRIX Complex, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月2010年		

11	OK. <u>Mashima</u> , New Synthetic Method for Generating Low-valent Early Transition Metals : Tantalum Catalyst System for Highly Selective Trimerizaion of Ethylene, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、9月 2010年		
12	OK. <u>Kadowaki</u> , <u>M. Matsusaki</u> , and <u>M. Akashi</u> , Construction of Three-Dimensional Tissues with Nanometer-Sized Extracelluar Matarix Films on Cell Surface, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
13	OH. <u>Yoshida</u> , <u>M. Matsusaki</u> , and <u>M. Akashi</u> , Construction of Biodegradable Hydrogels with multilayered Blood Caillary as in-Vitro Vascular Tissue Model, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
14	OM. <u>Onoe</u> , Rhodium-Catalyzed Benzosilole Synthesis via the Activation of Carbon-Silicon Bond, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
15	OC. <u>Budiman</u> , Structure of N-Domains Facilitating V-Shaped Dimeric Structure of FKBBP22 from a Psychotrophic Bacterium, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
16	OK. <u>Fukumoto</u> , <u>A. Onoda</u> , <u>T. Hayashi</u> , Preparation of Modified Proteins with Covalently Linked Rhodium(I) Complex to Create New Biocatalysts, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
17	OR. <u>K. Mohamed Gabr</u> , <u>K. Takenaka</u> , <u>S. Takizawa</u> , and <u>H. Sasai</u> , DFT Study on 5-endo-trig Type Cyclization of β , γ -Unsaturated Carboxylic Acids Using PD-SPRIX Catalysts, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
18	OM. <u>Miyasaka</u> , Sequential Double Arylation Reaction of Carboxyindoles via Cleavage of C-H bond and Decarboxylation under Palladium Catalysis, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
19	OT. <u>Foophow</u> , Crystal Structure of a Subtilisin Homologue, Tk-SP from Thermococcus Kodakaraensis: Requirement of a a C-terminal Beta-Jelly Roll Domain for Hyperstability, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
20	OM. <u>Omichi</u> , Improvement of Blood Compatibility on Membrance of Dialyzer by Physisorption of Human Thrombomodulin, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
21	OA. <u>Hibino</u> , Bioconversion of Water-Immiscible Chmicals by Hydrophobic Bacteria, Biological and Chemical Approaches to Selective Processes, RWTH Aachen, ドイツ、ポスター、9月 2010年		
22	OK. <u>Mashima</u> , Direct amination of Allylic Alchols and Benzyl Alcohols by Pt and Au Catalysts, Mini-Symposium Seleca, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、3月 2011年		
23	OH. <u>Ajiro</u> , The Structural Puzzle on the isospecific Cobalt Catalysts for Propylene Oxide Polymerisation, Mini-Symposium Seleca, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、3月 2011年		
24	OT. <u>Hayashi</u> , Supramolecular Hemoprotein Polymers Directed towards Bionanomaterials, Mini-Symposium Seleca, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、3月 2011年		
25	OK. <u>Kadowaki</u> , Construction of Three-dimensional Layered Tissues by Preparation of Layer-by-layer Nanofilms, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭、4月 2011年		
26	OM. <u>Onoe</u> , Rhodium-catalyzed Benzosilole Synthesis via the Activation of Carbon-silicon Bond, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 口頭、大阪大学, 4月 2011年		

27	OC. Budiman, Role of Val-Leu zipper for Dimerization of FKBP22 from a Psychrotrophic Bacterium, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 口頭, 大阪大学, 4月2011年		
28	OY. Ano, Palladium-catalyzed Direct Alkynylation Reaction via the Cleavage of C-H bonds, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 4月2011年		
29	OM. Matsumoto, Complete Surface Control of Peptide Nanospheres with Detachable and Attachable PEG Brush Layers, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 4月2011年		
30	OM. Cheng, Role of Lid2 in Modulation of Activity and Substrate Specificity of a Family 1.3 Lipase with Unique Two Lid Structures, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 口頭, 大阪大学, 4月2011年		
31	OK. Fukumoto, Preparation of an Artificial Metalloenzyme Having a Rhodium Complex into the Cavity of a Protein Matrix, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 4月2011年		
32	ON. Chatani, Catalytic Transformations Involving C-H Bond Activation, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
33	OM. Miura, Copper-Mediated Cross-Coupling via C-H Cleavage, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
34	OY. Ano, Palladium-Catalyzed Direct Alkynylation Reaction of sp ³ C-H Bond, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
35	ON. Kambe, Addition of Heteroatom Compounds Across Carbon-Carbon Unsaturate Bonds Catalyzed by Transition Metals, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
36	ON. Matsuyama, Nickel-Catalyzed Direct Alkynylation of Azole Compounds, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
37	OY. Kita, Rhodium-Catalyzed Silicon-Assisted Cleavage of C-CN Bonds, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
38	OT. Hayashi, New Type of Hydrogenase Functional Model in Cytochrome c Matrix, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
39	OS. Takizawa, Enantioselective Carbon-Carbon Bond-Forming Reactions Using Vanadium(V) Complexes, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
40	OK. Fukumoto, A Biocatalyst Having a Rhodium Complex Into the Cavity of a Protein Matrix, Direct Catalytic Activation of Inert Substrates, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 9月2011年		
41	OH. Ohtake, Sustainable Use of Phosphoros - New Global Challenge, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
42	OM. Akita, Enantioselective Cyclization of 4-Alkenoic Acids via an Oxidative Allylic C-H Esterification, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
43	OT. Kawabata, C1-Symmetric Chiral Rhodium Complexes Catalyzed Asymmetric Alkynylation of α -Ketoester, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
44	OB. Krutsakorn, T. Imagawa, K. Honda, K. Okano, and H. Ohtake, Construction of Artificial Butenol Production Pathway by Synthetic Metabolic Engineering, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		

45	OT. <u>Wakabayashi</u> , Study of Genetianose Metabolism-Related Enzymes Involved in Seed Germination of a Parasitic Weed, Orobanche Minor, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
46	OR. <u>Uehara</u> , Mechanism for Accelerating Maturation of Pro-Tk-Subtilisin with the Mutation at the C-Terminus of Propeptide, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
47	OY. <u>Nakayama</u> , Dynamic Analysis of Central Metabolic Pathway Using Time Course of Isotopomer Ration Change, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
48	OK. <u>Ishido</u> , Bioactive Compounds Produced by Entomopathogenic Fungi, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
49	OH. <u>Shahsavarani</u> , S. <u>Benjaphokee</u> , M. <u>Sugiyama</u> , Y. <u>Kaneko</u> , C. <u>Boonchird</u> , S. <u>Harashima</u> , Molecular Mechanism of High-Temperature Tolerance in Saccharomyces Cerevisiae for Efficient Ethanol Production, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 12月2011年		
50	OT. <u>M. N. Ngueyen</u> , Enantioselective Rahhut-Currier Reaction, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
51	OI. <u>Hyodo</u> , Transition Metal-Catalyzed Regioselective Carbon-Hydrogen Bond Functionalizations of Pyridiness Using Organozinc Reagents, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
52	OS. <u>Sulaiman</u> , Isolation of a Novel Cutinase Homolog with Polyethylene Terephthalate Degrading Activity from Leaf-branch Compost using a Metaqunomic Approach, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
53	OX. <u>Ye</u> , T. <u>Sakai</u> , K. <u>Okano</u> , R. <u>Hirota</u> , A. <u>Kuroda</u> , K. <u>Honda</u> , H. <u>Ohtake</u> , Synthetic Metabolic Engineering-A Novel, Simple Technology to Design a Chimeric Metabolic Pathway, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
54	OY. <u>Nakayama</u> , Dynamic Analysis of Central Metabolic Pathway Using Time Course of Isotopomer Ration Change, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
55	OK. <u>Fukumoto</u> , Development of hybrid catalyst based on the introduction of rhodium complex into the protein matrix, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
56	OY. <u>Hayashi</u> , Additive Effects of Nitrogen-containing Ligands on Transesterificaion Catalyzed by Tetranuclear Zinc Cluster, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
57	OS. <u>Yamamoto</u> , Metqabolite Profiling of Soy Sauce Using Gas Chromatography with Time-of-Flight Mass Spectrometry and Analysis of Correlation with Quantitative Descriptive Analysis, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
58	OT. <u>Suzuki</u> , Intracellular Amino Acid Plays Important Role in Adaptation Response to Lactic Acid in Saccharomyces Cerevisiae, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
59	OM. <u>Numamoto</u> , Regulation of Intracellular Localization and Transcriptional Activity of FLn3 by Protin Phosphatase Siw14in Saccharomyces cerevisiae, Environmentally Benign Bio- and Chemical Processes, 大阪大学, 口頭, 3月2012年		
60	OH. <u>Ohtake</u> , Phosphate Refinery and Recycling for Green Growth, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		

61	<u>OT. Hayashi</u> , Molecular Mechanism of Water Expelling Event in Substrate Binding Site of Cytochrome P450cam, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
62	<u>OM. Akashi</u> , Amphiphilic Poly(amino acid)Nanoparticles for Vaccine Delivery and Immune Adjuvants, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
63	<u>OY. Tobe</u> , Control and Dynamics of Porous Self-Assembled Monolayer Formed at Liquid-Solid Interfaces, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
64	<u>OY. Fukumoto</u> , Catalytic C-C Bond Formations via Vinylidene Metal Complexes, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
65	<u>OK. Mashima</u> , End Functionalized Polymerization of 2-Vinylpyridine through Initial C-H Bond Activation by Yttrium Ene-diamido Complexes, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
66	<u>OM. Miura</u> , Direct Aromatic Coupling under Oxidative Conditions, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
67	<u>ON. Kambe</u> , Transition Metal Catalyzed Coupling Reactions Using Grignart Reagents, Biotechnology and Chemistry for Green Growth,千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 3月2012年		
68	<u>OT. Hayashi</u> , <u>Y. Morita</u> , and <u>K. Oohora</u> , Methionine Synthesis Model: Myoglobin Reconstituted with a Cobalt Tetrahydrocorrin Derivative, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
69	<u>K. Asahi</u> , <u>S. Tsuda</u> , <u>T. Iwasaki</u> , <u>S.-i. Fujiwara</u> , <u>H. Kuniyasu</u> , and <u>ON. Kambe</u> , Asymmetric Arylation of Aldehydes Catalyzed by NHC-Rhodium Complexes Bearing a Cyclodextrin, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
70	<u>OK. Mashima</u> , Homogeneous Multi-Metal Cluster Catalysis, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
71	<u>OH. Ohtake</u> , Biological and Chemical Processes for Specific Phosphorus Recovery, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
72	<u>K. Takenaka</u> , <u>S. C. Mohanta</u> , and <u>OH. Sasai</u> , Umpolung Reactivity of Palladium Enolate, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
73	<u>OH. Ajiro</u> , <u>M. Maegawa</u> , <u>T. Ueyama</u> , and <u>M. Akashi</u> , The Study of Template Effect by Stereocomplex Formation with Isotactic Poly(methyl ethacrylate) and Syndiotactic Poly(methacrylic acid), International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		
74	<u>OT. Iwasaki</u> , <u>R. Shimizu</u> , <u>R. Imanishi</u> , and <u>N. Kambe</u> , Catalytic Alkylation of 1,3-Conjugated Dienes using Alkyl Fluorides and Grignard Reagents, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012年12月4日		

75	OK. Oohora, Y. Kihara, A. Onoda, and T. Hayashi, Enzymatic Hydroxylation by Myoglobin Reconstituted with Mangasese Porphycene, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
76	OT. Satoh, and M. Miura, Chelation-Assisted Oxidative C-H Functionalization under Transition-Metal Catalysis, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
77	OS. Takizawa, F. A. Artega, and Y. Yoshida, S. Vellaisamy, E. Remond, J. Bayardon, S. Juge, H. Sasai, Enantioselective Organocatalyzed Aza-Morita-Baylis-Hillman (Aza-MBH) Reaction of Ketimines, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
78	OM. Tobisu, and N. Chatani, Catalytic Transformations of Aryl Ethers and Cyanides via C-O and C-C Bond Activation, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
79	OM. Asada, Y. Kato, and H. Watanabe, A Novel Hormonal Reporter Assay Using Daphnia Magna: Toward Unravelling Ecodysteroid Activity, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
80	M. Tobisu, OK. Baba, and N. Chatani, Rhodium-catalyzed Synthesis of Germales via the Activation of Carbon-Germanium Bonds, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
81	OL. Fan, S. Takizawa, and H. Sasai, Design and Synthesis of Organocatalysts Bearing Spiro Backbone, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
82	OS. Kakuta, Y. Bando, S. Nishiumi, M. Yoshida, E. Fukusaki, and T. Bamba, Analysis of Oxidized Lipid Derived Volatiles by Gas Chromatography / Mass Spectrometry, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
83	OX. Lin, K. Takenaka, S. Takizawa, and H. Sasai, Study of Asymmetric Environment of SPRIX Ligand, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
84	OH. Okano, X. Hong, E. Kanaya, Y. Koga, and S. Kanaya, Study of Novel Metagenome-derived Esterase (LCE1) from Leaf-and-Branch Comporst, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
85	OJ. Sangwallek, Y. Kaneko, M. Sugiyama, H. Ono, T. Bamba, E. Fukusaki, and S. Harashima, Ketoacyl Synthase Domain of Alpha Subunit of Yeast Fatty Acid Synthase Plays a Major Role in Fatty Acyl Chain Length Determination, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
86	OF. Shima, T. Uto, T. Akagi, and M. Akashi, Regulation of Immune Response by Combining Adjuvant and Nanoparticles Composed of Amphiphilic Poly(γ -glutamic acid), International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		

87	OD. Shiro, H. Nagai, S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, T. Iwasaki, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Palladium-Catalyzed Decarbonylative Rearrangement and Cycloaddition of Carbamoselenoates, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
88	OR. Sonoji, M.-H. Kim, M. Kino-oka, Analysis of Maturation of Human Retinal Pigment Epithelial Cells in Confluent State Through a Measurement of Cell Migration, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
89	OH. Tanahashi, W. Fegler, A. Sauer, H. Tsurugi, J. Okuda, and K. Mashima, Reactivity of Low-valent Tungsten Complexes Generated from High-Valent Species with Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
90	OS. Yamamoto, K. Shige, R. Uchida, A. Obata, T. Bamba, and E. Fukusaki, Comprehensive Searching of Dipeptides in Soy Sauces using Predictive MRM with LC/Q ₀ Q-MS, International Research Training Program "Selectivity in Chemo- and Biocatalysis" Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
91	OZ. Hashim, S-T. Teoh, T. Bamba, and E. Fukusaki, Metabolic Profiling of <i>Saccharomyces cerevisiae</i> Transcription Factor-Related Single Gene Mutants, Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ, 口頭, 2012 年 12 月 4 日		
92	OE. Nagamori, and M. Kino-oka, A Method for Quality Control of Human Myoblast Sheet toward Clinical Transplantation, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
93	OK. Honda, Synthetic Metabolic Engineering-Challenge to In Vitro Biorefinery-, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
94	OK. Takenaka, Y. D. Dhage, S. Takizawa, and H. Sasai, Enantioselective Pd(II)/Pd(IV) Catalysis using SPRIX Ligand: Efficient Synthesis of Chiral Tetrahydrofuran Derivatives, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
95	OK. Hirano, Copper-catalyzed Electrophilic Amination: an Umpolung Strategy C-N Bond Formations, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 12 日		
96	OY. Kita, K. Yamaji, A. Iimuro, S. Kandula, T. Nagano, and K. Mashima, Asymmetric Hydrogenation of Isoquinolinium Salts Catalyzed by Chiral Iridium Complexes, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
97	OT. Uchikata, A. Matsubara, and E. Fukusaki, T. Bamba, High-throughput lipid Profiling System for Dried Plasma Spots using Online-supercritical Fluid Extraction-supercritical Fluid Chromatography/mass Spectrometry, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
98	OY. Ogawa, M.-H. Kim, and M. Kino-oka, Induction of Human Mesenchymal Stem Cell Differentiation into a Cardiomyogenic Lineage through Migration in Aggregate, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013 年 3 月 11-13 日		
99	OY. Yoshida, S. Takizawa, and H. Sasai, Design and Synthesis of Spiro bis(1,2,3-triazolium) Salts as Chiral Ionic Liquids, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイ		

	エンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
100	<u>O.T. Saito, H. Nishiyama, H. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima</u> , Catalytic Hydrodehalogenation of Niobium and Tantalum Complexes Bearing Redox-active α -Diimine Ligands, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
101	<u>M. Tobisu, O.H. Kinuta, Y. Kita, E. Rémond, and N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Borylation of Nitriles through the Cleavage of Carbon-Cyano Bonds, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
102	<u>O.A. Sanagawa, H. Kuniyasu, D. Nakane, T. Iwasaki, K. Bobuatong, Y. Lu, M. Ehara, and N. Kambe</u> , Novel Utility of the Halogen-Exchange Reactions between M-X and RC(O)X' (M = Pt and Pd) (X, X' = Cl, Br, and I), Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
103	<u>O.K. Fukumoto, A. Onoda, and T. Hayashi</u> , Preparation of Rhodium Complex-linked Nitrobindin Mutants as a Catalyst toward <i>trans</i> -rich Phenylacetylene Polymerization, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
104	<u>O.U. Jumhawan</u> , Identification and Characterization of Key Chemical Constituents for the Authentication of Palm Civet Coffee (Kopi Luwak) Using GC-Q/MS, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2013年3月11-13日		
105	<u>O.Y. Kita, Y. Nakahara, D. Nakauchi, and K. Mashima</u> , Nickel-catalyzed Amination of Allylic Alcohols, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、ドイツ、12月2013年		
106	<u>O.K. Yamamoto, H. Tsurugi, and K. Mashima</u> , Dinuclear Tantalum Complexes Bearing Alkyne Coupling Products, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
107	<u>O.A. Iimuro, S. Hida, Y. Kita, and K. Mashima</u> , Iridium-catalyzed Asymmetric Hydrogenation of Pyridinium Salts, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
108	R. Uehara, Y. Koga, and <u>O.S. Kanaya</u> , Thermal Adaptation of TK-Subtilisin from a Hyperthermophilic Archaeon, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
109	<u>O.T. Nakanishi, Y. Kato, and H. Watanabe</u> , Developemnt of CRISPR/CAS9-Mediated Genome Editing Technique in <i>DAPHNIA MAGNA</i> , Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
110	<u>O.Y. Ogawa, M.-H. Kim, and M. Kino-oka</u> , The Effect of Dendrimer-Immobilized Surface on Human Mesenchymal Stem Cell Behavior, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
111	<u>O.S. Itoh</u> , Tuning Copper(I)-Dioxygen Reactivity in a Simple Ligand System, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
112	<u>O.Y. Morimoto, and S. Itoh</u> , Effect of Interaction between Lewis Acid and Oxo-ligand of High-valent Iron-Oxo Species, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
113	<u>O.H. Mitsunaga, L. Meissner, T. Palmen, T. Bamba, L. M. Blank, J. Buchs, and E. Fukusaki</u> , Metabolome Analysis of the Poly (γ -glutaminc acid) Producing Bacteria, <i>Bacillus licheniformis</i> , Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
114	<u>O.E. Fukusaki</u> , Application of Metabolomics to High Resolution Phenotype Analysis, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		
115	<u>O.H. Soga, S. Fuji, T. Yomo, Y. Kato, H. Watanabe, and T. Matsuura</u> , Comparment Size Affects the Protein Membrane Integration Efficiency, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、12月2013年		

116	<u>ON. Chatani</u> , Catalytic Transformation of C(sp ²)-H and C(sp ³)-H Bonds Using Bidentate Directing Groups, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
117	<u>OK. Tahara</u> , Harnessing a Diacetylene Units for Formation of Porous Two-dimensional Network of Dehydrobenzo[12]annulene Derivatives at the Liquid/Solid Interfaces, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
118	<u>OY. Aihara</u> , and <u>N. Chatani</u> , Nickel(II)-Catalyzed Arylation of C(sp ³)-H Bonds via a Bidentate-Chelation Assistance, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
119	<u>OT. Hayashi</u> , <u>Y. Morita</u> , and <u>K. Oohora</u> , A Model of Methionine Synthase: Structure and Function of Myoglobin Reconstituted with a Cobalt Corrinoid, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
120	<u>OT. Himiyama</u> , <u>A. Onoda</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Myoglobin-CdTe Quantum Dot Conjugates with Efficient Photoelectron Transfer Properties, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
121	<u>OM. Miura</u> , Copper-Mediated Direct Aryl-Heteroaryl Coupling, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
122	<u>OY. Nishii</u> , <u>A. Onoue</u> , <u>Y. Kita</u> , and <u>K. Mashima</u> , Combined Catalytic System of Scandium and Boronic Ester for Amide Bond Cleavage, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
123	<u>OG. Choi</u> , <u>H. Tsurugi</u> , and <u>K. Mashima</u> , Dehydrogenative Silylation Catalyzed by Iridium Complexes with Hemilabile <i>N</i> -Xylyl- <i>N'</i> -methylperimidone Carbene, Achen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭, 12月2013年		
124	<u>OM. Matsusaki</u> , and <u>M. Aakash</u> , Construction of 3D-Human Tissue Constructs by Engineered Cell Manipulation, Biotechnology and chemistry for GREEN GROWTH, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
125	<u>OK. Tahara</u> , <u>K. Nakatani</u> , <u>S. De Feyter</u> , and <u>Y. Tobe</u> , Construction of a 2D Porous Network with Long-Range Periodicity at the Liquid/Solid Interface, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
126	<u>OS. Uchiyama</u> , Biophysical Analysis of Chromatin Proteins by Mass Spectrometry and Analytical Ultracentrifugation, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
127	<u>OK. Taguchi</u> , and <u>E. Fukusaki</u> , <u>T. Bamba</u> , Simultaneous Analysis of Bile Acids Including Conjugates by Supercritical Fluid Chromatography Coupled to Mass Spectrometry, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
128	<u>OM. Tobisu</u> , <u>K. Baba</u> , and <u>N. Chatani</u> , Palladium Catalyzed Direct Synthesis of Phosphole Derivatives from Triarylphosphines via Cleavage of Carbon-Hydrogen and Carbon-Phosphorus Bonds, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
129	<u>OK. Oohora</u> , <u>H. Meichin</u> , <u>Y. Kihira</u> , <u>T. Nishiura</u> , <u>T. Matsuo</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Structures and Catalytic Activities of Myoglobin-based Artificial Metalloenzymes Containing a Synthetic Cofactor, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		
130	<u>OH. Nagae</u> , <u>H. Tsurugi</u> , and <u>K. Mashima</u> , Alkyne Insertion into Ti-C Bonds Generated by C-H Activation of Aryl Groups on Imido Ligands Bridging Two Titanium Centers, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2014年3月10日		

131	<u>K. Oohora</u> , <u>T. Mashima</u> , <u>N. Fujimaki</u> , and <u>O.T. Hayashi</u> , Supramolecular Protein Assembly Directed to a Construction of an Artificial Light Harvesting System, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
132	<u>OM. Akashi</u> , Building Block Science: Layer-by-Layer Assemblies of Polymers, Proteins, and Cells by Weak Interactions, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
133	<u>T.-N. Nguyen</u> , <u>E. Kanaya</u> , <u>OS. Kanaya</u> , Structures and Functions of Nobel RNases H Isolated from Leaf-branch Compost by Metagenomic Approach, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
134	<u>OE. Fukusaki</u> , Principle and Application of Stable Isotope Dilution Based Metabolic Turnover Analysis, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
135	<u>OM. Miura</u> , Transition Metal-Catalyzed Cross-Coupling via C–C Bond Cleavage, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
136	<u>S. Takizawa</u> , <u>F. A. Arteaga</u> , <u>Y. Yoshida</u> , <u>M. Suzuki</u> , and <u>OH. Sasai</u> , Organocatalyzed Enantioselective Reactions of Ketimines with Allenates, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
137	<u>ON. Fujieda</u> , and <u>S. Itoh</u> , Oxidative Reactivity of Nobel Non-heme Iron Binding Cupin Superfamily Protein with a 4-His Metal Binding Motif, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
138	<u>OK. Tahara</u> , <u>K. Kunimoto</u> , and <u>Y. Tobe</u> , Synthesis and Self-Assembly of Amphiphilic Molecule Having Photo-Reactive Units toward Synthesis of Two-Dimensional Polymer at Air/Water Interface, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
139	<u>OT. Higuchi</u> , <u>Y. Kita</u> , and <u>K. Mashima</u> , Hydrogenation of Amides Catalyzed by Ru/Zn System, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
140	<u>OH. Nishiyama</u> , <u>T. Saito</u> , <u>H. Tsurugi</u> , and <u>K. Mashima</u> , Catalytic Radical Reaction Catalyzed by Niobium and Tantalum Complexes with α -Diimine Ligands, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
141	<u>M. Tobisu</u> , <u>OK. Nakamura</u> , and <u>N. Chatani</u> , Nickel-catalyzed Transformation Involving the Cleavage of a Carbon–Nitrogen Bond in Aniline Derivatives, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, ドイツ、口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
142	<u>OY. Morita</u> , <u>K. Oohora</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Reconstituted Myoglobin with a Cobalt Tetrahydrocorrin as a Methionine Synthase Model, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
143	<u>OH. Mitsunaga</u> , <u>L. Meissner</u> , <u>T. Palmen</u> , <u>T. Bamba</u> , <u>J. Buchs</u> , and <u>E. Fukusaki</u> , Metabolome Analysis Revealed the Effect of Carbon Catabolite Repression to Poly(α -glutamic) acid Biosynthesis in <i>Bacillus licheniformis</i> , Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
144	<u>OT. Nakamura</u> , <u>E. Nagamori</u> , and <u>M. Kino-oka</u> , Spatial Habitation of Heterogeneous Cell Population in a Multi-Layered Myoblast Sheet Due to the Differences in their Behaviors of Migration and Cell–Cell Connection, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
145	<u>OY. Unoh</u> , <u>K. Hirano</u> , <u>T. Satoh</u> , and <u>M. Miura</u> , Silver- or Manganese-Mediated Facile Synthesis of Benzophenone Derivatives via P ^H /C–H Direct Functionalization, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、2014 年 9 月 3–5 日		
146	<u>OM. Shigenobu</u> , <u>K. Takenaka</u> , and <u>H. Sasai</u> , Palladium-Catalyzed Direct C–H Arylation of Isoxazoles at their 5-Position, Aachen–Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭、2014 年 9 月 3–5 日		

147	OM. Paul, H. Tsurugi, and K. Mashima, Preparation of Cerium Complexes with Pentadentate Salen-Based Ligand and their Activity as Catalysts for Aerobic Oxidation of Arylmethanol, Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭, 2014 年 9 月 3-5 日		
148	OM. Sako, S. Takizawa, Y. Yoshida, J. Kodera, and H. Sasai, Enantioselective C-C Bond Forming Reactions Catalyzed by Vanadium (V) Complex, Aachen-Osaka Joint Symposium, RWTH Aachen, 口頭, 2014 年 9 月 3-5 日		
149	OY. Tobe, Adaptable Molecular Building Block in On-surface Self-assembly, Biotechnology and chemistry for GREEN GROWTH, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
150	ON. Chatani, Ni(II)-catalyzed Cross-dehydrogenative Coupling between C(sp ²)-H in Benzamides and C(sp ³)-H in Toluene Derivatives, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
151	OK. Okano, K. Honda, and H. Ohtake, Assembly and Multiple gene expression of Thermophilic Enzymes in <i>Escherichia coli</i> for In Vitro Metabolic Engineering, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
152	ON. Kambe, and T. Iwasaki, M. Ebara, Carbon-Carbon Bond Forming Reactions Catalyzed by Transition Metal Ate Complexes, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
153	Y. Morimoto, S. Bunno, H. Sugimoto, N. Fujieda, and OS. Itoh, Direct Hydroxylation of Aliphatic and Aromatic Compounds Catalyzed by Nickel Complexes, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
154	OD. Shiro, S.-I. Fujiwara, S. Tsuda, T. Iwasaki, H. Kuniyasu, and N. Kambe, AlCl ₃ -catalyzed Insertion of Isocyanides into Nitrogen-sulfur Bonds of Sulfenamides, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
155	OH. Mitsunaga, L. Meissner, T. Palmen, T. Bamba, J. Buchs, and E. Fukusaki, Metabolome Analysis Revealed the Effect of Carbon Catabolite Repression to Poly(γ -glutamic acid) Biosynthesis in <i>Bacillus licheniformis</i> , Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
156	OH. Tanahashi, W. Fegler, A. Sauer, H. Tsurugi, J. Okuda, and K. Mashima, Salt-free Reduction of High valent Tungsten Chloride Complexes Using Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		ドイツ
157	OM. Shigenobu, K. Takenaka, and H. Sasai, Palladium-catalyzed Direct C5 Arylation of Isoxazoles: Mechanistic Study and Application, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
158	OH. Okano, E. Kanaya, M. Ozaki, C. Angkawidjaja, and S. Kanaya, Structure, Activity and Stability of Metagenome-derived Glycoside Hydrolase Family 9 Endoglucanase with and N-Terminal Ig-like Domain, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
159	OT. Himiyama, D. Sauer, A. Onoda, J. Okuda, and T. Hayashi, An Artificial Biocatalyst with a Covalently-linked Metal Terpyridine Complex in Nitrobindin, Biotechnology and Chemistry for Green Growth, 千里ライフサイエンスセンター, 口頭, 2015 年 3 月 10 日		
160	OY. Koga, R. Uehara, H. Fukuda, K. Takano, and S. Kanaya, Studies on enantioselectivity of lipase from <i>Burkholderia cepacia</i> KWI-56, 5th International Congress on Biocatalysis 2010, Hamburg, ドイツ, 口頭, 8 月 2010 年		
161	OY. Koga, R. Uehara, H. Fukuda, K. Takano, and S. Kanaya, Thermodynamic analysis of enantioselectivity of mutant lipases, The Eleventh China-Japan-Korea Joint Symposium on Enzyme Engineering, Chengdu, 中国, ポスター, 11 月 2010 年		

162	OS. Yamato, E. Kanaya, S. Salaiman, J. J. Kim, Y. Koga, K. Takanao, and S. Kanaya, Isolation of a Bacterial Cuntinase Homolog from Leaf-branch Compost Using Metagenomic Approach, 4th Congress of the European Microbiologists (FEMS 2011), Geneva、スイス、ポスター、6月2011年		
163	OY. Koga, R. Uehara, H. Fukuda, K. Takano, and S. Kanaya, Studies on Enantioselectivity of Lipase from Burkholderia Cepacia KWI-56, Enzyme Engineering XXI, Colorado、アメリカ、ポスター、9月2011年		
164	OM. Cheng, C. Angkawidjaja, Y. Koga, S. Kanaya, Rational Design of a Family I.3 Lipase Possessing Calcium-independent Activities, 26th Protein Symposium, San Diego、アメリカ、ポスター、8月2012年		
165	OB. Kang, K. Honda, T. Aki, T. Omasa, and H. Ohtake, A New Methods for Screening Oil-producing Microorganisms, International Conference on Water Reuse and Desalination, Deagu、韓国、ポスター、4月2011年		
166	OE. Restiawary, K. Honda, T. Omasa, A. Kuroda, and H. Ohtake, Feasibility of a Thermo-tolerant ATP Regeneration System Using Thermus Theermophilus Polyphosphate Kinase, Asian Congress on Biotechnology, Shanghai、中国、ポスター、5月2011年		
167	OX. Ye, K. Honda, T. Omasa, and H. Ohtake, Construction of chimeric glycolytic pathway by synthetic metabolic engineering, International Union of Microbiological Societies 2011, 札幌、ポスター、9月2011年		
168	OM. Tobisu, Y. Ano, N. Chatani, Palladium-Catalyzed Direct Alkynylation of C(sp ³)-H Bonds, 16th IUPAC Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis (OMCOS), 上海、中国、poster, 6月2011年		
169	OY. Ano, M. Tobisu, and N. Chatani, Direct Ethynylation of Aliphatic Carboxylic Acid Derivatives Using Palladium Catalysis, International Symposium on Organometallic Chemistry 2011, 大阪大学、口頭、11月2011年		
170	OY. Ano, M. Tobisu, and N. Chatani, Palladium-Catalyzed Direct Ethynylation of Aliphatic Acid Derivatives, The 11th Grobal COE International Symposium: Bio-Environmental Chemistry, 大阪大学、口頭、12月2011年		
171	M. Tobisu, OY. Ano, and N. Chatani, Palladium-Catalyzed Direct Alkynylation of Aromatic Carbon-Hydrogen Bonds, International Symposium on Environmentally Benign Synthesis, 大阪大学中之島センター、口頭、S-5, 2010年10月		
172	M. Tobisu, OM. Onoe, K. Baba, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Benzosilole Synthesis via the Activation of Carbon-Silicon Bond, International Symposium on Environmentally Benign Synthesis, 大阪大学中之島センター、ポスター、P-20, 2010年10月		
173	M. Tobisu, OM. Onoe, K. Baba, and N. Chatani, Synthesis of Silole Derivatives via the Rhodium-Catalyzed Carbon-Silicon Bond Cleavage, 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Hawaii Convention Center, アメリカ、ポスター、1540, 2010年12月		
174	M. Tobisu, OY. Ano, and N. Chatani, Palladium-Catalyzed Direct Alkynylation of Carbon-Hydrogen Bond in Benzenes, 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Hawaii Convention Center, アメリカ、口頭、1961, 2010年12月	○	
175	M. Tobisu, OI. Hyodo, and N. Chatani, Nickel-Catalyzed Regioselective C-H Arylation of Pyridine Derivatives, 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, Hawaii Convention Center, アメリカ、口頭、2358, 2010年12月	○	
176	M. Tobisu, OM. Onoe, K. Baba, Y. Kim, and N. Chatani, Synthesis of Benzosilole Derivatives Using Rhodium-Catalyzed C-Si Bond Activation Protocol, 16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis, Shanghai International Convention Center, ポスター、P-020, 2011年7月	○	

177	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.I. Hyodo</u> , and <u>N. Chatani</u> , Regioselective Functionalization of Acridine by Using Organozinc Reagents, 16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis, Shanghai International Convention Center, ポスター, P-023, 2011 年7月	○	
178	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.Y. Ano</u> , and <u>N. Chatani</u> , Palladium-Catalyzed Direct Alkynylation of C(sp ³)-H Bonds, 16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis, Shanghai International Convention Center, ポスター, P-021, 2011 年7月	○	
179	<u>O.Y. Ano</u> , <u>M. Tobisu</u> , and <u>N. Chatani</u> , Direct Ethynylation of Aliphatic Carboxylic Acid Derivatives Using Palladium Catalysis, International Symposium on Organometallic Chemistry 2011, 大阪大学, ポスター, P-28, 2011 年 11 月		
180	<u>O.Y. Ano</u> , <u>M. Tobisu</u> , and <u>N. Chatani</u> , Palladium-Catalyzed Direct Ethynylation of Aliphatic Acid Derivatives, The 11th Global COE International Symposium: Bio-Environmental Chemistry, 大阪大学, 口頭, S-3, 2011 年 12 月		
181	<u>O.I. Hyodo</u> , <u>M. Tobisu</u> , and <u>N. Chatani</u> , Transition Metal-Catalyzed Regioselective C-H Bond Functionalizations of Acridines Using Organozinc Reagents, The 11th Global COE International Symposium: Bio-Environmental Chemistry, 大阪大学, 口頭, S-13, 2011 年 12 月		
182	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.M. Onoe</u> , and <u>N. Chatani</u> , Synthesis of Chiral Benzosiloles via the Rhodium-Catalyzed Enantioselective Activation of Carbon-Silicon Bond, The 11th Global COE International Symposium: Bio-Environmental Chemistry, 大阪大学, 口頭, S-25, 2011 年 12 月		
183	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.M. Onoe</u> , <u>K. Baba</u> , Y. Kim, Y. Kita, and <u>N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Synthesis of Benzosilole Derivatives via the Cleavage of a Carbon-Silicon Bond, Challenges in Organic Chemistry and Chemical Biology, University of Edinburgh, ポスター, P189, 2012 年 6 月		
184	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.H. Kinuta</u> , Y. Kita, E. Rémond, and <u>N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Borylation of Nitriles through the Cleavage of Carbon-Cyano Bonds, The 18th International Symposium on Homogeneous Catalysis, Pierre Baudis Conference Centre, ポスター, P072, 2012 年 7 月	○	
185	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.K. Baba</u> , and <u>N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Synthesis of Germoles via the Activation of Carbon-Germanium Bonds, Aachen-Osaka Symposium "Biological and Chemical Methods for Selective Catalysis", RWTH Aachen University, 口頭, 2012 年 12 月	○	
186	<u>M. Tobisu</u> , <u>O. H. Kinuta</u> , Y. Kita, E. Rémond, and <u>N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Borylation of Nitriles through the Cleavage of Carbon-Cyano Bonds, 245th ACS National Meeting & Exposition, Morial Convention Center, ポスター, ORGN555, 2013 年 4 月		
187	<u>O.Y. Aihara</u> , and <u>N. Chatani</u> , Ruthenium-Catalyzed Direct Arylation of C-H Bonds in Aromatic Amides Containing a Bidentate Directing Group, 245th ACS National Meeting & Exposition, Morial Convention Center, ポスター, INOR955, 2013 年 4 月	○	
188	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.K. Nakamura</u> , and <u>N. Chatani</u> , Nickel-Catalyzed Transformations Involving the Cleavage of a Carbon-Nitrogen Bond in Aniline Derivatives, The 3rd International Symposium on Molecular Activation, Steamboat Springs, 口頭, 1, 2013 年 7 月	○	
189	<u>M. Tobisu</u> , <u>O.K. Nakamura</u> , and <u>N. Chatani</u> , Nickel-Catalyzed Transformations Involving the Cleavage of a Carbon-Nitrogen Bond in Aniline Derivatives, the 17th IUPAC International Symposia on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis, the Lincoln Center, ポスター, 185, 2013 年 7 月	○	
190	<u>O.Y. Aihara</u> , and <u>N. Chatani</u> , Nickel-Catalyzed Ortho C-H Bond Alkylation of Aromatic Amides with Unactivated Alkyl Halides via Bidentate-Chelation Assistance, International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis, 北海道大学, ポスター, 2P-30, 2013 年 8 月	○	
191	<u>O.K. Shibata</u> , and <u>N. Chatani</u> , Rhodium-Catalyzed Reaction of C-H Bonds in Benzamides with α, β -Unsaturated Carbonyl Compounds Using a Bidentate-Chelation System, 2nd International Symposium on C-H Activation, University of Rennes, ポスター, P-8, 2014 年 7	○	

	月		
192	OT. Furukawa, M. Tobisu, and N. Chatani, Visible Light-Mediated Direct Arylation of Arenes and Heteroarenes with Diaryliodonium Salts in the Presence and Absence of a Photocatalyst, The 19th International Symposium on Homogeneous Catalysis, the Ottawa Convention Center, ポスター, 0117, 2014 年 7 月	○	
193	M. Tobisu, OH. Kinuta, J. Hasegawa, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Borylation of Aryl Pivalates through the Cleavage of Carbon-Oxygen Bonds, The 19th International Symposium on Homogeneous Catalysis, the Ottawa Convention Center, ポスター, 0187, 2014 年 7 月	○	
194	OY. Aihara, N. Chatani, Nickel(II)-Catalyzed Direct Arylation of C(sp ³)-H Bonds via a Bidentate-Chelation Assistance, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka, 大阪大学, ポスター, 1, 2014 年 7 月	○	
195	OK. Shibata, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Reaction of C-H Bonds in Benzamides with α, β -Unsaturated Carbonyl Compounds Using a Bidentate-Chelation System, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka, 大阪大学, ポスター, 11, 2014 年 7 月	○	
196	OT. Furukawa, M. Tobisu, and N. Chatani, Visible Light-Mediated Direct Arylation of Arenes and Heteroarenes with Diaryliodonium Salts in the Presence and Absence of a Photocatalyst, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka, 大阪大学, ポスター, 44, 2014 年 7 月		
197	OK. Baba, M. Tobisu, and N. Chatani, Palladium-Catalyzed Direct Synthesis of Phosphole Derivatives from Triarylphosphines via Cleavage of Carbon-Hydrogen and Carbon-Phosphorus Bonds, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka, 大阪大学, ポスター, 49, 2014 年 7 月		
198	M. Tobisu, OK. Nakamura, and N. Chatani, Nickel-Catalyzed Transformation Involving the Cleavage of a Carbon-Nitrogen Bond in Aniline Derivatives, JSPS Japanese-German Graduate Externship International Symposium Biological and Chemical Methods for Selective Catalysis, RWTH Aachen University, 口頭, 2014 年 9 月		
199	OK. Shibata, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Reaction of C-H Bonds in Benzamides with α, β -Unsaturated Carbonyl Compounds Using a Bidentate-Chelation System, ETH Zürich-Osaka Univ. Joint Symposium, 大阪大学, ポスター, P19, 2014 年 10 月		
200	OT. Furukawa, M. Tobisu, and N. Chatani, Direct Borylation of Aromatic C-H Bonds Catalyzed by Platinum N-Heterocyclic Carbene Complex, , ETH Zürich-Osaka Univ. Joint Symposium, 大阪大学, ポスター, P20, 2014 年 10 月		
201	M. Tobisu, OK. Nakamura, and N. Chatani, Nickel-Catalyzed Transformation Involving the Cleavage of a Carbon-Nitrogen Bond in Aniline Derivatives, The 9th International Symposium of Integrated Synthesis, 淡路夢舞台国際会議場, ポスター, P42, 2014 年 11 月		
202	ON. Chatani, Catalytic Transformations Involving Activation of Unreactive Bonds, Japan-Turkish Organometallic Catalysis Workshop, Izmir, Turkey, 口頭, 2010 年 9 月	○	
203	ON. Chatani, Catalytic Reactions Involving Activation of Unreactive Bonds, Japan-Korea Symposium on Organometallic Chemistry, Nara, Japan, 口頭, 2010 年 10 月		
204	ON. Chatani, Catalytic Transformations Involving Activation of Unreactive Bonds, 3rd Peking University-Elli Lilly Symposium, Beijing, China, 口頭, 2010 年 10 月		
205	ON. Chatani, Regioselective Carbonylation of Unactivated C(sp ³)-H Bonds in Aliphatic Amides, 15th Japan-Korea Joint Seminar on Organic Chemistry, Gyeongju, Korea, 口頭, 2011 年 9 月		
206	ON. Chatani, Regioselective Carbonylation of Unactivated C(sp ³)-H Bonds in Aliphatic Amides, 10th International Symposium on Organic Reactions (ISOR-2011), Yokohama, Japan, 口頭, IL-7B, 2011 年 11 月		
207	ON. Chatani, Catalytic Transformations Involving Activation of C-H Bonds Utilizing a		

	Bidentate Directing System, Tianjin, China, 口頭, 2011年11月		
208	ON. Chatani, Regioselective Carbonylation of Unactivated C(sp ³)-H Bonds Catalyzed by Ru ₃ (CO) ₁₂ , International Symposium on Catalysis and Fine Chemicals 2011 (C&FC2011), Nara, Japan, 口頭, IL-11, 2011 年 12 月		
209	ON. Chatani, Transformations Involving Activation of C-H Bonds Utilizing a Bidentate Directing System, International Conference on Functional Organic Materials and Related Devices, Hsinchu, Taiwan, 口頭, 2012 年 6 月		
210	ON. Chatani, Chelation-Assisted Transformations Involving C-H Bond Activation, 18th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC-XVIII), Toulouse, France, 口頭, IL6, 2012 年 7 月		
211	ON. Chatani, Catalytic Transformations Involving Activation of Unreactive Bonds, 6th Spanish-Portuguese-Japanese Organic Chemistry Symposium (6th SPJ-OCS), Lisbon, Portugal, 口頭, 2012 年 7 月		
212	ON. Chatani, Transformations Involving C-H Bond Activation Utilizing a Bidentate Directing System, 7th Asian-European Symposium on Metal-Mediated Efficient Organic Synthesis, Tarragona, Spain, 口頭, 2012 年 7 月		
213	ON. Chatani, Catalytic Reactions Involving Activation of Unreactive Bonds, The 6th Kansai-CMDS Meeting on OMCOS, Sorak Mt., Korea, 口頭, 2012 年 9 月		
214	ON. Chatani, Chelation-Assisted Transformations Involving C-H Bond Activation, The 1st International Symposium on C-H Activation, Beijing, China, 口頭, 2012 年 10 月		
215	ON. Chatani, Cross-Coupling Reactions Involving C-O Bond Activation, 1st International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&Cat), Beijing, China, 口頭, 2012 年 10 月		
216	ON. Chatani, Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds, The 7th International Forum on Chemistry of Functional Organic Chemicals, Tokyo, Japan, 口頭, L03, 2012 年 11 月		
217	ON. Chatani, New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds, 1st Frontier Chemistry Center International Symposium: Next Generation of Molecular Chemistry, Sapporo, Japan, 口頭, 2013 年 2 月		
218	ON. Chatani, Transformations of C-H Bonds through a Bidentate Directed C-H Activation, 245th American Chemical Society National Meeting, New Orleans, USA, 口頭, 2013 年 4 月		
219	ON. Chatani, Transformations of C-H Bonds Using a Bidentate Directed C-H Activation, The 16th Japan-Korea Seminar on Organic Chemistry, Sendai, Japan, 口頭, 2013 年 9 月		
220	ON. Chatani, New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds, The 11th International Symposium on Organic Reaction (ISOR-11), Taipei, Taiwan, 口頭, IL-4A, 2013 年 11 月		
221	ON. Chatani, New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds, The Nagoya Medal of Organic Chemistry 2013, Nagoya, Japan, 口頭, 2013 年 11 月		
222	ON. Chatani, New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds, The 17th Sigma Aldrich Organic Synthesis Meeting, Blankenberge, Belgium, 口頭, L15, 2013 年 12 月		
223	ON. Chatani, New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds Using Bidentate Directing Group, Dr Paul Janssen Lecture Series, Beerse, Belgium, 口頭, 2013 年 12 月		
224	ON. Chatani, Direct Functionalization of C-H Bonds Utilizing New Chelation System, EUCHEM Conference on Stereochemistry: The 49th Bürgenstock Conference, Brunnen, Switzerland, 口頭, 2014 年 5 月		

225	○ <u>N. Chatani</u> , C-H Functionalization Utilizing New Chelation System, 2nd International Symposium on C-H Activation, Rennes, France, 口頭, 2014 年 7 月		
226	○ <u>N. Chatani</u> , New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds Utilizing a Bidentate Directing Group, 2014 Japan-Canada Workshop, Ottawa, Canada, 口頭, 2014 年 7 月		
227	○ <u>N. Chatani</u> , Direct Functionalization of C-H Bonds Utilizing New Chelation System, Germany-Japan Bilateral Meeting on Organic Synthesis and Materials, Berlin, Germany, 口頭, 2014 年 9 月		
228	○ <u>N. Chatani</u> , New Chelation-Assisted Transformations of C-H Bonds Utilizing a N,N-Bidentate Directing Group, ETH Zurich-Osaka Univ. Joint Symposium, Osaka, 口頭, Japan, 2014 年 10 月		
229	○ <u>N. Chatani</u> , Catalytic Functionalization of C-H Bonds Utilizing Bidentate-Chelation System, The 7th Kansai-CMDS Meeting on OMCOS, Hirayu, Japan, 口頭, 2014 年 10 月		
230	○ <u>N. Chatani</u> , A New Stage of Catalytic Functionalization of C-H Bonds, Pure and Applied Chemistry International Conference 2015, Bangkok, Thailand, 口頭, PL-1, 2015 年 1 月		
231	○ <u>N. Chatani</u> , New Chelation-Assisted Functionalization of C-H Bonds Utilizing a Bidentate Directing Group, 13th IBN SINA International Conference on Pure and Applied Heterocyclic Chemistry, Hurghada, Egypt, 口頭, P03, 2015 年 2 月		
232	○ <u>H. Shen</u> , T. Akagi, and <u>M. Akashi</u> , Polyampholyte Nanoparticles Prepared by Amphoteric Poly(amino acid) for Protein Nanocarrier, 242nd ACS National meeting, デンバー, アメリカ, 口頭, 10 月 2011 年		
233	○ <u>M. Akashi</u> , T. Akagi, T. Tatsumi, M. Baba, Biodegradable nanoparticle-based antigen delivery and immunostimulation for vaccine development, ACS National Meeting & Exposition, San Diego, アメリカ, 口頭, 3 月 2012 年		
234	○ <u>M. Akashi</u> , Three-dimensional Layered Tissues by Layer-by-Layer Technique, IUPAC MACRO2012, Virginia, 口頭, 6 月 2012 年		
235	○ <u>M. Matsumoto</u> , <u>M. Matsusaki</u> , and <u>M. Akashi</u> , Complete Surface Control of Peptide Nanospheres with Detachable and Attachable Polymer Brush, SFB 2011 annual meeting & exposition, Florida, 口頭, 4 月 2011 年		
236	○ <u>B. Suthee</u> , M. Sugiyama, D. Hasegawa, S. Hosein, Y. Kaneko, C. Boonchird, and <u>S. Harashima</u> , Molecular Breeding of Yeast Displaying Multiple-stress Tolerance for High-level bioethanol Production, International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, 札幌, 口頭, 9 月 2011 年		
237	○ <u>M. Sugiyama</u> , Y. Kaneko, and <u>S. Harashima</u> , Development of a “Ward processing” technology for a large-scale reorganization of the yeast genome and its applications to synthetic biotechnology, International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, 札幌, 口頭, 9 月 2011 年		
238	○ <u>S. Harashima</u> , Development and applications of a “Word processing technology” for editing the yeast genome, The 23 rd Annual Meeting of the Thai Society of Biotechnology, Bangkok, 口頭, 1 月 2011 年		
239	○ <u>S. Benjaphokee</u> , H. Shahsavarani, M. Sugiyama, T. Asvarak, C. Auesukaree, Y. Kaneko, C. Boonchird, and <u>S. Harashima</u> , Breeding of Superior Yeast Bioethanol Producer with Thai Origin Displaying Multiple Stress Tolerance, The 23 rd Annual Meeting of the Thai Society of Biotechnology, Bangkok, 口頭, 1 月 2011 年		
240	○ <u>H. Sasai</u> , Development of Enantioselective Carbon-Carbon Bond Forming Reactions Using Multi-functional Organocatalyst, International Conference on Functional Organic Materials and Related Devices, Hsinchu, Taiwan, 口頭 I, 6 月 2012 年		

241	OK. Takenaka, M. Akita, S. C. Mohanta, S. Takizawa, and H. Sasai, Enantioselective Carboxylation via a π -Allyl Pd Intermediate Promoted by Pd-SPRIX Catalyst, International Conference on Functional Organic Materials and Related Devices, Hsinchu, 台湾, ポスター、6月2012年		
242	OT. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, S. Takizawa, D. Enders, and H. Sasai, Enantioselective Intramolecular Rauhut-Currier Reaction, 3rd International Symposium on Organic Synthesis and Drug Development, Changzhou, 中国, ポスター、5月2012年		
243	OS. Hirata, S. Takizawa, N. Inoue, and H. Sasai, Organocatalyzed Domino Process Based on the Aza-Morita-Baylis-Hillman (Aza-MBH) Reaction, The 6th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia and The 2nd New Phase International Conference on the Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia, 香港, 中国, ポスター、12月2011年		
244	OS. Takizawa, N. Inoue, S. Hirata, and H. Sasai, Organocatalyzed Domino Process Based on the Aza-Morita-Baylis-Hillman (Aza-MBH) Reaction, The 7th International Symposium on Integrated Synthesis, 神戸, ポスター、10月2011年		
245	OT. M.-N. Nguyen, S. Takizawa, and H. Sasai, Intramolecular Enantioselective Rauhut-Currier Reaction, The 7th International Symposium on Integrated Synthesis, 神戸, ポスター、10月2011年		
246	OH. Sasai, Catalytic Enantioselective Reactions via Pd(II/IV) Catalysis, 14th Asian Chemical Congress 2011, バンコク, タイ, 口頭, 9月2011年		
247	OY. Yoshida, S. Takizawa, and H. Sasai, Development of New Method for an Efficient Synthesis of Spiro Bis(triazole) Derivatives and Their Applications to Asymmetric Catalysis, The 2nd International Symposium on Process Chemistry, 京都, ポスター、8月2011年		
248	OT. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, S. Takizawa, D. Enders, and H. Sasai, Enantioselective Intramolecular Rauhut-Currier Reaction, 3rd International Symposium on Organic Synthesis and Drug Development, Changzhou, 中国, ポスター、2012年5月20-23日		
249	OT. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, S. Takizawa, M. Suzuki, D. Enders, and H. Sasai, Enantioselective Synthesis of α -Methylidene- γ -Butyrolactones: Intramolecular Rauhut-Currier Reaction Promoted by Acid/Base Organocatalysts, First Osaka University-EPFL International Symposium, 大阪, ポスター、2013年12月2-4日		ドイツ
250	OS. Takatani, K. Sugimoto, K. Takenaka, and H. Sasai, Development of Novel Chiral Spiro Ligands Bearing Sulfur Donor, International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis, 上海, 中国, ポスター、7月2011年		ドイツ
251	OY. Yang, Y. Hayashi, Y. Fujii, T. Nagano, Y. Kita, J. Okuda, T. Oshima, and K. Mashima, Efficient Cyclic Carbonate Synthesis Catalyzed by Zinc Cluster Systems under Mild Conditions, International Symposium on Organometallic Chemistry 2011, 大阪大学、 Σ ホール, ポスター、11月2011年		
252	OH. Tanahashi, W. Fegler, A. Sauer, H. Tsurugi, J. Okuda, and K. Mashima, Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene As Unique Reducing Reagent to Generate Low-valent Tungsten Complexes, The 16 th International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), 北海道, ポスター、2013年8月6日		ドイツ
253	OT. Saito, H. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Preparation of α -Diimine Tantalum Complexes and Electron Transfer Reaction by the Ligand-Centered Redox Behavior, International Symposium on Organometallic Chemistry 2011, 大阪大学、 Σ ホール, ポスター、11月2011年		ドイツ
254	OY. Hayashi, Y. Maegawa, K. Agura, T. Iwasaki, T. Oshima, and K. Mashima, Mechanistic Studies of Tetranuclear Zinc Cluster-Catalyzed Transesterification, International Symposium on Organometallic Chemistry 2011, 大阪大学、 Σ ホール, ポスター、11月2011年		

255	○Y. Hayashi, Y. Maegawa, T. Ohshima, and K. Mashima, Zinc and Cobalt Complexes with Chelating Nitrogen Ligands as Catalysts for Transesterification, The 11 th Global COE International Symposium: Bio-Environmental Chemistry, 大阪大学、口頭、2011年12月20日		
256	○T. Saito, H. Tanahashi, H. Nishiyama, H. Tsurugi, K. Mashima, Reductive Cleavage of Carbon-Halogen Bonds Mediated by (α -diimine)MCl ₃ (M = Ta and Nb) Complexes Through Ligand-Based Redox Events, 244th ACS National Meeting, フィアデルフィア, アメリカ, 口頭、2012年8月22日		
257	○T. Saito, H. Nishiyama, H. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene Derivatives as Metal-Waste Free Reducing Reagents for Early Transition Metal Species, The 3rd International Symposium on Molecular Activation, コロラド, アメリカ, 口頭、2013年7月26日		
258	○Y. Hayashi, Y. Maegawa, K. Agura, T. Iwasaki, T. Ohshima, and K. Mashima, Mechanistic Studies on Transesterification Catalyzed by Tetranuclear Zinc Cluster, 16 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 16), 上海、中国、ポスター、2011年7月25日		
259	○T. Saito, H. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Preparation of α -Diimine Tantalum Complexes and Electron Transfer Reaction by the Ligand-Centered Redox Behavior, International Symposium on Organometallic Chemistry (ISOMC 2011), 大阪大学, ポスター、2011年11月11日		
260	○Y. Hayashi, Y. Maegawa, T. Ohshima, and K. Mashima, Transesterification Catalyzed by Zinc and Cobalt Complexes with Chelating Nitrogen Ligands, International Symposium on Organometallic Chemistry (ISOMC 2011), 大阪大学, ポスター、2011年11月11日		
261	○Y. Kita, Y. Nishii, T. Higuchi, and K. Mashima, Zinc-Catalyzed Amide-Cleaved Esterification of β -Hydroxyethylamides, International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC XVIII), トウールーズ、フランス、ポスター、2012年7月9-13日		
262	○Y. Kita, Y. Nishii, T. Higuchi, and K. Mashima, Esterification of β -Hydroxyethylamides Catalyzed by Zinc Complex, 17 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 17), コロラド, アメリカ, ポスター、2013年7月29日		
263	○H. Nishiyama, T. Saito, H. Tsurugi, and K. Mashima, Application of Salt-Free Reduction Methodology for Generating Low-Valent Tantalum Species, 17 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 17), コロラド, アメリカ, ポスター、2013年7月29日		
264	○T. Saito, H. Nishiyama, H. Tanahashi, T. Hayato, and K. Mashima, Salt-Free Synthesis of TaCl ₅ (α -Diimine) and TaCl ₄ (α -Diimine) with Redox-Active α -Diimine Ligands by Organosilicone Reductants, The 2nd Japan-France Coordination Chemistry Symposium 2013, 東大寺総合文センター, ポスター、2013年11月24日		
265	○H. Nishiyama, T. Saito, H. Tsurugi, and K. Mashima, 1-Methyl-3,6-bis(trimethylsilyl)-1,4-cyclohexadiene as a Hydrogen Atom Donor for Hydrodehalogenation Catalyzed by Group 5 Metal Complexes with Ene-diamido Ligands, 2nd International Symposium on C-H bond Activation (ISCHA 2014), レンヌ、フランス、ポスター、2014年6月30-7月3日		
266	○Y. Kita, K. Yamaji, A. Imuro, S. Kandula, and K. Mashima, Asymmetric Hydrogenation of Isoquinolinium Salts Catalyzed by Iridium Dinuclear Complex, 19 th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC2014), オタワ、カナダ、ポスター、2014年7月6-11日		
267	○G. Choi, H. Tsurugi, and K. Mashima, C-H Bond Activation of Imine-Based Substrates by (Acetate)iridium Complexes with Perimidine-Based Carbene Ligands, 244th ACS National Meeting, Philadelphia, USA, 口頭、2012年8月20日		

268	OH. Tanahashi, Salt-Free Reduction of Tungsten Halides by Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene Derivatives, ノーベル化学賞受賞科学者を交えた研究交流会, 大阪大学, 口頭、2013年7月12日		
269	OH. Tanahashi, T. Saito, H. Tsurugi, and K. Mashima, Salt-Free Reduction of WCl_6 by Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene Derivatives and its Application for ROMP of Norbornene, International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM XIX)、レンヌ、フランス、ポスター、2011年7月11-12日		
270	OH. Nagae, H. Kaneko, H. Tsurugi, K. Mashima, C-H Bond Activation by Yttrium Alkyl Complex with Ene-diamido Ligand Through σ -Bond Metathesis Reaction, International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM XIX)、レンヌ、フランス、ポスター、2011年7月11-12日		
271	OH. Nagae, H. Kaneko, H. Tsurugi, and K. Mashima, Synthesis of End-Functionalized Poly(2-Vinylpyridine) Catalyzed by Yttrium-Alkyl Complexes, 1st International Symposium on Molecular Activation, 淡路夢舞台、ポスター、2011年10月9-10日		
272	OH. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Reduction of WCl_6 by Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene Derivatives and Synthesis of Tungsten Complex Bearing Redox Active Ligand, International Symposium on Organometallic Chemistry (ISOMC 2011), 大阪大学, ポスター, 2011年11月11日		
273	OH. Nagae, H. Kaneko, H. Tsurugi, and K. Mashima, Syntheses and Reactivity of Fully Delocalized Mixed-Valent Imido-Bridged $[Ti_2]^{7+}$ complexes, International Symposium on Organometallic Chemistry (ISOMC 2011), 大阪大学, ポスター, 2011年11月11日		
274	OG. Choi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Kinetic Study on the Cyclometallation Reaction affording Bis(cyclometalated)iridium Complexes and Reactivity of Carboxylate-Ir(NHC)(cod) Complexes, International Symposium on Organometallic Chemistry (ISOMC 2011), 大阪大学, ポスター, 2011年11月11日		
275	OK. Yamamoto, T. K. Panda, K. Yamamoto, H. Kaneko, Y. Yi, H. Tsurugi, and K. Mashima, reparation of Iminopyrrolyl and Amidopyrrolyl Complexes of Group 2 Metals and Their Catalytic Reactivity toward Ring-opening Polymerization of ϵ -Caprolactone, International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC XVIII), トウールーズ、フランス、ポスター、2012年7月9-13日		
276	OH. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Salt-Free Reducing Reagent of Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene Mediates Reduction of Chloride Complexes of Tungsten for ROMP of Norbornene, 20 th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM XX), 東大寺総合文化センター、ポスター、2013年7月14日		
277	OA. Imuro, K. Yamaji, S. Kandula, T. Nagano, Y. Kita, and K. Mashima, Synthesis of Optically Active 1,2,3,4-Tetrahydroisoquinolines by Iridium-Catalyzed Asymmetric Hydrogenation of Isoquinolinium Salts, 17 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 17), コロラド、アメリカ、2013年7月29日		
278	OY. Nishii, A. Onoue, Y. Kita, and K. Mashima, Combined catalytic system of Scandium and Boronic esters for Amide Bond Cleavage, 17 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 17), コロラド、アメリカ、2013年7月29日		
279	OK. Yamamoto, T. Yasumoto, H. Tsurugi, and K. Mashima, Isolelective Living Polymerization of 1-Hexene by Half-Metallocene Dimethyl Complexes of Group 4 Metals with Iminomethylpyrrolyl Ligands, 17 th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 17), コロラド、アメリカ、ポスター、2013年7月29日		

280	OH. Nagae, H. Kaneko, H. Tsurugi, and K. Mashima, End-Functionalized Polymerization of 2-Vinylpyridine through Initial C-H Bond Activation of <i>N</i> -Heteroaromatics and Internal Alkynes by Yttrium Alkyl Complex bearing with Dianionic Ene-Diamido Ligand, The 16 th International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), 北海道大学、ポスター、2013 年 8 月 6 日		
281	OH. Nagae, H. Tsurugi, and K. Mashima, Aminoalkylation of an <i>ortho</i> -C-H Bond of Pyridine Derivatives Mediated by Group 3 Metal Complexes, 2nd International Symposium on C-H bond Activation (ISCHA 2014), レンヌ、フランス、ポスター、2014 年 6 月 30-7 月 3 日		
282	OK. Yamamoto, T. Hayato, and K. Mashima, C-H Bond Activation and Functionalization at the α -Position of the Alkyl Group Bound to Tantalacyclopentadiene, 2nd International Symposium on C-H bond Activation (ISCHA 2014), レンヌ、フランス、ポスター、2014 年 6 月 30-7 月 3 日		
283	OA. Imuro, S. Hida, Y. Kita, K. Mashima, Iridium-Catalyzed Asymmetric Hydrogenation of Multi-Substituted Pyridinium Salts, 19 th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC2014), オタワ、カナダ、ポスター、2014 年 7 月 6-11 日		
284	OY. Nishii, A. Onoue, Y. Kita, K. Mashima, Combined Catalyst System of Scandium and Boronic Ester for Amide Bond Cleavage, 19 th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC2014), オタワ、カナダ、ポスター、2014 年 7 月 6-11 日		
285	OT. Higuchi, Y. Kita, and K. Mashima, Hydrogenation of Amides Catalyzed by Ru/Zn System, 19 th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC2014), オタワ、カナダ、ポスター、2014 年 7 月 6-11 日		
286	OH. Tanahashi, H. Tsurugi, and K. Mashima, Salt-Free Reduction of Tungsten Chloride Complexes Using Bis(trimethylsilyl)cyclohexadiene, 41st International Conference on Coordination Chemistry (ICCC-41), Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre, シンガポール、ポスター、2014 年 7 月 21-25 日		
287	OM. Paul, H. Tsurugi, and K. Mashima, Synthesis and Reactivity of Trivalent and Tetravalent Cerium Complexes with Salen-Based Pentadentate Ligands, 41st International Conference on Coordination Chemistry (ICCC-41), Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre, シンガポール、ポスター、2014 年 7 月 21-25 日		
288	OM. Paul, H. Tsurugi, and K. Mashima, Preparation of Cerium Complexes with Pentadentate Salen Based Ligands and Their Catalytic Activity for Aerobic Oxidation of Arylmethanol, The 2 nd International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&cat), 東大寺総合文化センター、ポスター、2014 年 10 月 26-29 日		
289	OY. Nishii, A. Onoue, Y. Kita, and K. Mashima, Unique Additive Effect on Scandium Catalyzed Amide Bond Cleavage Reaction, The 2 nd International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&cat), 東大寺総合文化センター、ポスター、2014 年 10 月 26-29 日		
290	OK. Yamamoto, H. Tsurugi, and K. Mashima, C-H Bond Functionalization at the α -Position of the Alkyl Group Bound to Tantalacyclopentadiene, The 2 nd International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&cat), 東大寺総合文化センター、ポスター、2014 年 10 月 26-29 日		
291	OT. Higuchi, Y. Kita, and K. Mashima, Combined Catalyst System of Ru/Zn for Hydrogenation of Amides, The 2 nd International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&cat), 東大寺総合文化センター、ポスター、2014 年 10 月 26-29 日		
292	OT. Higuchi, Y. Kita, and K. Mashima, Hydrogenation of Amides Catalyzed by Ruthenium Complex with Zinc Salt, The 1 st International Symposium on Interactive Materials Science Cadet Program, ホテル阪急エキスポパーク、ポスター、2014 年 11 月 16-19 日		

293	OE. O. Fukushima, H. Seki, K. Ohyama, N. Umemoto, S. Sawai, K. Saito, and T. Muranaka, CYP716A12: a Multifunctional Enzyme in Triterpenoid Biosynthesis, TERPNET, Kalmar, Sweden, poster, 5月2011年		
294	ON. Matsuyama, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Nickel-Catalyzed Direct Alkynylation of Azoles, The 16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis, 上海, 中国, ポスター, 7月2011年		
295	OM. Miura, Development of Direct Aromatic Coupling by Transition Metal Catalysis, IBS Symposium, リッツカールトンホテル, 韓国, 口頭, 2012年9月5-7日		
296	OT. Satoh, and M. Miura, Synthesis of Fused Heterocycles via Transition-Metal-Catalyzed Direct Annulation, FLOHET-2013 Annual Florida Heterocyclic and Synthetic IUPAC-Sponsored Conference, フロリダ大学, アメリカ, 口頭, 2013年3月5日		
297	OT. Satoh, and M. Miura, Transition-Metal-Catalyzed Dehydrogenative Coupling through Carboxyl Group-Directed C-H Bond Cleavage, The 3rd International Symposium on Molecular Activation, Sheraton Steamboat Resort, アメリカ, 口頭, 2013年7月15-28日		
298	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Palladium-Catalyzed Decarboxylative Arylation of Benzoylacrylic Acids To Produce Chalcone Derivatives, 20th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM XX), 東大寺総合文化センター, ポスター, 2013年7月16日		
299	OK. Hirano, N. Matsuda, T. Satoh, and M. Miura, Copper-Catalyzed Aminoboration of Alkenes with Bis(pinacolato)diboron and Hydroxylamines, 20th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM XX), 東大寺総合文化センター, ポスター, 2013年7月18日		
300	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Palladium-Catalyzed Decarboxylative Arylation of Benzoylacrylic Acids, 17th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS17), Lincoln Center, アメリカ, ポスター, 2013年7月29日		
301	OT. Satoh, M. Itoh, K. Hirano, and M. Miura, Transition-Metal-Catalyzed Dehydrogenative Cyclization via Double C-H Bond Cleavages, 17th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS17), Lincoln Center, アメリカ, ポスター, 2013年7月29日		
302	OK. Hirano, Copper-Catalyzed Aminoboration of Alkenes with Bis(pinacolato)diboron and Hydroxylamines, 17th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis(OMCOS17), Lincoln Center, アメリカ, 口頭, 2013年7月31日		
303	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Palladium-Catalyzed Decarboxylative Coupling: Synthesis of Chalcone Derivatives, The Sixteenth International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), 北海道大学学術交流会館, ポスター, 2013年8月6日		
304	OM. Miura, Direct Aromatic Coupling by Transition Metal Catalysis, The Sixteenth International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), 北海道大学学術交流会館, 口頭, 2013年8月7日		
305	OT. Satoh, and M. Miura, Chelation-Assisted Direct C-H Functionalization Under Transition-Metal Catalysis, The 15th Asian Chemical Congress, Rwsorts World Sentosa, シンガポール, 口頭, 2013年8月19-24日		
306	OK. Hirano, Copper-Catalyzed Aminoboration of Alkenes with Bis(pinacolato)diboron and Hydroxylamines, 10th International Symposium on Carbanion Chemistry (ISCC-10), 同志社大学, 口頭, 2013年9月23日		
307	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Rhodium(III)-Catalyzed Oxidative Coupling of Phosphinoxyarenes with Alkynes and Alkenes, The Eighth International Symposium on		

	Integrated Synthesis (ISIS-8), 東大寺総合文化センター, ポスター, 2013 年 11 月 30 日		
308	OK. Hirano, M. Nishino, R. Odani, T. Satoh, and M. Miura, Copper-Mediated Dehydrogenative Biaryl Coupling of Benzoic Acid Derivatives, The Eighth International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-8), 東大寺総合文化センター, ポスター, 2013 年 11 月 30 日		
309	OM. Miura, Copper-Mediated Direct Cross-Coupling on Arenes and Heteroarenes, the 97th Canadian Chemistry Conference and Exhibition, Vancouver Convention Centre, カナダ, 口頭, 2014 年 6 月 4 日		
310	OM. Miura, Copper-Mediated Oxidative Aryl-Heteroaryl Coupling, the 2nd International Symposium on C-H Activation, レンヌ大学, フランス, 口頭, 2014 年 6 月 30 日		
311	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Synthesis of Benzophosphole Oxides via Silver- or Manganese-Mediated Dehydrogenative Annulation, XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014), ロイトン札幌, ポスター, 2014 年 7 月 14 日		
312	OK. Hirano, Copper-Catalyzed Regio- and Stereoselective Aminoboration and Hydroamination of Alkenes with Electrophilic Amination Reagents, International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC) 2014 Post-Symposium in Osaka, 大阪大学, 口頭, 2014 年 7 月 19 日		
313	OT. Satoh, and M. Miura, Rhodium- and Ruthenium-Catalyzed Regioselective C-H Functionalization, The 41st International Conference on Coordination Chemistry (ICCC41), About Suntec Singapore International Convention & Exhibition, シンガポール, 口頭, 2014 年 7 月 21 日		
314	OM. Miura, Transition Metal-Mediated Direct Couplings on Heteroarenes, 8th Asian-European Symposium on Metal-Mediated Efficient Organic Synthesis (AES-MMEOS 2014), Ilica Hotel, トルコ, 口頭, 2014 年 9 月 8 日		
315	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Direct Coupling of Phosphorus-Substituted Arenes with Alkynes, The 2nd International Conference on Organometallics and Catalysis (OM&Cat-2014), 東大寺総合文化センター, ポスター, 2014 年 10 月 27 日		
316	OY. Unoh, K. Hirano, T. Satoh, and M. Miura, Transition Metal-Catalyzed and -Mediated Oxidative Coupling of Phosphorus-Substituted Arenes, The Ninth International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-9), 淡路夢舞台国際会議場, 口頭, 2014 年 11 月 15 日		
317	OM. Miura, Direct Cross-Couplings on Heteroarenes Mediated by Copper and Nickel, 8th Singapore International Chemistry Conference 2014, National University of Singapore, シンガポール, 口頭, 2014 年 12 月 14-17 日		
318	OM. Miura, Transition-metal-catalyzed direct aromatic cross-coupling: An approach to GSC in organic synthesis, The 5th Asia-Oceania Conference on Green and Sustainable Chemistry, India Habitat Center, インド, 口頭, 2015 年 11 月 17 日		
319	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions, The 6 th Asian European Symposium on Metal Mediated Efficient Reactions, Singapore, 口頭, 2010年6月7-9日		
320	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions, 2nd Joint Symposium between Strasbourg and Osaka, Strasbourg (France), 口頭, 2010年6月30日-7月1日		
321	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions, Lectureship of National Science Council, National Taiwan University, Taipei (Taiwan), 口頭, 2010年9月23-29日		
322	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions by the Use of Grignard Reagents, 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010), Honolulu, 口頭, 2010 年 12 月 15-20 日		
323	ON. Kambe, Alkyl Fluorides as Promising Alkylating Reagents, 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010), Honolulu, 口頭, 2010 年 12 月 15-20 日		

324	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions Involving Radical Intermediates, 5th Pacific Symposium on Radical Chemistry, Wakayama, 口頭, 2011年9月25-28日		
325	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Toward sp^3 -, sp^2 -, and sp -Carbons, International Symposium on Catalysis & Fine Chemicals 2011 (C&FC2011), Nara, 口頭, 2011年12月4-8日		
326	OT. Iwasaki, R. Shimizu, R. Shen, J. Terao, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Cu-Catalyzed Cross-Coupling Reaction at Secondary Carbon Centers using Haloalkanes, The 10 th International Conference on Heteroatom Chemistry (ICHAC-10), Kyoto, ポスター, 2012年5月20-25日		
327	OA. Sanagawa, H. Kuniyasu, T. Iwasaki, K. Bobuatong, M. Ehara, and N. Kambe, Facile Ligand Exchange Reaction as a Convenient Tool for Measurement of $\Delta\Delta G$ of the Oxidative Addition of Benzoyl Halides to Palladium(0) Complexes, The 10 th International Conference on Heteroatom Chemistry (ICHAC-10), Kyoto, ポスター, 2012年5月20-25日		
328	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions, Cambodian Malaysian Chemical Conference (CMCC), Kuala Lumpur (Malaysian), 口頭, 2012年10月15-21日		
329	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed Alkylation Reactions, Cambodian Malaysian Chemical Conference (CMCC), Siem Reap (Cambodia), 口頭, 2012年10月15-21日		
330	OD. Shiro, H. Nagai, S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, T. Iwasaki, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Palladium-Catalyzed Decarbonylative Rearrangement and Cycloaddition of <i>N</i> -allenylcarbamochalcogenates, The 10 th International Conference on Heteroatom Chemistry (ICHAC-10), Kyoto, ポスター, 2012年5月20-25日		
331	OT. Iwasaki, K. Higashikawa, P. R. Vutukuri, W. W. S. Ho, Y. Fujimoto, K. Fukase, J. Terao, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Cross-Coupling of Bromocarboxylic Acids with Alkyl Grignard Reagents by Ni/1,3-Butadiene Catalyst: a Practical and Versatile Synthetic Route for Fatty Acids, The Twelfth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-12), Kyoto, ポスター, 2012年11月12-16日		
332	OA. Sanagawa, D. Nakane, H. Kuniyasu, T. Iwasaki, K. Bobuatong, Y. Lu, M. Ehara, and N. Kambe, Halogen Exchange Reactions between M-X and RC(O)X' (M = Pt and Pd) (X, X' = Cl, Br and I): Determination of Relative $\Delta\Delta G$ s of the Oxidative Addition of RC(O)X to M(0) Complexes, Evidence of σ -bond Metathesis by DFT Calculation, and Synthetic Application, The Twelfth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-12), Kyoto, ポスター, 2012年11月12-16日		
333	OD. Shiro, H. Nagai, S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, T. Iwasaki, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Palladium-Catalyzed Decarbonylative Rearrangement and Cycloaddition of Carbamoselenoates, The Twelfth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-12), Kyoto, ポスター, 2012年11月12-16日		
334	OT. Iwasaki, H. Takagawa, J. Terao, H. Kuniyasu, N. Kambe, Co-Catalyzed Cross-Coupling of Alkyl Halides with Alkyl Grignard Reagents, 5th Gratama Workshop, Tokyo, ポスター, 2013年5月29日-6月1日		
335	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed C-C Bond Formation on sp^3 -Carbons, University of Strasbourg, France, 口頭, 2013年6月28日		
336	ON. Kambe, Transition Metal Catalyzed C-C Bond Formation on sp^3 -Carbons, Dijon, France, 口頭, 2013年7月5日		
337	OT. Iwasaki, H. Takagawa, S. P. Singh, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Co-Catalyzed Cross-Coupling of Alkyl Halides with Tertiary Alkyl Grignard Reagents Using a 1,3-Butadiene Additive, 20th International Symposium on Olefin Metathesis and Related Chemistry (ISOM-20), Nara, ポスター, 2013年7月14-19日		
338	OT. Iwasaki, H. Takagawa, J. Terao, H. Kuniyasu, and N. Kambe, Co-Catalyzed Cross-Coupling		インド

	of Alkyl Halides with Alkyl Grignard Reagents, The Sixteenth International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), Hokkaido, ポスター, 2013年8月4-9日		
339	○ <u>A. Sanagawa</u> , H. Kuniyasu, B. Karan, L. Yunpeng, M. Ehara, and <u>N. Kambe</u> , Facile Halogen Exchange Reaction between Au(Cl)(L) and MeC(O)X(L = PPh ₃ and IPr; X = Br and I) via σ -Bond Metathesis Supported by DFT Calculation, The Sixteenth International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis (ISHHC-16), Hokkaido, ポスター, 2013年8月4-9日		
340	○ <u>T. Iwasaki</u> , H. Takagawa, S. P. Singh, H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Cross-Coupling of Tertiary Alkyl Grignard Reagents with Alkyl Halides Catalyzed by Cobalt Using 1,3-Butadiene as an Additive, 10th International Symposium on Carbanion Chemistry (ISCC-10), Kyoto, 口頭, 2013年9月23-26日		
341	○ <u>T. Iwasaki</u> , Y. Miyata, Y. Komatsu, H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Mechanistic Insight into the Rh-Catalyzed Cross-Coupling of Vinyl Ethers with Grignard Reagents, The Eighth International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-8), Nara, ポスター, 2013年11月29日-12月1日		インド
342	○ <u>D. Shiro</u> , S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Palladium-Catalyzed Addition of Carbamochalcogenates to Isocyanides, The Eighth International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-8), Nara, ポスター, 2013年11月29日-12月1日		
343	○ <u>N. Kambe</u> , Transition Metal Catalyzed C-C Bond Formation on sp ³ -Carbons, 23rd Annual Saudi-Japan Symposium-2013-Catalysts in Petroleum Refining & Petrochemicals-, Dhahran, Saudi Arabia, 口頭, 2013年12月2-3日		
344	○ <u>D. Shiro</u> , S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Palladium-Catalyzed Insertion of Isocyanides into Carbamochalcogenates, The XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014), Sapporo, ポスター, 2014年7月13-18日		
345	○ <u>T. Iwasaki</u> , H. Takagawa, K. Okamoto, S. P. Singh, H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , The Co-Catalyzed Cross-Coupling Reaction of Alkyl Halides with Alkyl Grignard Reagents. A New Route to Constructing Quaternary Carbon Centers, The XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014), Sapporo, ポスター, 2014年7月13-18日		
346	○ <u>N. Kambe</u> , Carbon-Carbon Bond Forming Reactions Catalyzed by Rhodium Complexes, The XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014), Sapporo, 口頭, 2014年7月13-18日		インド
347	○ <u>A. Sanagawa</u> , H. Kuniyasu, T. Nakajima, D. Nakane, <u>T. Iwasaki</u> , K. Bobuatong, Y. Lu, M. Ehara, and <u>N. Kambe</u> , σ -Bond Metatheses between Transition-Metal (Pt, Pd, Au and Ru) Halides and Acid Halides, The XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014), Sapporo, ポスター, 2014年7月13-18日		
348	○ <u>T. Iwasaki</u> , Diarylrhodates as Promising Active Catalyst for the Arylation of Vinyl Ethers with Grignard Reagents, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka "New Aspects of Reactive Organometallic Complexes of Transition Metals, Osaka, 口頭, 2014年7月19日		
349	○ <u>D. Shiro</u> , S.-i. Fujiwara, S. Tsuda, <u>T. Iwasaki</u> , H. Kuniyasu, and <u>N. Kambe</u> , Palladium-Catalyzed Insertion of Isocyanides into Carbamochalcogenates, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka "New Aspects of Reactive Organometallic Complexes of Transition Metals, Osaka, ポスター, 2014年7月19日		
350	○ <u>A. Sanagawa</u> , H. Kuniyasu, T. Nakajima, D. Nakane, <u>T. Iwasaki</u> , K. Bobuatong, Y. Lu, M. Ehara, and <u>N. Kambe</u> , σ -Bond Metatheses between Transition-Metal (Pt, Pd, Au and Ru) Halides and Acid Halides, ICOMC 2014 Post-Symposium in Osaka "New Aspects of Reactive Organometallic Complexes of Transition Metals, Osaka, ポスター, 2014年7月19日		

351	○ <u>T. Iwasaki</u> , Co-Catalyzed Cross-Coupling Reaction of Alkyl Halides with Alkyl Grignard Reagents, ETH-OU Joint-Symposium, Osaka, 口頭, 2014年10月9日		
352	○ <u>N. Kambe</u> , Transition Metal Catalyzed C-C Bond Formation on sp^2 -Carbons, Hunan University, Changsha, Hunan, China, 口頭, 2014年10月8日		
353	○ <u>N. Kambe</u> , Carbon-Carbon Bond Forming Reactions Catalyzed by Transition Metals Having Unsaturated Carbon Ligands, Vietnam Malaysia International Chemical Congress (VMICC), Hanoi, Vietnam, 口頭, 2014年11月7-9日		
354	○ <u>N. Kambe</u> , Cleavage and Formation of Carbon-Fluorine Bonds, International Symposium on Advances in the Chemistry of Heteroorganic Compounds, AJD University in Czeastochowa, Poland, 口頭, 2014年11月20日		
355	○ <u>N. Kambe</u> , Syntheses and Reactions of Organochalcogen Compounds Catalyzed by Transition Metals, IXXth International Symposium on Selected Problems of Chemistry of Acyclic and Cyclic Heteroorganic Compounds, the CMMS PAS in Lodz Poland, 口頭, 2014年11月21日		
356	○ <u>K. Fukumoto</u> , <u>A. Onoda</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Artificial Metalloenzyme Constructed by a Covalently-linked Rhodium(I) Complex within a Protein Matrix, Pacificchem2010, Honolulu, HI, ポスター、12月2010年		
357	○ <u>T. Hayashi</u> , Modification of Hemoproteins to Create New Bionanomaterials, Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2011, 台北, 台湾, 口頭, 11月2011年		
358	○ <u>A. Onoda</u> , Metalloprotein Engineering Toward Biomaterials and Biocatalysts: Hemoprotein Assemblies and Artificial Non-heme Metalloenzymes, International Symposium at Frontier Research Base for Global Young Researchers, 大阪大学、口頭、2010年15-16日		
359	○ <u>K. Fukumoto</u> , <u>A. Onoda</u> , <u>T. Hayashi</u> , Artificial Metalloenzyme Constructed by a Covalently-linked Rhodium(I) Complex within a Protein Matrix, Pacificchem2010, Honolulu Convention Center, ポスター、2010年12月17-19日		
360	○ <u>T. Hayashi</u> , Functionalization of Hemoproteins with Artificially Modified Heme, 15th International Symposium on Biological Inorganic Chemistry, British Columbia University, 口頭、2011年8月7-12日		
361	○ <u>K. Fukumoto</u> , An Artificial Metalloenzyme Covalently Embedding a Rhodium Complex in the Cavity of Nitrobindin Mutants towards Stereoselective Polymerization, ノーベル化学賞受賞科学者を交えた研究交流会、大阪大学、口頭、2013年7月19日		
362	○ <u>A. Onoda</u> , <u>K. Fukumoto</u> , and <u>T. Hayashi</u> , A Rhodium-Linked β -Barrel Protein as a Hybrid Biocatalyst for Phenylacetylene Polymerization, 16th International Symposium on Biological Inorganic Chemistry, the Alpexpo Center of Grenoble, ポスター、2013年7月22-26日		
363	○ <u>K. Fukumoto</u> , <u>A. Onoda</u> , and <u>T. Hayashi</u> , Polymerization of Phenylacetylene Catalyzed by Nitrobindin Mutants Embedding a Rhodium Complex, International Symposium on Relations between Homogeneous and Heterogeneous Catalysis, 北海道大学、ポスター、2013年8月4-9日		
364	<u>Y. Morimoto</u> , <u>S. Bunno</u> , <u>H. Sugimoto</u> , <u>N. Fujieda</u> , and ○ <u>S. Itoh</u> , Direct Hydroxylation of Aliphatic and Aromatic Compounds Catalyzed by Nickel Complexes, JSPS Japanese-German Graduate Externship Program Symposium, Osaka University, Japan, 招待講演, 2015年3月10-11日		
365	○ <u>S. Itoh</u> , Developing Mononuclear Copper Reaction Site for Oxygen Activation, Gordon Research Conference (Metals in Biology), Ventura, California, USA, 招待講演, 2015年1月25-30日		
366	○ <u>S. Itoh</u> , Oxygen Activation at Mononuclear Copper Reaction Center, 7 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-7), Gold Coast, Asturaria, 招待講演 (Keynote Lecture), 2014年11月30-12月5日		

367	○ <u>S. Itoh</u> , Molecular Oxygen Activation by Copper Proteins and Models, 9 th International Copper Meeting, Vivo Equense, Italy, 招待講演 (Prenary Lecture), 2014 年 10 月 5-10 日		
368	○ <u>S. Itoh</u> , Controlling Reactivity of Copper-Peroxide Complexes, 41 th International Conference on Coordination Chemistry (ICCC-41), Suntec Singapore Convention & Exhibition Center, Singapore, 招待講演, 2014 年 7 月 21-25 日		
369	○ <u>S. Itoh</u> , Nickel-complex Catalyzed Hydroxylation of Aliphatic and Aromatic Compounds, 2014 Canada-Japan Workshop (pre-ISHC), University of Ottawa, Canada, 招待講演, 2014 年 7 月 5-6 日		
370	○ <u>S. Itoh</u> , C-H Bond Activation by Copper Active-oxygen Complexes, International Conference on Hydrogen Atom Transfer (iCHAT 2014), Rome, Italy, 招待講演, 2014 年 6 月 22-26 日		
371	○ <u>S. Itoh</u> , Recent Advances in Copper-Dioxygen Chemistry, Symposium on Modern Trends in Inorganic Chemistry-XV, Indian Institute of Technology (IIT) Roorkee, Roorkee, India, 招待講演, 2013 年 12 月 13-16 日		
372	○ <u>Y. Morimoto</u> , and <u>S. Itoh</u> , Effect of Interaction Between Lewis Acid and Oxo-ligand of High-Valent Iron-Oxo Species, SeleCa (Selectivity in Chemo- and Biocatalysis) Symposium, Aachen, Germany, 招待講演, 2013 年 12 月 2-3 日		
373	○ <u>S. Itoh</u> , Tuning Copper(I)-Dioxygen Reactivity in a Simple Ligand System, SeleCa (Selectivity in Chemo- and Biocatalysis) Symposium, Aachen, Germany, 招待講演, 2013 年 12 月 2-3 日		
374	○ <u>S. Itoh</u> , Oxygen Activation Chemistry at Mononuclear Copper Reaction Center, The 4 th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC4), Jeju, South Korea, 招待講演, 2013 年 11 月 1-3 日		
375	○ <u>S. Itoh</u> , Copper Complexes of Non-innocent <i>b</i> -Diketiminato Ligands, 15 th Asian Chemical Congress (15ACC), Singapore, 招待講演, 2013 年 8 月 19-23 日		
376	○ <u>S. Itoh</u> , Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes Relevant to the Reactive Intermediate Involved in Copper Monooxygenases, 16 th International Conference of Biological Inorganic Chemistry (ICBIC16) Grenoble, France, 招待講演, 2013 年 7 月 22-26 日		
377	○ <u>S. Itoh</u> , Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes Relevant to the Reactive Intermediate Involved in Copper Monooxygenases, Japan-Taiwan-Singapore Joint Symposium on Coordination Chemistry, Osaka University, Toyonaka, Japan, 招待講演, 2013 年 8 月 19-23 日		
378	○ <u>S. Itoh</u> , Modeling Mononuclear Copper Reaction Centers of Copper Monooxygenases, The 6 th Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-6), Hong Kong, China, 招待講演, 2012 年 11 月 5-8 日		
379	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper(II) End-on Superoxo Complexes, 40 th International Conference of Coordination Chemistry (ICCC40), Valencia, Spain, 招待講演, 2012 年 9 月 9-13 日		
380	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper(II) Active-Oxygen Species, Symposium of the Activation of Dioxygen and Homogeneous Catalytic Oxidation (ADHOC 2012), Jerusalem, Israel, 招待講演, 2012 年 9 月 2-7 日		
381	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Copper(II)-Superoxo Complexes, 9 th Japan-China Joint Symposium on Metal Cluster Compounds, Fukuoka, Japan, 招待講演, 2012 年 8 月 13-16 日		
382	○ <u>S. Itoh</u> , Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes, Zing Conference on Coordination Chemistry, Xcaret, Mexico, 招待講演 (Keynote Lecture), 2011 年 12 月 9-13 日		
383	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper Active-Oxygen Complexes, The 3 rd Dalton Symposium on Bioinorganic Chemistry, Osaka University, Suita, Osaka, 招待講演, 2011 年 11		

	月 14 日		
384	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Copper(II) Alkylperoxo Complexes, 3 rd Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC-3), Indian Habitat Center, New Delhi, India, 招待講演, 2011 年 10 月 17-20 日		
385	○ <u>S. Itoh</u> , Aliphatic Hydroxylation Catalyzed by Nickel(II) Complexes, 14 th Asian Chemical Congress 2011, Queen Siriki National Convension Center, Bangkok, Thailand, 招待講演, 2011 年 9 月 5-8 日		
386	○ <u>S. Itoh</u> , Dioxygen Activation on Mononuclear Copper Reaction Center, International Symposium on Activation of Dioxygen and Homogeneous Catalytic Oxidation, Bankoku Shinryokan, Okinawa, 招待講演, 2011 年 6 月 4-8 日		
387	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes, France-Japan Coordination Chemistry Symposium, University of Rennes 1, Rennes, France, 招待講演, 2011 年 6 月 28-7 月 2 日		
388	○ <u>H. Sugimoto</u> , <u>K. Kitayama</u> , and <u>S. Itoh</u> , Preparation and Reactivity of Heavy Transition Metal Complexes with Multiply Bonded Chalcogen Atoms, Okazaki Symposium on Institute for Molecular Science: Functional metal complexes: Current and perspective, Okazaki, Japan, 招待講演, 2011 年 1 月 8 日		
389	○ <u>S. Itoh</u> , Modeling Mononuclear Copper Reaction Centers of Copper Monooxygenases and Copper Oxidases, PacifiChem2010 Sympsiom on Dioxygen Activation Chemistry and Catalytic Oxidation Reactions (#108), Hilton Hawaiian Village, Waikiki, Hawai, USA, December 招待講演, 2010 年 12 月 18-20 日		
390	○ <u>S. Itoh</u> , Monooxygenase Activity of Type-3 Copper Proteins, Japan-Taiwan 3 University Joint Seminar on Nanostrucutre and Advanced Material, Kagoshima University, Japan, 招待講演, 2010 年 11 月 24-27 日		
391	○ <u>S. Itoh</u> , Bioinorganic Chemistry of Dinuclear Copper(II) Peroxo Complexes, Post Symposium of AsBIC-5, National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan, 招待講演, 2010 年 11 月 6 日		
392	○ <u>S. Itoh</u> , Mononuclear Copper Active Oxygen Species, The 5 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-5), Ambassador Hotel, Kaohsiumg, Taiwan, 招待講演, 2010 年 11 月 2-5 日		
393	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper(II) End-on Superoxo Complex (Invited Lecture), 16 th Malaysian Chemical Congress, Putra World Trade Center, Kuala Lumpur, Malaysia, 招待講演, 2010 年 10 月 12-14 日		
394	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes, The 4 th Chem. Commun. International Symposium on Metal Oxygen Bioinspired Chemistry, Ewha Womans University, Seoul, Korea, 招待講演, 2010 年 10 月 1-2 日		
395	○ <u>N. Fujieda</u> , <u>T. Ikeda</u> , <u>S. Yabuta</u> , <u>M. Murata</u> , and <u>S. Itoh</u> , Chemical Function of Fungal Tyrosinase and Its Mutants, 60th Anniversary Conference on Coordination Chemistry, Osaka, Japan, 招待講演, 2010 年 9 月 27-30 日		
396	○ <u>S. Itoh</u> , Reactivity of Copper Active Complexes, 8th China-Japan Joint Synposium on Metal Cluster Compounds, Xi' an, China, 招待講演, 2010 年 8 月 10-14 日		
397	○ <u>S. Paria</u> , <u>Y. Morimoto</u> , <u>H. Sugimoto</u> , <u>N. Fujieda</u> , and <u>S. Itoh</u> , Spectroscopic Characterization and Reactivity Study of a Mononuclear Copper Terminal Oxygen Species Supported by a 'tren' Based Bulky Tetradentate Ligand, 7 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-7), Gold Coast, Asturaria, ポスター, 2014 年 11 月 30-12 月 5 日	○	
398	○ <u>T. Abe</u> , <u>Y. Morimoto</u> , <u>H. Sugimoto</u> , <u>N. Fujieda</u> , and <u>S. Itoh</u> , Gemometric Control of Nuclearity in Copper-Oxygen Complexes, 7 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-7), Gold Coast, Asturaria, ポスター, 2014 年 11 月 30-12 月 5 日	○	

399	○Y. Morimoto, S. Bunno, and S. Itoh, Direct Oxygenation of Benzene with H ₂ O ₂ Catalyzed by Bio-Inspired Nickel Complexes, 7 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-7), Gold Coast, Asturaria, ポスター, 2014 年 11 月 30-12 月 5 日	○	
400	○Y. Morimoto, S. Bunno, and S. Itoh, Direct Oxygenation of Benzene with H ₂ O ₂ Catalyzed by Bio-Inspired Nickel Complexes, 7 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-7), Gold Coast, Asturaria, ポスター, 2014 年 11 月 30-12 月 5 日	○	
401	○S. Itoh, S. Bunno, Y. Morimoto, T. Nagataki, H. Sugimoto and N. Fujieda, Catalytic Hydroxylation of Aliphatic and Aromatic Compounds Using Nickel Complex, The 19th International Symposium on Homogeneous Catalysis (ISHC-XIX), Ottawa Convention Center, Canada, ポスター, 2014 年 7 月 6-11 日	○	
402	○M. Asahi, S. Yamazaki, Z. Siroma, N. Fujiwara, T. Nagai, and S. Itoh, T. Ioroi, Electrocatalytic Oxygen Reduction Reaction of Cu Complexes Using Pyridylalkylamine Ligands in An Aqueous Buffer Solution, The 7th Asian Conference on Electrochemical Power Sources (ACEPS-7) Osaka, Japan, ポスター, 2014 年 11 月 24-27 日	○	
403	○S. Itoh, Y. Kobayashi, T. Tano, S. Paria, H. Sugimoto, and N. Fujieda, Mononuclear Copper Active Oxygen Complexes Relevant to the Reactive Intermediate Involved in Copper Monooxygenases, 16th International Conference of Biological Inorganic Chemistry (ICBIC16) Grenoble, France, 口頭, 2013 年 7 月 22-26 日	○	
404	○J. Takaichi, H. Sugimoto, K. Ohkubo, N. Fujieda, F. Shunichi, and S. Itoh, Oxidation Activity of Transition-Metal Phenoxyl Radical Complexes, Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2012, Osaka University, Suita, Osaka, ポスター, 2012 年 12 月 5-6 日	○	
405	○T. Oba, S. Yabuta, N. Fujieda, and S. Itoh, Structure-Based Engineering of Fungal Tyrosinase, Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2012, Osaka University, Suita, Osaka, ポスター, 2012 年 12 月 5-6 日	○	
406	○K. Ashikari, H. Sugimoto, and S. Itoh, Reactivity of Osmium-Oxo Complexes, Japan-Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2012, Osaka University, Suita, Osaka, ポスター, 2012 年 12 月 5-6 日	○	
407	○H. Sugimoto, K. Kitayama, K. Ashikari, and S. Itoh, Mechanism of <i>cis</i> -1,2-Dihydroxylation of Alkenes Catalyzed by TPA Osmium Complex, 12 th International Kyoto Conference on Organic Chemistry (IKCOC-12) Riga Royal Hotel Kyoto, Kyoto, Japan, ポスター, 2012 年 11 月 12-16 日	○	
408	○H. Sugimoto, K. Kitayama, S. Mori, and S. Itoh, Selective <i>cis</i> -1,2-Dihydroxylation of Alkenes Catalyzed by Os(tpa) Complex, 2 nd International Symposium on Molecular Activation, Nara, Japan, ポスター, 2012 年 11 月 11-12 日	○	
409	○T. Tano, H. Sugimoto, N. Fujieda, and S. Itoh, O-O Bond Cleavage of Alkyl Hydroperoxides by Copper Complexes (Poster) The 6 th Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-6) Hong Kong, China, ポスター, 2012 年 11 月 5-8 日	○	
410	○N. Fujieda, S. Yabuta, T. Ikeda, T. Oyama, N. Muraki, G. Kurisu, and S. Itoh, Structural Aspects for Tyrosinase Maturation Mechanism (Oral) The 6 th Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-6) Hong Kong, China, 口頭, 2012 年 11 月 5-8 日	○	
411	○T. Tano, H. Sugimoto, N. Fujieda, and S. Itoh, Activation Mechanism of Peroxides by Copper Complexes, 40 th International Conference of Coordination Chemistry (ICCC40), Valencia, Spain, ポスター, 2012 年 9 月 9-13 日	○	
412	○H. Sugimoto, K. Kitayama, K. Ashikari, and S. Itoh, Synthesis and Properties of Oxo-Carboxylato- and Dioxo-Bridged Diosmium Complexes of Tris(2-Pyridylmethyl)amine (Poster) 40 th International Conference of Coordination Chemistry (ICCC40) Valencia, Spain, ポスター, 2012 年 9 月 9-13 日	○	
413	○S. Itoh, D. Usa, J. Takaichi, H. Sugimoto, and N. Fujieda, Alkane Hydroxylation Reaction	○	

	Catalyzed by Transition-Metal Complexes with Novel Diketiminato Ligand Having Phenol Substituents, 1 st international Symposium on Molecular Activation, Awaji, Hyogo, ポスター, 2011年11月9-10日		
414	OY. Sun, Y. Gao, Y. Wang, Q. Huang, Y. Liu, and S. Itoh, Structural and Functional Models for the Active Site of Quercetin 2,3-Dioxygenase: Ligands Effects, PacificChem2010 Symposium on Dioxygen Activation Chemistry and Catalytic Oxidation Reactions (#108), Convention Center, Waikiki, Hawaii, USA, ポスター, 2010年12月18-20日	○	中国
415	OT. Tano, M. Kubo, T. Ogura, N. Fujieda, H. Sugimoto, and S. Itoh, Reactivity of Mononuclear Copper(II) Alkylperoxo Complexes, PacificChem2010 Symposium on Dioxygen Activation Chemistry and Catalytic Oxidation Reactions (#108), Convention Center, Waikiki, Hawaii, USA, ポスター, 2010年12月18-20日	○	
416	ON. Fujieda, A. Yakiyama, and S. Itoh, Monooxygenase Activity of Arthropod Hemocyanin Subunits, PacificChem2010 Symposium on Dioxygen Activation Chemistry and Catalytic Oxidation Reactions (#108), Convention Center, Waikiki, Hawaii, USA, ポスター, 2010年12月18-20日	○	
417	OH. Sugimoto, H. Tano, and S. Itoh, Sulfido and Selenido Molybdenum Complexes Related to the Hydroxylase Class of Molybdoenzymes (Poster), The 5 th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-5), Ambassador Hotel, Kaohsiung, Taiwan, ポスター, 2010年11月2-5日	○	
418	OH. Mitsunaga, L. Meissner, T. Palmen, T. Bamba, L. M. Blank, J. Buechs, and E. Fukusaki, Metabolome Analysis of the Poly (γ -Glutamic acid) Producing Bacteria, <i>Bacillus licheniformis</i> , 国際メタボロミクス学会 第10回国際会議要旨集 p.132 ポスターNo.P113, 鶴岡, 2014年6月24日		ドイツ

③国内会議・シンポジウム等における発表

・②と同様に記載してください。

整理番号	著者名、発表題名、学会名、開催場所、口頭・ポスター等の形式、論文等の番号、発表年月日等	査読	相手国名 (共同発表の場合)
1	○日比野愛子、本田孝祐、大竹久夫, 疎水性細菌を宿主とした有機溶媒中での難水溶性物質の変換, 第63回日本生物工学会大会, 東京, 口頭, 9月 2011年		
2	OX. Ye, 酒井隆彬、岡野憲司、廣田隆一、黒田章夫、本田孝祐、大竹久夫, Construction of Chimeric Glycolytic Pathway for Stoichiometrical Production of Lactic Acid Using thermophilic Enzymes, 2012年度 日本農芸化学会, 京都, 口頭, 3月 2012年		
3	○島史明、B. Schulte、H. Keul、M. Moeller、明石満、両親媒性ポリ(γ -グルタミン酸) からなる新規ポリマーベシクルの調製、第59回高分子研究発表会、兵庫県民会館、ポスター、2013年7月12日		ドイツ
4	○ピヤパコーン パッサモン、蜂須賀正紘、大西智之、赤木隆美、松岡秀樹、明石満, 疎水修飾ポリアミノ酸の両親媒構造制御によるユニマーノ粒子の形成と安定性評価, 第60回高分子年次大会, 大阪, 口頭, 5月 2011年		
5	○島史明、赤木隆美、宇都倫史、西 庸介、馬場昌範、明石満, 両親媒性ポリアミノ酸からなるナノ粒子の細胞内および体内動態評価, 第27回日本DDS学会, 東京, 口頭, 6月 2011年		
6	○赤木隆美、島史明、宇都倫史、馬場昌範、明石満, 疎水化ポリアミノ酸からなるナノ粒子ワクチンの細胞内および体内動態の評価, 第40回医用高分子シンポジウム, 大阪, 口頭, 7月 2011年		
7	○島史明, 宇都倫史, 赤木隆美, 馬場昌範, 明石満, 抗原内包ナノ粒子の細胞内・体内動態		

	評価によるナノ粒子ワクチンの免疫誘導メカニズム解析, 第 60 回高分子討論会, 岡山, 口頭, 9 月 2011 年		
8	○朱葉、赤木隆美、明石満, Preparation and Characterization of Nanoparticles Formation through Stereocomplexation between PGA-b-PLLA/ PGA-b-PDLA Block Copolymers, 第 60 回高分子討論会, 岡山, 口頭, 9 月 2011 年		
9	○古賀雄一、上原了、福田浩之、高野和文、金谷茂則, Burkholderia cepacia KWI-56 由来 リパーゼの光学選択メカニズムの解析, 第 10 回日本蛋白質科学会, 札幌, ポスター, 6 月 2010 年		
10	○X. Hong, E. Kanaya, Y. Koga, K. Takano, S. Kanaya, Characterization of a novel esterase isolated from leaf-branch compost using metagenomic approach, 第 33 回日本分子生物学会年会第 83 回日本生化学会大会, 神戸, ポスター, 12 月 2010 年		
11	○古賀雄一、上原了、福田浩之、高野和文、金谷茂則, 光学選択性が反転した変異リパーゼの熱力学的解析, 2011 年度日本農芸化学会, 京都, ポスター, 3 月 2011 年		
12	○S. Sulaiman, S. Yamato, E. Kanaya, J. Kim, Y. Koga, K. Takano, and S. Kanaya, Isolation of a Bacterial Cutinase Homolog with PET Degrading Activity from Leaf-Branch Compost Using Metagenomic Approach, 第 84 回日本生化学会, 京都, ポスター, 9 月 2011 年		
13	○M. Cheng, C. Angkawidjaja, Y. Koga, K. Takano, and S. Kanaya, Requirement of Lid2 for Interfacial Activation of a Family I.3 Lipase, 第 84 回日本生化学会, 京都, ポスター, 9 月 2011 年		
14	○X. Hong, E. Kanaya, Y. Koga, K. Takano, and S. Kanaya, Characterization of a Novel Esterase Isolated from Leaf-Branch Compost Using Metagenomic Approach, 第 84 回日本生化学会, 京都, ポスター, 9 月 2011 年		
15	○畑中昭伴、福田浩之、古賀雄一、高野和文、金谷茂則, リパーゼ KWI-56 の光学選択性改変の分子メカニズムの解明, 第 84 回日本生化学会, 京都, ポスター, 9 月 2011 年		
16	鷹巣守, ○阿野勇介, 茶谷直人, 二座配向基を利用したパラジウム触媒による芳香族および脂肪族炭素-水素結合の直接アルキニル化反応, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭, 1C9-35, 2011 年 3 月	○	
17	鷹巣守, ○兵頭功, 茶谷直人, 有機亜鉛試薬を用いた、ロジウム触媒によるアクリジンの 9 位選択的アリール化反応, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭, 1C8-52, 2011 年 3 月	○	
18	鷹巣守, ○尾上晶洋, 茶谷直人, ロジウム触媒を用いたキラルシロール合成: エナンチオ選択的な炭素-ケイ素結合活性化を経る不斉ケイ素中心の構築, 日本化学会第 91 春季年会, 神奈川大学, 口頭, 2C8-43, 2011 年 3 月	○	
19	○兵頭功, 鷹巣守, 茶谷直人, 遷移金属触媒による有機亜鉛試薬を用いた電子不足ヘテロ環の位置選択的炭素-水素結合官能基化反応, 第 58 回有機金属討論会, 名古屋大学, 口頭, O1-09, 2011 年 9 月	○	
20	鷹巣守, ○阿野勇介, 茶谷直人, パラジウム触媒を用いたカルボン酸誘導体の直接アルキニル化反応, 日本化学会第 92 春季年会, 慶応義塾大学, 口頭, 2K8-08, 2012 年 3 月	○	
21	○兵頭功, 鷹巣守, 茶谷直人, 遷移金属触媒および有機亜鉛試薬を用いた、ピリジン類の位置選択的炭素-水素結合官能基化反応, 日本化学会第 92 春季年会, 慶応義塾大学, 口頭, 3L2-39, 2012 年 3 月	○	
22	鷹巣守, ○尾上晶洋, 馬場克明, 金允珠, 喜多祐介, 茶谷直人, ロジウム触媒による炭素-ケイ素結合の切断を経るベンゾシロール誘導体の合成, 日本化学会第 92 春季年会, 慶応義塾大学, 口頭, 1L1-42, 2012 年 3 月	○	
23	鷹巣守, ○衣田裕孝, 喜多祐介, R. Emmanuelle, 森聖治, 茶谷直人, ロジウム触媒による炭素-シアノ結合の切断を経るニトリルのポリル化反応, 第 59 回有機金属化学討論会, 大阪大学, P2B-18, ポスター, 2012 年 9 月	○	

24	鷹巢守, ○衣田裕孝, 喜多祐介, 高橋弘旭, 森聖治, 茶谷直人, ロジウム触媒を用いたニトリルの脱シアノ的ポリル化反応に関する理論的研究, 日本化学会第 93 春季年会, 立命館大学, 口頭, 4F5-09, 2013 年 3 月	○	
25	鷹巢守, ○馬場克明, 茶谷直人, パラジウム触媒を用いた炭素-リン結合の切断を経るピフェニルホスフィン誘導体からのホスホール合成反応, 日本化学会第 93 春季年会, 立命館大学, 口頭, 1F6-09, 2013 年 3 月	○	
26	○相原佳典, 茶谷直人, ニッケル触媒を用いたハロゲン化アルキルによる芳香族アミドのオルト位炭素-水素結合の直接アルキル化, 第 112 回触媒討論会, 秋田大学, 口頭, 3I06, 2013 年 9 月	○	
27	○相原佳典, 茶谷直人, ニッケル触媒による芳香族及び脂肪族炭素-水素結合の直接官能基化, 日本化学会第 94 春季年会, 名古屋大学, 口頭, 3B1-11, 2014 年 3 月	○	
28	鷹巢守, ○中村圭介, 茶谷直人, ニッケル触媒を用いる芳香族アミドおよびカルバメートの炭素-窒素結合の直接変換反応, 日本化学会第 94 春季年会, 名古屋大学, 口頭, 3B1-33, 2014 年 3 月	○	
29	○相原佳典, 茶谷直人, ニッケル触媒を用いた脂肪族アミドの炭素-水素結合の直接アリール化, 第 34 回有機合成若手セミナー-明日の有機合成を担う人のために, 大阪大学, ポスター, P-3, 2014 年 8 月	○	
30	鷹巢守, ○中村圭介, 茶谷直人, ニッケル触媒によるアニリン誘導体の芳香族炭素-窒素結合の切断をともなった還元反応、およびポリル化反応, 第 4 回 CSJ 化学フェスタ 2014, タワーホール船堀, P5-030, ポスター, 2014 年 10 月	○	
31	○柴田要, 茶谷直人, 二座配向基を利用した、ロジウム触媒による芳香族アミドのオルト位炭素-水素結合と不飽和カルボニル化合物の反応, 第 4 回 CSJ 化学フェスタ 2014, タワーホール船堀, P8-052, ポスター, 2014 年 10 月	○	
32	○馬場克明, 鷹巢守, 茶谷直人, パラジウム触媒を用いた2回の炭素-リン結合切断を経るホスホール誘導体の合成, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学, 口頭, 1E4-07, 2015 年 3 月	○	
33	M. Tobisu, ○K. Nakamura, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Cross-Coupling Reaction of Aryl Carbamates with Organoboron Reagents via Cleavage of Carbon-Oxygen Bonds, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学, 口頭, 1E5-36, 2015 年 3 月	○	
34	M. Tobisu, ○H. Kinua, J. Hasegawa, and N. Chatani, Rhodium-Catalyzed Borylation of Aryl Esters and Ethers through the Cleavage of Carbon-Oxygen Bond, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学, 口頭, 1E5-37, 2015 年 3 月	○	
35	○K. Shibata, and N. Chatani, The Reaction of Aromatic Amides with α, β -Unsaturated Carbonyl Compounds Using a Bidentate Directing Group by a Rhodium Complex, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学, 口頭, 1E5-43, 2015 年 3 月	○	
36	M. Tobisu, ○T. Furukawa, and N. Chatani, Nickel-Catalyzed Borylation of Carbon-Hydrogen Bonds in Indole and Benzene Derivatives, 日本化学会第 95 春季年会, 日本大学, 口頭, 2E6-12, 2015 年 3 月	○	
37	○石堂圭一, 木下浩, 井原史雄, 仁平卓也, 昆虫病原性糸状菌 <i>Lecanicillium</i> sp.における宿主ベクター系の構築および ku80 遺伝子の破壊, 日本生物工学会 2011 年度大会, 東京, 口頭, 9 月 2011 年		
38	○石堂圭一, 木下浩, 井原史雄, 仁平卓也, 昆虫病原性糸状菌 <i>Lecanicillium</i> sp.における宿主ベクター系の構築, 日本農芸化学会 2011 年度大会, 京都, 口頭, 3 月 2011 年		
39	○石堂圭一, 五十嵐 康弘, 木下浩, 井原 史雄, 仁平卓也, 昆虫病原性糸状菌 <i>Verticillium lecanii</i> が生産する環状リポペプチド新規類縁体の単離及び構造解析, 日本農芸化学会 2010 年度大会, 東京, 口頭, 3 月 2010 年		

40	○H. Shahsavarani, M. Sugiyama, Y. Kaneko, C. Boonchird, and S. Harashima, Supraoptimal Temperatures Tolerance of <i>Saccharomyces Cerevisiae</i> Can Be Achieved by Over-Expression of <i>RSP5</i> Gene Encoding Ubiquitin Ligase, 日本生物工学会第 63 回大会, 東京, 口頭, 9 月 2011 年		
41	○J. Prasetyo, K. Naruse, T. Kato, C. Boonchird, and S. Harashima, E. Y. Park, Bio-Conversion of Paper Sludge to Biofuel by Simultaneous Saccharification and Fermentation Using Cellulose of Paper Sludge Origin and Thermotolerant <i>Saccharomyces Cerevisiae</i> TJ14, 日本生物工学会第 63 回大会, 東京, 口頭, 9 月 2011 年		
42	○S. Benjaphokee, D. Hasegawa, D. Yokota, and M. Sugiyama, Y. Kaneko, C. Boonchird, S. Harashima, Highly Efficient Bioethanol Production by a <i>Saccharomyces Cerevisiae</i> Strain with Multiple Stress Tolerance to High Temperature, Acid and Ethanol, 日本生物工学会第 63 回大会, 口頭, 9 月 2011 年		
43	○原島俊, 微生物育種におけるパラダイムシフトーゲノムのワードプロセッシング技術の開発と応用ー, 第 18 回日本生物工学会九州支部福岡大会, 福岡, 口頭, 12 月 2011 年		
44	○原島俊, 出芽酵母におけるゲノムのワードプロセッシング技術の開発と応用ー微生物育種工学のパラダイムシフトー, (一般財団法人)バイオインダストリー協会 発酵と代謝研究会講演会「酵母で拓く復興への道」, 東京, 口頭, 2 月 2012 年		
45	○T. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, 滝澤忍, 笹井宏明, 有機触媒を用いるエナンチオ選択的分子内 Rauhut-Currier 反応, 日本化学会第 92 春季年会, 慶應義塾大学, 口頭, 2012 年 3 月 25~28 日		ドイツ
46	○T. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, 滝澤忍, 笹井宏明, エナンチオ選択的 Rauhut-Currier 反応を用いる α -メチリデン- γ -ブチロラクトンの合成, 平成 25 年度有機合成化学北陸セミナー, 石川県青少年総合研修センター, 2013 年 10 月 4~5 日		ドイツ
47	○Y. D. Dhage, 竹中和浩, 滝澤忍, 笹井宏明, エナンチオ選択的 Pd(II)/Pd(IV)触媒によるアルケニルアルコールの酸化的分子内環化反応, Symposium on Molecular Chirality ASIA 2012, 九州大学, 口頭, 5 月 2012 年		
48	○竹中和浩, 笹井宏明, 銅触媒を活用するキラルスピロ骨格の簡便構築, 日本化学会第 92 春季年会, 慶應義塾大学, 口頭, 3 月 2012 年		
49	○T. M.-N. Nguyen, A. Grossmann, 滝澤忍, 笹井宏明, 有機触媒を用いるエナンチオ選択的分子内 Rauhut-Currier 反応, 日本化学会第 92 春季年会, 口頭, 慶應義塾大学, 3 月 2012 年		
50	○吉田泰志, 滝澤忍, 笹井宏明, 光学活性 1,2,3-トリアゾール誘導体の合成と不斉反応への応用, 日本化学会第 92 春季年会, 口頭, 慶應義塾大学, 3 月 2012 年		
51	○Y. D. Dhage, 竹中和浩, 滝澤忍, 笹井宏明, ナンチオ選択的 Pd(II)/Pd(IV)触媒によるアルケニルアルコールの酸化的分子内環化反応, 日本化学会第 92 春季年会, 口頭, 慶應義塾大学, 3 月 2012 年		
52	○高谷修平, 竹中和浩, 笹井宏明, キラルスピロピラクタムを基盤とする新規チオアミド型配位子の開発, 日本化学会第 92 春季年会, 口頭, 慶應義塾大学, 3 月 2012 年		
53	○秋田三俊, 谷垣勇剛, 竹中和浩, 滝澤忍, 笹井宏明, Pd-SPRIX 触媒を用いる 4-アルケン酸のエナンチオ選択的な分子内酸化的アリル位 C-H 結合エステル化反応, 日本化学会第 92 春季年会, 口頭, 慶應義塾大学, 3 月 2012 年		
54	○吉田泰志, 滝澤忍, 笹井宏明, 新規スピロトリアゾール誘導体の効率的合成法の開発と応用, 第 41 回複素環化学討論会, 崇城大学, ポスター, 10 月 2011 年		
55	高谷修平, 杵本啓輔, 竹中和浩, 笹井宏明, Development of Chiral Thioamide Ligands Based on a Spirobilactam, 第 58 回有機金属化学討論会, 名古屋大学, ポスター, 9 月 2011 年		
56	○秋田三俊, 谷垣勇剛, 竹中和浩, 滝澤忍, 笹井宏明, Enantioselective Cyclization of 4-Alkenoic Acids via an Oxidative Allylic C-H Esterification Promoted by Pd-SPRIX Catalyst, 第 58 回有機金属化学討論会, 名古屋大学, ポスター, 9 月 2011 年		

57	○吉田泰志、滝澤忍、笹井宏明、新規スピロトリアゾール誘導体の効率的合成法の開発と不斉反応への応用, Symposium on Molecular Chirality 2011, ポスター, 5月 2011年		
58	○秋田三俊、谷垣勇剛、竹中和浩、滝澤忍、笹井宏明、d-SPRIX 触媒による 4-アルケン酸の酸化のアリル位 C-H 結合エステル化を経るエナンチオ選択的環化反応, Symposium on Molecular Chirality 2011, ポスター, 5月 2011年		
59	○蓮井堅佑、田原一邦、M. Albrecht、戸部義人、デヒソロベンゾ[12]アヌレンコアをもつカテコラート配位子から形成されるカゴ型金属錯体に関する研究, 第4回有機 π 電子系シンポジウム, シーパル須磨(神戸市), ポスター, 11月 2010年		ドイツ
60	○棚橋宏将、W. Fegler、劔隼人、J. Okuda、真島和志、ビス(トリメチルシリル)シクロヘキサジエンを還元剤として発生させた低原子価タングステン種の反応性, 日本化学会第92春季年会, 慶應義塾大学, 口頭, 3月 2012年		ドイツ
61	○棚橋宏将、齊藤輝彦、W. Fegler、A. Sauer、劔隼人、J. Okuda、真島和志、ビス(トリメチルシリル)シクロヘキサジエンを還元剤とする低原子価タングステン錯体の合成と反応性、錯体化学会第 62 回討論会、富山大学、口頭、2012年 9月 21-23日		ドイツ
62	○田川莉紗、J. Kleemann、喜多祐介、J. Okuda、真島和志、メタラクラウンエーテル希土類錯体を触媒とする二酸化炭素とエポキシドの交互共重塔反応、日本化学会 第95春季年会、日本大学、口頭、2015年 3月 26-29日		ドイツ
63	○齊藤輝彦、棚橋宏将、劔隼人、真島和志、Redox Behavior of Tantalum Complexes with a-Diimine Ligands and Carbon Radical Generation through Ligand-Centered One Electron Redox Reaction、錯体化学会第 61 回討論会、岡山理科大学、ポスター、2011年 9月 18日		
64	○Yi Yang、藤井由佳、喜多祐介、真島和志、亜鉛クラスターによる効率的な環状カーボネート合成、日本化学会第92春季年会、慶應義塾大学、口頭、3月 2012年		
65	○齊藤輝彦、棚橋宏将、西山悠、劔隼人、真島和志、配位子の酸化還元挙動を利用した(α -ジイミン)タンタル錯体による有機ハロゲン化合物の活性化、日本化学会第92春季年会、慶應義塾大学、口頭、3月 2012年		
66	○林結希子、前川雄輔、安倉和志、岩崎孝紀、大嶋孝志、真島和志、Mechanistic Studies of Tetranuclear Zinc Cluster-catalyzed Transesterification、第58回有機金属化学討論会、名古屋大学、ポスター、9月 2011年		
67	○西山悠、齊藤輝彦、劔隼人、真島和志、 α -ジイミン配位子を有するニオブおよびタンタル錯体によるハロゲン化アルキルの触媒的脱ハロゲン化反応、錯体化学会第 62 回討論会、富山大学、ポスター、2012年 9月 21-23日		
68	○齊藤輝彦、西山悠、棚橋宏将、劔隼人、真島和志、Trimethylsilyl-Substituted Cyclohexadiene Derivatives as Highly Reactive Reducing Reagents to Early Transition Metal Species、第 60 回有機金属化学討論会、学習院大学、口頭、2013年 9月 12日		
69	○西山悠、齊藤輝彦、劔隼人、真島和志、 α -ジイミン配位子を有する 5 族金属錯体によるハロゲン化アルキルを基質とした触媒的ラジカル反応、錯体化学会第 63 回討論会、琉球大学、口頭、2013年 11月 2日		
70	○齊藤輝彦、N. Michael、劔隼人、A. John、真島和志、ビス(トリメチルシリル)ジアザシクロヘキサジエン誘導体による五族イミド錯体の還元反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014年 3月 30日		
71	○西山悠、齊藤輝彦、劔隼人、真島和志、 α -ジイミン配位子を有する5族遷移金属錯体を用いた触媒的ラジカル付加反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014年 3月 30日		
72	○西山悠、齊藤輝彦、劔隼人、真島和志、Radical Addition and Hydrodehalogenation Reactions Catalyzed by Niobium and Tantalum Complexes with Diimine Ligands、錯体化学会第 64 回討論会、中央大学、口頭、2014年 9月 18-20日		

73	○喜多祐介、山地健太、東田皓介、飯室敦弘、真島和志、イリジウム触媒によるイソキノリン類の不斉水素化反応における基質の塩形成の効果、日本化学会第95春季年会、日本大学、口頭、2015年3月26-29日		
74	○西山悠、齊藤輝彦、劔隼人、真島和志、Mechanistic Study for Radical Addition Reaction Catalyzed by Niobium and Tantalum Complexes with N,N'-Diaryl-1,4-diaza-1,3-butadiene Ligands、日本化学会第95春季年会、日本大学、口頭、2015年3月26-29日		
75	○西井祐二、前川雄亮、喜多祐介、真島和志、亜鉛四核クラスター触媒を用いた N,O-アシル転位反応によるアミド合成反応、錯体化学会第61回討論会、岡山理科大学、ポスター、2011年9月18日		
76	○山元啓司、劔隼人、真島和志、 η^2 -アルキン配位子を有するヘテロ元素架橋タンタル二核錯体の合成と反応性、錯体化学会第61回討論会、岡山理科大学、ポスター、2011年9月18日		
77	○長江春樹、劔隼人、真島和志、イミド架橋チタン二核錯体の合成と還元反応の検討、日本化学会第92春季年会、慶應義塾大学、口頭、3月2012年		
78	○飯室敦弘、山地健太、長野卓人、喜多祐介、真島和志、イリジウム錯体を用いたイソキノリン類の触媒的不斉水素化反応、日本化学会第92春季年会、慶應義塾大学、口頭、3月2012年		
79	○西井祐二、樋口貴史、喜多祐介、真島和志、亜鉛触媒を用いたアミド結合の加アルコール分解反応 およびセリン選択的ペプチド鎖切断反応、日本化学会第92春季年会、慶應義塾大学、口頭、3月2012年		
80	○山元啓司、安本考広、劔隼人、真島和志、イミノピロリル配位子を有する C ₁ -対称4族ハーフメタロセン型 錯体を用いた 1-ヘキセンのイソ選択的重合反応、第62回高分子年次大会、京都国際会館、ポスター、2013年5月29日		
81	○飯室敦弘、山地健太、長野卓人、喜多祐介、真島和志、触媒的不斉水素化反応を用いたテトラヒドロイソキノリンの新規合成法の開発、第1回 JACI/GSC シンポジウム、ベルサール神田、ポスター、2012年6月13日		
82	○飯室敦弘、山地健太、長野卓人、喜多祐介、真島和志、イリジウム錯体を用いたイソキノリン類の触媒的不斉水素化反応、日本プロセス化学会2012サマーシンポジウム、京都テルサ、ポスター、2012年7月19-20日		
83	○西井祐二、樋口貴史、喜多祐介、真島和志、亜鉛触媒を用いたアミド結合の加アルコール分解反応およびセリン選択的ペプチド結合切断反応、日本プロセス化学会2012サマーシンポジウム、京都テルサ、ポスター、2012年7月19-20日		
84	○長江春樹、劔隼人、真島和志、Syntheses and Redox Chemistry of Dinuclear Titanium Complexes Bridged by Imido Ligand、第59回有機金属化学討論会、大阪大学、ポスター、2012年9月14日		
85	○山元啓司、劔隼人、真島和志、 η^2 -アルキン配位子を有するアルコキシ架橋タンタル二核錯体の合成と反応性、錯体化学会第62回討論会、富山大学、口頭、2012年9月21-23日		
86	○棚橋宏将、劔隼人、真島和志、ビス(トリメチルシリル)シクロヘキサジエンを還元剤とするタングステン塩化物の多電子還元反応、第33回有機合成若手セミナー、神戸大学百年記念館六甲ホール、ポスター、2013年8月2日		
87	○長江春樹、柴田祐、劔隼人、真島和志、希土類金属錯体による複素芳香環化合物、および内部アルキンの炭素-水素結合活性化と重合反応への展開、第33回有機合成若手セミナー、神戸大学百年記念館六甲ホール、ポスター、2013年8月2日		
88	○長江春樹、柴田祐、劔隼人、真島和志、内部アルキンの炭素-水素結合活性化を用いた η^3 -プロパルギルイットリウム錯体の合成とイミン誘導体との反応、第60回有機金属化学討論会、学習院大学、ポスター、2013年9月12日		

89	○飯室敦弘、樋田翔士、喜多祐介、真島和志、Construction of Multiple Stereogenic Centers on Piperidines by Iridium-Catalyzed Asymmetric Hydrogenation of Pyridinium Salts、第 60 回有機金属化学討論会、学習院大学、ポスター、2013 年 9 月 12 日		
90	○棚橋宏将、劔隼人、真島和志、Synthesis and Reactions of (Imido)tungsten Alkylidene Complexes Bearing Diimine Ligand、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2 日		
91	○長江春樹、劔隼人、真島和志、イットリウムアミド錯体による炭素-水素結合活性化を鍵としたピリジン誘導体のアミノアルキル化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 30 日		
92	○西井祐二、尾之上昭弘、喜多祐介、真島和志、Sc(OTf) ₃ とボロン酸エステルの協働効果によるアミド化合物の触媒的エステル化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 30 日		
93	○樋口貴史、喜多祐介、真島和志、ルテニウム-亜鉛塩複合触媒系によるアミド結合の水素化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 30 日		
94	○長江春樹、劔隼人、真島和志、希土類金属アミド錯体を触媒とした 2 位に置換基を有するピリジン類の 6 位炭素-水素結合アミノアルキル化反応、第 31 回希土類討論会、タワーホール船堀、口頭、2014 年 5 月 22-23 日		
95	○棚橋宏将、劔隼人、真島和志、有機ケイ素化合物を用いた高活性な低原子価タングステン種発生法の開発、新学術領域研究分子活性化-有機分子触媒合同シンポジウム、北海道大学、ポスター、2014 年 6 月 20-21 日		
96	○長江春樹、劔隼人、真島和志、希土類金属錯体を用いたピリジン類の直截的な炭素-水素結合アミノアルキル化反応、新学術領域研究分子活性化-有機分子触媒合同シンポジウム、北海道大学、ポスター、2014 年 6 月 20-21 日		
97	○西井祐二、尾之上昭弘、喜多祐介、真島和志、Sc(OTf) ₃ とボロン酸エステルの協働効果によるアミド化合物の触媒的エステル化反応、第 34 回有機合成若手セミナー、大阪大学、ポスター、2014 年 8 月 5 日		
98	○樋口貴史、喜多祐介、真島和志、ルテニウム-亜鉛塩複合触媒系によるアミドの水素化反応、第 34 回有機合成若手セミナー、大阪大学、ポスター、2014 年 8 月 5 日		
99	○長江春樹、劔隼人、真島和志、イミド架橋チタンニ核錯体によるイミド配位子のオルト位選択的な炭素-水素結合のアルケニル化反応とその反応機構、錯体化学会第 64 回討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
100	○西井祐二、尾之上昭弘、喜多祐介、真島和志、Combined Catalytic System of Scandium Triflate and Boronic Ester for Amide Bond Cleavage、第 61 回有機金属化学討論会、九州大学、口頭、2014 年 9 月 23-25 日		
101	○棚橋宏将、劔隼人、真島和志、Tungsten Imido Alkylidene Complexes Bearing Diimine or <i>o</i> -Iminoquinone Ligands as Catalysts for Olefin Metathesis Reactions、第 61 回有機金属化学討論会、九州大学、ポスター、2014 年 9 月 23-25 日		
102	○山元啓司、劔隼人、真島和志、Alkyne Trimerization Reaction by Dinuclear Tantalum Complexes、第 61 回有機金属化学討論会、九州大学、ポスター、2014 年 9 月 23-25 日		
103	○樋口貴史、田川莉紗、喜多祐介、真島和志、ルテニウム-亜鉛塩複合触媒系によるアミドの水素化反応、第 106 回有機合成シンポジウム 2014 年[秋]、早稲田大学、口頭、2014 年 11 月 6-7 日		
104	○棚橋宏将、劔隼人、真島和志、Synthesis and Characterization of Paramagnetic Tungsten Imido Complexes Bearing α -Diimine Ligands、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		

105	○宇納佑斗、平野康次、佐藤哲也、三浦雅博、ロジウム触媒を用いる多置換安息香酸類と内部アルキンの酸化的カップリング、第2回 CSJ 化学フェスタ、東京工業大学大岡山キャンパス、ポスター、2012年10月16日		
106	○平野康次、求電子的アミノ化試薬を活用する新規触媒の炭素-窒素結合形成反応の開発、日本化学会第93春季年会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス、口頭、2013年3月23日		
107	○三浦雅博、遷移金属触媒を用いる直接的芳香族カップリングの新展開、日本化学会第93春季年会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス、口頭、2013年3月24日		
108	○平野康次、西野真佑子、小谷莉子、小田義朗、蜂谷齊士、佐藤哲也、三浦雅博、銅塩を用いた脱水素型クロスヘテロビアリアルカップリング、第60回有機金属化学討論会、学習院大学、口頭、2013年9月14日	○	
109	○宇納佑斗、平野康次、佐藤哲也、三浦雅博、酸化的環化による含リン縮合ヘテロ芳香族化合物の合成、日本化学会第94春季年会、名古屋大学、口頭、2014年3月28日		
110	○三浦雅博、佐藤哲也、平野康次、環境調和型脱水素クロスカップリングの新手法開発、第3回 JACI/GSC シンポジウム、東京国際フォーラム、口頭、2014年5月22-23日		
111	○宇納佑斗、平野康次、佐藤哲也、三浦雅博、銀塩あるいはマンガン塩を用いた酸化的ラジカル環化反応によるベンゾホスホール誘導体の合成、第61回有機金属化学討論会、九州大学、ポスター、2014年9月25日	○	
112	○神戸宣明、遷移金属触媒を利用するアルキル基導入の新手法、有機合成セミナー、神戸、口頭、2010年9月4日		
113	○神戸宣明、遷移金属触媒を用いるアルキル化を利用したオレフィン類の合成反応、(独)日本学術振興会創造機能化学第116委員会第1・第2・第3合同分科会、学士会館(東京)、口頭、2011年1月11日		
114	○岩崎孝紀、S. P. Singh P., W. W. S. Ho, 寺尾潤、国安均、神戸宣明、ニッケル触媒による官能基化されたアルキルハライドとアルキルグリニヤール試薬とのクロスカップリング反応、日本化学会第91春季年会、横浜(神奈川大学)、口頭、2011年3月26-29日		
115	○岩崎孝紀、S. P. Singh, P. R. Vutukuri, W. W. S. Ho, 藤本ゆかり、深瀬浩一、寺尾潤、国安均、神戸宣明、ニッケル触媒による官能基化されたアルキルハライドとアルキルグリニヤール試薬とのクロスカップリング反応、第37回反応と合成の進歩シンポジウム、徳島(あわぎんホール)、ポスター、2011年11月7-8日		
116	○岩崎孝紀、S. P. Singh, P. R. Vutukuri, W. W. S. Ho, 藤本ゆかり、深瀬浩一、寺尾潤、国安均、神戸宣明、ニッケル触媒によるアルキルハライドとアルキルグリニヤール試薬とのクロスカップリング反応における官能基共存性、第100回有機合成シンポジウム、東京(早稲田大学国際会議場)、口頭、2011年11月10-11日		
117	○岩崎孝紀、清水良平、沈如偉、寺尾潤、国安均、神戸宣明、共役ジエン添加剤存在下、銅触媒によるアルキルハライドとアルキルグリニヤール試薬とのクロスおよびマルチカップリング反応、日本化学会第92春季年会、神奈川(慶應義塾大学日吉キャンパス)、口頭、2012年3月25-28日、		
118	○城大輔、東田遼、上山明日美、藤原真一、津田進、岩崎孝紀、国安均、神戸宣明、セレノカーバメートの付加環化反応によるベンゾセレノフェン誘導体の合成、第45回有機金属若手の会 夏の学校、山梨(ホテルエバーグリーン富士)、ポスター、2012年7月9-11日		
119	○岩崎孝紀、沈如偉、寺尾潤、国安均、神戸宣明、1,3-ブタジエン存在下、銅触媒による活性化されていない2級アルキルヨードとアルキルグリニヤール試薬とのクロスカップリング反応、第59回有機金属化学討論会、大阪(大阪大学吹田キャンパス)、ポスター、2012年9月13-15日		
120	○岩崎孝紀、清水良平、沈如偉、寺尾潤、国安均、神戸宣明、銅触媒による二級ハロゲン化		

	アルキルのアルキル化およびブタジエンの1,2-ヒドロアルキル化による三級炭素中心の構築、石油学会2012年秋田大会、秋田（秋田キャッスルホテル）、口頭、2012年10月11-12日		
121	○岩崎孝紀、銅触媒によるクロスおよびマルチカップリング反応、第9回触媒相模セミナー、相模（東ソー東京研究センター）、口頭、2012年11月15-16日、		
122	○真川敦嗣、国安均、岩崎孝紀、神戸宣明、ルイス酸を用いるアルキンの分子内フルオロアシル化反応、日本化学会第93春季年会、滋賀（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）、口頭、2013年3月22-25日		
123	○岩崎孝紀、A. Ghaderi、福岡明日香、東川清一、V. P. Reddy、W. W. S. Ho、藤本ゆかり、深瀬浩一、寺尾潤、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、1,3-ブタジエン存在下、ニッケル触媒を用いるプロモカルボン酸類およびベンゾチアゾール類のアルキル化反応、日本化学会第93春季年会、滋賀（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）、口頭、2013年3月22-25日		
124	○岩崎孝紀、高川裕章、沈如偉、寺尾潤、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、遷移金属触媒による2級および3級炭素上でのクロスカップリング反応、第103回有機合成シンポジウム、東京都（慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂）、口頭、2013年6月5-6日		
125	○ <u>岩崎孝紀</u> 、今西怜子、清水良平、寺尾潤、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、高活性銅触媒によるアルキル-アルキルクロスカップリング反応、第2回JACI/GSCシンポジウム、大阪府（メルパルク大阪）、ポスター、2013年6月6-7日		
126	○岩崎孝紀、アニオン性遷移金属種を鍵活性種とする炭素-炭素結合形成反応、第2回新学術領域研究「反応集積化学」若手合宿、静岡県（八の坊）、口頭、2013年6月21-22日		
127	○真川敦嗣、国安均、岩崎孝紀、ボブアトング カラン、江原正博、 <u>神戸宣明</u> 、シグマ結合メタセシスを経る金ハライドのハロゲン交換反応：簡便な合成反応としての利用と機構に関するDFT計算、第60回有機金属化学討論会、東京（学習院大学）、ポスター、2013年9月12日-14日		
128	○城大輔、永井裕之、藤原眞一、津田進、岩崎孝紀、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、パラジウム触媒を用いたN-アレニルセレンカーバメートの環化付加反応と脱一酸化炭素を伴う転位反応、第3回CSJ化学フェスタ2013 —日本化学会秋季事業—、東京（タワーホール船堀）、ポスター、2013年10月21-23日		
129	○岩崎孝紀、高川裕章、S. P. Singh、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、コバルト触媒を用いた三級アルキルグリニヤール試薬とアルキルハライドとのクロスカップリング反応、第39回反応と合成の進歩シンポジウム、福岡（九州大学医学部百年講堂）、口頭、2013年11月5-6日		インド
130	○城大輔、藤原眞一、津田進、岩崎孝紀、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、パラジウム触媒を用いたカルコゲノカーバメートのイソシアニドへの付加反応、第40回有機典型元素化学討論会、大阪（近畿大学11月ホール）、ポスター、2013年12月5-7日		
131	○ T. Iwasaki, H. Takagawa, S. P. Singh, H. Kuniyasu, and N. Kambe、Co-Catalyzed Cross-Coupling of Alkyl Halides with Tertiary Alkyl Grignard Reagents Using a 1,3-Butadiene Additive、日本化学会第94春季年会、愛知県（名古屋大学東山キャンパス）、口頭、2014年3月27-30日		インド
132	○城大輔、藤原眞一、津田進、岩崎孝紀、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、パラジウム触媒を用いたイソシアニドのカルバモカルコゲナートへの挿入反応、日本化学会第94春季年会、愛知（名古屋大学東山キャンパス）、口頭、2014年3月27-30日		
133	○岩崎孝紀、第9族金属アニオン錯体を鍵活性種とする炭素-炭素結合形成反応、日本化学会第94春季年会Reaxys Prize Club Symposium in Japan 2014、愛知県（名古屋大学東山キャンパス）、口頭、2014年3月27-30日		
134	○岩崎孝紀、宮田佳典、秋本諒、国安均、 <u>神戸宣明</u> 、アニオン性ロジウム錯体による炭素-酸素結合の切断を伴うクロスカップリング反応、第105回有機合成シンポジウム、東京（東京工業大学大岡山キャンパス）、口頭、2014年6月10-11日		
135	○ <u>神戸宣明</u> 、炭素-フッ素結合の切断を伴う有機合成反応、学術振興会116委員会、学士会館、口頭、2014年6月2日		

136	○ <u>神戸宣明</u> 、遷移金属触媒を用いるホスフィン配位子を使わない炭素骨格構築法、日本プロセス化学会、船堀、東京、口頭、2014年7月31日、		
137	○ <u>岩崎孝紀</u> 、9族遷移金属アニオン性錯体触媒を用いた結合形成反応、第11回触媒化学融合研究センター講演会、茨城県(産業科学技術研究所触媒化学融合研究センター)、口頭、2014年7月28日		
138	○ <u>岩崎孝紀</u> 、 <u>宮田佳典</u> 、 <u>秋本諒</u> 、 <u>藤井佑樹</u> 、 <u>国安均</u> 、 <u>神戸宣明</u> 、ジアリールロデートを触媒活性種とする炭素—酸素結合の切断を伴うクロスカップリング反応、第61回有機金属化学討論会、福岡(九州大学)、口頭、2014年9月23-25日		
139	○ <u>神戸宣明</u> 、炭素配位子を利用する遷移金属触媒反応、有機合成化学協会北陸セミナー、福井県坂井市、口頭、2014年10月3日		
140	○ <u>神戸宣明</u> 、Transition Metal Catalyzed C-C Bond Forming Reactions Using Grignard Reagents、北興化学工業、口頭、2014年10月22日		
141	○ <u>岩崎孝紀</u> 、触媒反応開発研究と分析機器との繋がり、島津製作所・大研科学産業講演会、大阪府(島津製作所関西支社マルチホール)、口頭、2015年1月27日		
142	○ <u>神戸宣明</u> 、遷移金属アニオン性錯体を触媒活性種とするカップリング反応、分子・物質合成プラットフォーム、名古屋(名古屋大学)、口頭、2015年3月5-6日、		
143	○ <u>岩崎孝紀</u> 、アニオン性9族遷移金属錯体を鍵活性種とする結合形成反応、平成26年度第2回有機金属若手研究者の会、東京大学本郷キャンパス、口頭、2015年3月25日		
144	○ <u>岩崎孝紀</u> 、 <u>宮田佳典</u> 、 <u>秋本諒</u> 、 <u>藤井佑樹</u> 、 <u>国安均</u> 、 <u>神戸宣明</u> 、アニオン性ジアリールロジウムの化学的挙動—ビニルエーテル類とアリールグリニャール試薬とのクロスカップリング反応—、日本化学会第95春季年会、千葉(日本大学船橋キャンパス)、口頭、2015年3月26-29日		
145	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、タンパク質修飾可能なシクロペンタジエニル配位子を有するロジウム(I)錯体の合成、日本化学会第90春季年会、東大阪市、近畿大学、口頭、3月2010年		
146	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、アポニトロフォリン内部空間への共有結合を介したロジウム錯体の導入、日本化学会第91春季年会、神奈川大学横浜キャンパス、口頭、3月2011年		
147	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、タンパク質内部空間にロジウム錯体を導入した人工金属酵素の構築とその重合活性評価、日本化学会第92春季年会、慶応大学、口頭、3月2012年		
148	○ <u>立川賢悟</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、 β -バレルタンパク質空孔に Cp^* ロジウム錯体を固定化した人工生体触媒によるオレフィン水素化反応、日本化学会第95春季年会、日本大学、口頭、2015年3月26-29日		
149	○ <u>立川賢悟</u> 、 <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、 β -バレルタンパク質内部空間に Cp^* ロジウム錯体を導入したハイブリッド生体触媒の調製と反応性評価、錯体化学会第64回討論会、中央大学、ポスター、2014年9月18-20日		
150	○ <u>佐野洋平</u> 、 <u>木原佳彦</u> 、 <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、 β バレルタンパク質の空孔内に鉄二核錯体を導入した水素発生触媒の構築、錯体化学会第64回討論会、中央大学、口頭、2014年9月18-20日		
151	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、ニトロバインدين変異体にロジウム錯体を内包した人工金属酵素が支援する重合反応：ロジウム錯体近傍のアミノ酸置換による立体選択性への効果、日本化学会第93春季年会、立命館大学、口頭、2013年3月22-25日		
152	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、ロジウム錯体含有タンパク質触媒による重合反応、第二回CSJ化学フェスタ2012、東京工業大学、ポスター、2012年10月14-17日		
153	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、 β バレルタンパク質内孔にロジウム錯体を導入した人工生体触媒による重合反応、錯体化学会第62回討論会、富山大学、口頭、2012年9月21-23日		
154	○ <u>福本和貴</u> 、 <u>小野田晃</u> 、 <u>林高史</u> 、アポニトロフォリン内部空間への共有結合を介したロジウム錯体の導入、日本化学会第91春季年会、神奈川大学、口頭、2011年3月26-29日		

155	○小野田晃、佐野洋平、岡本泰典、福本和貴、林高史、非天然金属中心を導入した人工タンパク質触媒の創製、第4回バイオ関連化学シンポジウム、大阪大学、口頭、2010年9月24-26日		
156	○藤枝伸宇、池田拓也、藪田真太郎、伊東忍、チロシナーゼの銅イオン取り込みに伴う活性中心の形成機構、第37回生体分子科学討論会、山口大学、口頭、2010年6月18日、19日		
157	○杉本秀樹、田野裕幸、伊東忍、タングステン酵素活性中心モデルとしてのビス(ジチオレン)タングステン錯体-硫黄分子および水素分子の活性化、第20回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、徳島文理大学、口頭、2010年6月25日、26日		
158	○藤枝伸宇、池田拓也、藪田真太郎、伊東忍、銅の取り込みに伴うチロシナーゼ活性中心のチオエーテル架橋形成、第22回生体機能関連化学部会若手の会サマースクール、関ロッジ、三重、ポスター、2010年7月16日、17日		
159	○伊東忍、焼山亜紀、藤枝伸宇、節足動物由来の酸素運搬タンパク質ヘモシアニンを触媒とする芳香族水酸化反応、第106回触媒討論会、山梨大学、口頭、2010年9月18日		
160	○建元 奨、杉本秀樹、伊東忍、モリブデン含有水酸化酵素活性中心モデルとしてのモリブデン(VI)スルフィド/セレニド錯体の合成と反応性、第60回錯体化学討論会、大阪大学、口頭、2010年9月27-30日		
161	○北山和寛、杉本秀樹、伊東忍、TPA を配位子とする高原子価オスミウム-オキソ錯体の合成とその反応性、第60回錯体化学討論会、大阪大学、口頭、2010年9月27-30日		
162	○太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)アルキルペルオキソ錯体の反応性、第60回錯体化学討論会、大阪大学、口頭、2010年9月27-30日		
163	○大久保有理、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅を有する金属タンパク質の活性中心モデル-合成と性質、第60回錯体化学討論会、大阪大学、ポスター、2010年9月27-30日		
164	○畠田康平、杉本秀樹、伊東忍、ジチオレンを配位子とするオキソ-スルフィドタングステン(VI)錯体の合成と硫黄移動反応、第60回錯体化学討論会、大阪大学、ポスター、2010年9月27-30日		
165	○池田拓也、藤枝伸宇、藪田真太郎、伊東忍、ペルオキシニ核銅(II)活性種によって誘起されるチロシナーゼ活性中心の Cys-His 架橋形成、第25回生体機能関連化学シンポジウム、大阪大学、口頭、2010年9月24-26日		
166	○長谷川篤彦、藤枝伸宇、江口奈緒、伊東忍、ラクタマーゼをプラットフォームとした二核銅タンパク質の調製、第25回生体機能関連化学シンポジウム、大阪大学、ポスター、2010年9月24-26日		
167	○藪田真太郎、藤枝伸宇、池田拓也、伊東忍、金属置換型チロシナーゼの調製と特性評価、第25回生体機能関連化学シンポジウム、大阪大学、ポスター、2010年9月24-26日		
168	○北山和寛、杉本秀樹、伊東忍、オスミウム錯体を触媒とする過酸化水素によるオレフィンの cis-ジオール化反応、第43回酸化反応討論会、東京大学、口頭、2010年12-13日		
169	○太農哲朗、山口 悟、小倉尚志、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)アルキルペルオキソ錯体の酸化反応性、第43回酸化反応討論会、東京大学、ポスター、2010年12-13日		
170	○太農哲朗、山口 悟、小倉尚志、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)アルキルペルオキソ錯体の性質に及ぼす配位子の効果、日本化学会第91春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011年3月26-29日		
171	○太農哲朗、大久保敬、福住俊一、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)アルキルペルオキソ錯体による水素原子引き抜き反応機構、日本化学会第91春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011年3月26-29日		
172	○大久保有理、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、PHM 活性中心モデル銅錯体の配位挙動、日本化学会第91春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011年3月26-29日		
173	○畠田康平、池田拓也、伊東忍、スルフィド-およびジスルフィド-タングステン(VI)錯体の合成と硫黄原子移動反応、日本化学会第91春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011年3月		

	26-29 日		
174	北山和寛、○杉本秀樹、伊東忍、TPA-オスミウム錯体を触媒とする過酸化水素によるアルケンの選択的 cis-1, 2-ジオール化反応機構、日本化学会第 91 春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011 年 3 月 26-29 日		
175	○藤枝伸宇、池田拓也、藪田真太郎、柳澤幸子、小倉尚志、伊東忍、CuA 近傍のアミノ酸残基へ部位特異的変異導入をしたチロシナーゼにおけるペルオキシ活性酸素種の特性評価、日本化学会第 91 春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011 年 3 月 26-29 日		
176	○藪田真太郎、杉本秀樹、柳澤幸子、藤枝伸宇、小倉尚志、伊東忍、CuB 近傍のアミノ酸残基へ部位特異的変異を導入したチロシナーゼにおけるペルオキシ活性酸素種の特性評価、日本化学会第 91 春季年会(2011)、神奈川大学、口頭、2011 年 3 月 26-29 日		
177	○藤枝伸宇、長谷川篤彦、伊東忍、ラクタマーゼをプラットフォームとした二核銅酸化酵素の創製と反応性、第 38 回生体分子科学討論会、筑波大学、口頭、茨城、2011 年 6 月 23-24 日		
178	○藤枝伸宇、藪田真太郎、伊東忍、麴菌由来チロシナーゼの活性化機構、バイオ関連化学シンポジウム、つくば国際会議場、口頭、2011 年 9 月 12-14 日		
179	○藪田真太郎、柳澤幸子、池田拓也、藤枝伸宇、小倉尚志、伊東忍、二核銅 活性中心の第二配位圏に部位特異的変異を導入したチロシナーゼの特製評価、バイオ関連化学シンポジウム、つくば国際会議場、口頭、2011 年 9 月 12-14 日		
180	○大場拓郎、藤枝先生、伊東忍、ヒスチジン配位子に変異導入したチロシナーゼの調整と反応性、バイオ関連化学シンポジウム、つくば国際会議場、口頭、2011 年 9 月 12-14 日		
181	○江口奈緒、藤枝伸宇、伊東忍、金属置換型炭酸脱水素酵素の酸化還元特性評価、バイオ関連化学シンポジウム、つくば国際会議場、口頭、2011 年 9 月 12-14 日		
182	○H. Sugimoto, K. Kitayama, S. Itoh, Mechanism of cis-1,2-Dihydroxylation of Alkenes Catalyzed by TPA Osmium Complex, 第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、口頭、2011 年 9 月 17-19 日		
183	○太農哲朗、Mehmed Z. Ertem、杉本秀樹、藤枝伸宇、Christopher J. Cramer、伊東忍、アルキルペルオキシ銅(II)錯体による C-H 結合の活性化機構、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、口頭、2011 年 9 月 17-19 日		
184	○大久保有理、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅含有モノオキシゲナーゼの活性中心モデル錯体、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、口頭、2011 年 9 月 17-19 日		
185	○畠田康平、杉本秀樹、久保 稔、小倉尚志、伊東忍、ジチオレン配位子を有する末端カルコゲン-タングステン(VI)錯体の合成およびカルコゲン原子移動反応、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、口頭、2011 年 9 月 17-19 日		
186	○樋口亮史、杉本秀樹、伊東忍、ジチオレン連結型配位子を持つモリブデン(IV)錯体の合成と性質、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、ポスター、2011 年 9 月 17-19 日		
187	○芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、含窒素環状 4 座配位子を用いたオスミウム錯体の合成と性質、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、ポスター、2011 年 9 月 17-19 日		
188	○小林勇貴、杉本秀樹、藤枝伸宇、後藤 敬、伊東忍、嵩高い置換基を持つジアミン配位子を用いた遷移金属錯体の合成と性質、第 61 回錯体化学討論会、岡山理科大学、口頭、2011 年 9 月 17-19 日		
189	○太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、銅(I)錯体と過酸化物の反応挙動、第 44 回酸化反応討論会、大阪大学、口頭、2011 年 11 月 4-5 日		
190	○小林勇貴、杉本秀樹、藤枝伸宇、後藤 敬、伊東忍、嵩高い置換基を有するアルキルアミン系配位子を有する銅錯体の合成と反応性、第 44 回酸化反応討論会、大阪大学、ポスター、2011 年 11 月 4-5 日		

191	○芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、環状 4 座配位子のオスミウム錯体による C-H 結合の活性化、第 44 回酸化反応討論会、大阪大学、ポスター、2011 年 11 月 4-5 日		
192	○大場拓郎、藪田真太郎、藤枝伸宇、伊東忍、ヒスチジン配位子に変異を導入したチロシナーゼにおけるペルオキシ種の特性評価、第 44 回酸化反応討論会、大阪大学、ポスター、2011 年 11 月 4-5 日		
193	○江口奈緒、藤枝伸宇、伊東忍、銅置換型炭酸脱水素酵素の分光学的特性と酸化還元挙動、第 44 回酸化反応討論会、大阪大学、ポスター、2011 年 11 月 4-5 日		
194	○太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、銅錯体による過酸化物の活性化機構、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
195	○大久保有理、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)スーパーオキシ錯体の生成機構、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
196	大久保有理、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)スーパーオキシ錯体の反応性、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
197	○畠田康平、杉本秀樹、伊東忍、タングステンおよびモリブデン錯体と SH-および SeH-との反応、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
198	○樋口亮史、杉本秀樹、伊東忍、ジチオレン連結型配位子を有する遷移金属錯体の合成と機能、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
199	○藤枝伸宇、藪田真太郎、柳澤幸子、小倉尚志、伊東忍、麴菌由来チロシナーゼの第 2 配位圏に存在するアミノ酸残基の役割、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
200	○芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、アルケンの触媒的 cis-ジオール化反応における単核オスミウム(III)錯体の配位子効果、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
201	芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、オスミウム(III)錯体内における配位子の C-H 結合活性化、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
202	○江口奈緒、藤枝伸宇、伊東忍、炭酸脱水酵素を用いた人工ブルー銅タンパク質の創製、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
203	○大場拓郎、藪田真太郎、藤枝伸宇、柳澤幸子、小倉尚志、伊東忍、CuA 部位を構成するヒスチジン残基の再配置によるチロシナーゼの改質とペルオキシ活性種の特性評価、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
204	○小林勇貴、野村尚志、久保 稔、杉本秀樹、藤枝伸宇、小倉尚志、伊東忍、嵩高い置換基を持つ tren 誘導体を配位子とする単核銅活性酸素種の調製と反応性、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
205	○石濱謙一、藤枝伸宇、伊東忍、4 つのヒスチジンが配位した単核鉄含有タンパク質の特性評価、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
206	○高市 隼、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、フェノール基を有する β -ジケチミンート遷移金属錯体の合成と酸化触媒機能、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
207	○妻鳥友樹、杉本秀樹、伊東忍、オスミウム-TPA 錯体を触媒とするアルケンの cis-ジオール化反応に及ぼす酸化剤の効果、日本化学会第 92 春季年会、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
208	○三上明音、杉本秀樹、伊東忍、(μ -ジスルフィド)二核ルテニウム(III)錯体の合成と反応性、日本化学会第 92 春季年会(2012)、慶應義塾大学、口頭、2012 年 3 月 25-28 日		
209	○伊東忍、大久保有理、太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、Formation and C-H Bond Activation Mechanisms of A Mononuclear Copper(II) End-on Superoxo Complex、第 22 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、金沢大学、口頭、2012 年 5 月 31-6 月 1 日		

210	○藤枝伸宇、藪田真太郎、池田拓也、大山拓次、村木則文、栗栖源嗣、伊東忍、麴菌由来チロシナーゼの成熟化機構、第 39 回生体分子科学討論会、東北大学、口頭、2012 年 6 月 8-9 日		
211	○藤枝伸宇、藪田真太郎、池田拓也、大山拓次、村木則文、栗栖源嗣、伊東忍、菌類由来チロシナーゼの成熟過程、第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、北海道大学、口頭、2012 年 9 月 7-8 日		
212	○大場拓郎、藪田真太郎、藤枝伸宇、伊東忍、立体構造に基づいた変異導入によるチロシナーゼの改質、第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、北海道大学、ポスター、2012 年 9 月 7-8 日		
213	○森聖治、杉本秀樹、伊東忍、アルケンの Os(V)-TPA 触媒 cis-ジオール化反応に関する理論的研究、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、口頭、2012 年 9 月 21-23 日		
214	○小林勇貴、大久保敬、野村高志、久保稔、藤枝伸宇、杉本秀樹、福住俊一、後藤敬、小倉尚志、伊東忍、嵩高い置換基を持つ tren 系 4 座配位子を用いた活性酸素-単核遷移金属錯体の調製とその反応性、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、口頭、2012 年 9 月 21-23 日		
215	○T. Tano, H. Sugimoto, N. Fujieda, S. Itoh, Reactivity of Mononuclear Copper(II)-Superoxo Complex、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、口頭、2012 年 9 月 21-23 日		
216	○芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、窒素系配位子をもつ高原子価オスミウム錯体の合成と反応性、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、口頭、2012 年 9 月 21-23 日		
217	○石濱謙一、藤枝伸宇、谷口勇希、柳澤幸子、小倉尚志、伊東忍、4 つのヒスチジンが配位した単核鉄中心を有する人工金属酵素の創成、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、口頭、2012 年 9 月 21-23 日		
218	○三上明音、杉本秀樹、伊東忍、窒素系四座配位子を持つルテニウム硫黄錯体の合成と反応性、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、ポスター、2012 年 9 月 21-23 日		
219	○高市 隼、杉本秀樹、中野元裕、大久保敬、藤枝伸宇、関 修平、福住俊一、伊東忍、レドックス活性なサレン/ β -ジケチミネートハイブリット配位子を用いた遷移金属錯体の合成と性質、第 62 回錯体化学討論会、富山大学、ポスター、2012 年 9 月 21-23 日		
220	○太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、銅錯体による過酸化物の活性化機構、第 2 回 CSJ 化学フェスタ 2012、東京工業大学、ポスター、2012 年 10 月 14-17 日		
221	○伊東忍、太農哲朗、小林勇貴、杉本秀樹、藤枝伸宇、単核銅(II)スーパーオキソ錯体の反応性、第 45 回酸化反応討論会、名古屋市立大学、口頭、2012 年 11 月 16-17 日		
222	○高市隼、杉本秀樹、大久保敬、藤枝伸宇、福住俊一、伊東忍、遷移金属フェノキシルラジカル錯体の酸化活性、第 45 回酸化反応討論会、名古屋市立大学、ポスター、2012 年 11 月 16-17 日		
223	○芦刈健治、杉本秀樹、伊東忍、オスミウムオキソ錯体の反応性、第 45 回酸化反応討論会、名古屋市立大学、ポスター、2012 年 11 月 16-17 日		
224	○朝日将史、山崎眞一、城間純、藤原直子、永井つかさ、伊東忍、五百蔵勉、ピリジリアルキルアミン銅錯体の水溶液中における電気化学的酸素還元反応、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
225	○石濱謙一、藤枝伸宇、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる単核鉄中心をもつタンパク質の分光学的特性および反応性の評価、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
226	○信重和紀、石濱謙一、藤枝伸宇、伊東忍、パレル状タンパク質における金属結合サイト近傍の自己水酸化反応、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
227	○芦刈健治、三上明音、杉本秀樹、伊東忍、窒素系 4 座配位子を持つオスミウム(III)およびルテニウム(III)錯体を用いたアルケンの触媒的 cis-ジオール化反応、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		

228	○前田和紀、杉本秀樹、伊東忍、キラルな配位子を持つオスmium錯体の合成およびアルケンの cis-ジオール化反応、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
229	○小林勇貴、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(I)錯体と過酸化物との反応により生成する銅活性酸素錯体、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
230	○谷口勇希、藤枝伸宇、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる金属結合中心をもつタンパク質の金属置換体の調製と特性評価、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
231	○大場拓郎、藤枝伸宇、伊東忍、立体構造に基づいた変異導入による菌類チロシナーゼの改質、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
232	○太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、単核銅(II)スーパーオキシ錯体の反応性、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
233	○高市隼、大久保敬、杉本秀樹、藤枝伸宇、福住俊一、伊東忍、フェノラート基を有する beta-ジケチミネート Ni(II)錯体の性質と反応性、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
234	高市隼、大久保敬、杉本秀樹、藤枝伸宇、福住俊一、○伊東忍、レドックス活性な beta-ジケチミネート配位子を有する遷移金属錯体の合成と性質、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
235	○佐藤正典、杉本秀樹、伊東忍、5 配位モリブデン(VI)錯体とアニオン性配位子との反応、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
236	○阿部司、太農哲朗、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、1,4-ジアザシクロヘプタン骨格を有する 3 座配位子を用いて合成した銅(I)および銅(II)錯体の性質と反応性、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
237	○藤枝伸宇、藪田真太郎、池田拓也、伊東忍、チロシナーゼにおける二核銅中心の形成機構、日本化学会第 93 春季年会、立命館大学、口頭、2013 年 3 月 22-25 日		
238	○伊東忍、小林勇貴、杉本秀樹、藤枝伸宇、嵩高い配位子を用いた単核銅-活性酸素錯体の創成、第 23 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、武蔵野大学、口頭、2013 年 6 月 21-22 日		
239	○伊東忍、信重和紀、藤枝伸宇、単核鉄含有人工金属酸化酵素の創製、第 112 回触媒討論会、秋田大学、口頭、2013 年 9 月 18~20 日		
240	○石濱謙一、谷口勇希、藤枝伸宇、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる単核非ヘム鉄中心を有する人工金属酵素の作製、第 7 回バイオ関連シンポジウム、名古屋大学、ポスター、2013 年 9 月 27-29 日		
241	○谷口勇希、信重和紀、藤枝伸宇、伊東忍、活性部位周辺の自己水酸化反応を活用した新規金属タンパク質の調製、第 7 回バイオ関連シンポジウム、名古屋大学、ポスター、2013 年 9 月 27-29 日		
242	○朝日将史、山崎眞一、城間純、藤原直子、永井つかさ、伊東忍、五百蔵勉、緩衝液中におけるピリジルアルキルアミン銅錯体の電気化学的挙動と酸素還元反応、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		
243	○北條貴之、高市隼、森聖治、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、Ni(II)ビス(beta-ジケチミネート)錯体の構造および電子状態に関する DFT 計算、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		
244	○T. Tano, H. Sugimoto, K. Mieda, T. Ogura, and S. Itoh, Copper Complexes Supported by NNS Tridentate Ligands as Active Site Models of Copper Monooxygenase、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		

245	○S. Paria, Y. Kobayashi, H. Sugimoto, and S. Itoh, Spectroscopic Characterization of a Nickel-Oxygen Intermediate Supported by a Sterically Demanding Tetradentate Ligand, 第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		
246	○三上明音、杉本秀樹、伊東忍、含窒素四座配位子を有するルテニウムおよびオスミウム錯体の合成と各種酸化剤との反応、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、ポスター、2013 年 11 月 2-4 日		
247	○高市隼、浅原時泰、西脇永敏、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、レドック活性な β -ジケチミネート配位子を有する遷移金属錯体の合成と性質、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		
248	○森本祐麻、松本咲、伊東忍、アニリン部位を持つ新規銅錯体の合成と酸化還元特性、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、ポスター、2013 年 11 月 2-4 日		
249	○佐藤正典、杉本秀樹、小倉尚志、伊東忍、六配位オキソモリブデン(VI)錯体の合成と同定及び反応性、第 63 回錯体化学討論会、琉球大学、口頭、2013 年 11 月 2-4 日		
250	○谷口勇希、石濱謙一、藤枝伸宇、西河洋祐、栗栖源嗣、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる金属結合部位をもつタンパク質の酸化的自己修飾反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
251	高市隼、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、○伊東忍、レドックス活性な β -ジケチミネート配位子を有する銅錯体の性質、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
252	○桐山佳保里、杉本秀樹、伊東忍、窒素系六座配位子を有するオスミウム錯体の合成と酸化還元挙動、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
253	○森本祐麻、伊東忍、ピリジン架橋されたアニリンピンスー配位子を有する銅錯体の酸化還元特性、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
254	○金武孝幸、杉本秀樹、伊東忍、オスミウム(III)錯体を触媒とする過酸化水素による 1, 5-ジエンの酸化的環化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
255	○清水郁馬、森本祐麻、杉本秀樹、伊東忍、グアニジノ基を有する三座配位子を用いた銅錯体の合成とその反応性、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
256	○文野修至、森本祐麻、杉本秀樹、伊東忍、後周期遷移金属錯体を触媒とする過酸化水素によるアルカンの酸化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
257	○佐藤正典、杉本秀樹、伊東忍、DMSOR ファミリー活性中心のモデル錯体としてのオキソ-アルコラートモリブデン(VI)錯体の合成と性質、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
258	○前田和紀、杉本秀樹、伊東忍、窒素系四座配位子を用いたオスミウム錯体の構造制御、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
259	三上明音、○杉本秀樹、伊東忍、含窒素四座配位子を有するオスミウム錯体を用いたアルケンの 1, 2-アミノヒドロキシル化反応、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
260	○阿部 司、小倉高志、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、環状ジアミン骨格を有する窒素系三座配位子を用いて合成した銅錯体と種々の過酸化物との反応性、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
261	○太農哲朗、森本祐麻、杉本秀樹、伊東忍、単核銅(II)スーパーオキソ錯体の反応性に及ぼす配位子効果、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		

262	○花田真一、高市 隼、森本祐麻、杉本秀樹、伊東忍、 β -ジケチミネート骨格を有するトリアニオン性配位子を用いた Mn(III)錯体の合成とその反応性、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
263	石濱謙一、○藤枝伸宇、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる単核鉄中心をもつタンパク質の酸化能、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
264	○中野 巧、藤枝伸宇、伊東忍、超好熱菌由来タンパク質が持つ 4-His モチーフを利用した単核鉄及び銅中心の構築、日本化学会第 94 春季年会、名古屋大学、口頭、2014 年 3 月 27-30 日		
265	○藤枝伸宇、石濱謙一、谷口勇希、伊東忍、4 つのヒスチジンからなる単核非ヘム鉄中心をもつタンパク質の酸化能、第 41 回生体分子科学討論会、九州大学、口頭、2014 年 6 月 6-7 日		
266	○杉本秀樹、建元奨、豊田和男、伊東 忍、エン-1、2-ジチオラトを持つオキソスルフィドーおよびオキソセレニドーモリブデン(VI)錯体の合成、分光学的性質および反応性、第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、京都薬科大学、口頭、2014 年 6 月 14-15 日		
267	○中野巧、谷口勇希、藤枝伸宇、伊東忍、好熱菌由来タンパク質を用いた人工金属酵素の創製、第 8 回バイオ関連シンポジウム、岡山大学、ポスター、2014 年 9 月 11-13 日		
268	○谷口勇希、藤枝伸宇、伊東忍、新規人工金属酵素の創製を目指した翻訳後化学修飾反応の解析、第 8 回バイオ関連シンポジウム、岡山大学、口頭、2014 年 9 月 11-13 日		
269	○花田真一、森本祐麻、藤枝伸宇、杉本秀樹、伊東忍、2 つのフェノラートと β -ジケチミネートから成るトリアニオン性配位子を用いたマンガン錯体の合成と反応性、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
270	○阿部司、森本祐麻、藤枝伸宇、杉本秀樹、伊東忍、環状ジアミン系配位子を用いた銅-活性酸素錯体の構造制御、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
271	○佐藤正典、杉本秀樹、伊東忍、オキソ-アルコラトモリブデン(VI)錯体およびそのカルコゲン誘導体の生成と性質、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
272	○S. Paria、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、Spectroscopic Characterization and Reactivity Study of a Mononuclear Copper Terminal Oxygen Species Supported by a 'Tren' Based Bulky Tetradentate Ligand、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
273	○清水郁馬、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、強い電子供与能を有する三座配位子を用いた銅錯体の合成とその反応性、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
274	○桐山佳保里、杉本秀樹、伊東忍、六配位オスミウム錯体とアニオン性配位子との反応による七配位錯体の合成、第 64 回錯体化学討論会、中央大学、口頭、2014 年 9 月 18-20 日		
275	○伊東忍、藤枝伸宇、石濱謙一、谷口勇希、単核鉄活性中心を有する人工金属酵素の創製と酸化機能、第 114 回触媒討論会、広島大学、口頭、2014 年 9 月 25-27 日		
276	○文野修至、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、ニッケル錯体を触媒とする過酸化水素による芳香族化合物の水酸化反応、第 47 回酸化反応討論会、熊本大学、ポスター、2014 年 11 月 14-15 日		
277	○金武孝幸、杉本秀樹、伊東忍、オスミウム錯体を触媒とする過酸化水素による 1、5-ジエンの酸化的環化反応、第 47 回酸化反応討論会、熊本大学、ポスター、2014 年 11 月 14-15 日		
278	○S. Itoh、The Chemical Function of Bio-Related Copper Active-Oxygen Complexes、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
279	○杉本秀樹、金武孝幸、伊東忍、オスミウム錯体を触媒とする過酸化水素を用いた 1、5-ジエンの酸化的環化反応による立体選択的テトラヒドロフラン誘導体の合成、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		

280	谷口勇希、○藤枝伸宇、伊東忍、タンパク質銅活性中心近傍に変異導入したチロシン残基の酸化的自己修飾反応、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
281	○桐山佳保里、杉本秀樹、伊東忍、六配位オスミウム錯体とアニオン性外部配位子との反応挙動、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
282	○甲斐賢一郎、杉本秀樹、伊東忍、ビス(ピリジルメチル)シクロヘキサンジアミン系 4 座配位子を用いたオスミウム錯体の幾何構造制御と酸化還元挙動、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
283	○I. Shimizu, Y. Morimoto, H. Sugimoto, N. Fujieda, and S. Itoh, Synthesis of a Functional Ligand Consisting of 1,3,5-Triaminocyclohexane Platform and Its Copper Complexes、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
284	○T. Abe, Y. Morimoto, H. Sugimoto, N. Fujieda, and S. Itoh, Controlling Cu(I)/O ₂ -Reactivity by 1, 5-Diazacyclooctane-Based Ligands、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
285	○S. Paria, Y. Morimoto, H. Sugimoto, N. Fujieda, and S. Itoh, Generation, Characterization and Reactivity Study of a CuII(Hydroxide) Anilino-Radical Complex、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
286	○花田真一、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、β-ジケチミンート骨格を有するトリアニオン性四座配位子を用いたマンガン活性酸素錯体の合成と反応性、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
287	○藤田大輝、杉本秀樹、森本祐麻、伊東忍、二つのフェノラト部位を持つトリアニオン性β-ジケチミンート Rh(III)錯体の合成と性質、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
288	○佐藤正典、杉本秀樹、松本 崇、伊東忍、オキソ-アルコラトおよびオキソ-チオラトモリブデン(VI)錯体の合成と性質、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
289	○市橋春菜、中野巧、藤枝伸宇、伊東忍、たる型タンパク質を配位子とした第一遷移金属錯体の構造と性質、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
290	○中野巧、谷口勇希、藤枝伸宇、杉本秀樹、伊東忍、たる型タンパク質内部での単核ルテニウムおよびオスミウム活性中心の構築、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
291	○馬越恭平、藤枝伸宇、伊東忍、活性部位に変異導入した菌体由来のチロシナーゼの結晶構造、日本化学会第 95 春季年会(2015)、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
292	○井上佳亮、森本祐麻、杉本秀樹、藤枝伸宇、伊東忍、プロパンジアミン系二座配位子の銅(II)錯体と一酸化窒素の反応挙動、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
293	○Y. Morimoto, S. Bunno, and S. Itoh, Hydroxylation of Benzene and Its Derivatives with Hydrogen Peroxide Catalyzed by Ni Complexes、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
294	○西本安衣香、森本祐麻、伊東忍、カテコール部位をもつ三回対称性配位子により架橋された新規多核遷移金属錯体の合成、日本化学会第 95 春季年会、日本大学、口頭、2015 年 3 月 26-29 日		
294	○H. Mitsunaga, L. Meissner, T. Palmen, T. Bamba, J. Beuchs, and E. Fukusaki, "Metabolome Analysis Revealed the Effect of Carbon Catabolite Repression to Poly(γ-glutamic acid) Biosynthesis in <i>Bacillus licheniformis</i> " 日本農芸化学会年会、岡山、口頭、日本農芸化学会年会要旨集 p.67, 2015, Mar. 28.		ドイツ

(3) 共同セミナーの開催実績について記入してください。(詳細は別表2により記入してください。)

1	セミナー名	日独共同大学院プログラム・シンポジウム 選択的反応プロセスへの生物および化学的アプローチ	
	開催期間	2010. 09. 06 - 07	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 25 名 (教員等 12 名、 大学院学生 13 名)
		ドイツ側	合計 55 名 (教員等 20 名、 大学院学生 25 名、 その他 10 名)
2	セミナー名	日独共同大学院プログラム・Seleca ミニシンポジウム	
	開催期間	2011. 03. 17	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 3 名 (教員等 3 名、 大学院学生 0 名)
		ドイツ側	合計 49 名 (教員等 7 名、 大学院学生 42 名)
3	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・ミニシンポジウム 環境調和を指向した生物および化学プロセス	
	開催期間	2011. 04. 27	
	開催場所	大阪大学 吹田キャンパス サントリーメモリアルホール	
	参加者数	日本側	合計 118 名 (教員等 21 名、 大学院学生 97 名)
		ドイツ側	合計 10 名 (教員等 5 名、 大学院学生 5 名)
4	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・シンポジウム 不活性化化合物の触媒的活性化に関するシンポジウム	
	開催期間	2011. 09. 01 - 02	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 13 名 (教員等 8 名、 大学院学生 4 名、 その他 1 名)
		ドイツ側	合計 68 名 (教員等 20 名、 大学院学生 45 名、 その他 3 名)
5	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・ミニシンポジウム 環境調和を指向した生物および化学プロセスに関するミニシンポジウム	
	開催期間	2011. 12. 12	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 9 名 (教員等 1 名、 大学院学生 8 名)
		ドイツ側	合計 65 名 (教員等 20 名、 大学院学生 45 名)
6	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・ミニシンポジウム 環境調和を指向した生物および化学プロセス	
	開催期間	2012. 03. 12	
	開催場所	大阪大学 吹田キャンパス サントリーメモリアルホール	
	参加者数	日本側	合計 66 名 (教員等 20 名、 大学院学生 44 名、 その他 2 名)
		ドイツ側	合計 21 名 (教員等 10 名、 大学院学生 11 名)
7	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・シンポジウム グリーン成長のためのバイオテクノロジーと化学プロセス	
	開催期間	2012. 03. 13 - 14	
	開催場所	千里ライフサイエンスセンター	
	参加者数	日本側	合計 271 名 (教員等 48 名、 大学院学生 169 名、 その他 54 名)
		ドイツ側	合計 40 名 (教員等 18 名、 大学院学生 22 名)
8	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム共同シンポジウム 高選択的触媒開発のための生物学および化学的方法	
	開催期間	2012. 12. 03 - 05	
	開催場所	アーヘン工科大学	

	参加者数	日本側	合計 24 名 (教員等 9 名、 大学院学生 15 名)
		ドイツ側	合計 53 名 (教員等 9 名、 大学院学生 40 名、その他 4 名)
9	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム国際シンポジウム グリーン成長のためのバイオテクノロジーと化学プロセス	
	開催期間	2013. 03. 11 - 13	
	開催場所	大阪 千里ライフサイエンスセンター	
	参加者数	日本側	合計 282 名 (教員等 84 名、 大学院学生 180 名、その他 18 名)
		ドイツ側	合計 64 名 (教員等 31 名、 大学院学生 33 名)
10	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム共同シンポジウム 高選択的触媒開発のための生物学および化学的方法	
	開催期間	2013. 12. 03 - 05	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 21 名 (教員等 10 名、 大学院学生 11 名)
		ドイツ側	合計 52 名 (教員等 9 名、 大学院学生 40 名、その他 3 名)
11	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム国際シンポジウム グリーン成長のためのバイオテクノロジーと化学プロセス	
	開催期間	2014. 03. 10 - 11	
	開催場所	大阪 千里ライフサイエンスセンター	
	参加者数	日本側	合計 180 名 (教員等 60 名、 大学院学生 110 名、その他 10 名)
		ドイツ側	合計 23 名 (教員等 9 名、 大学院学生 14 名)
12	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラムシンポジウム 選択的反応プロセスへの生物および化学的アプローチ	
	開催期間	2014. 09. 02 - 04	
	開催場所	アーヘン工科大学	
	参加者数	日本側	合計 22 名 (教員等 9 名、 大学院学生 13 名)
		ドイツ側	合計 26 名 (教員等 7 名、 大学院学生 15 名、その他 4 名)
13	セミナー名	日本学術振興会日独共同大学院プログラム・シンポジウム グリーン成長のためのバイオテクノロジーと化学プロセス	
	開催期間	2015. 03. 09 - 11	
	開催場所	大阪大学 銀杏会館	
	参加者数	日本側	合計 76 名 (教員等 26 名、 大学院学生 45 名、その他 5 名)
		ドイツ側	合計 25 名 (教員等 10 名、 大学院学生 14 名、その他 1 名)

※ 6件以上となる場合には、適宜枠を追加して記入してください。

(4) 派遣・受入実績について記入してください。(詳細は別表3により記入してください。)

(名)

	派遣数(日本→ドイツ)			受入数(ドイツ→日本)		
	教員等	大学院生	合計	教員等	大学院生	合計
平成 22 年度	9	11	20	4	3	7
平成 23 年度	6	14	20	11	17	28
平成 24 年度	10	18	28	9	15	24
平成 25 年度	13	12	25	8	15	23
平成 26 年度	10	15	25	8	20	28